

はじめに

地域の子育て支援機関として非常に期待され全国展開されているファミリー・サポート・センターは、平成17年9月末現在434カ所を数えています。

財団法人女性労働協会は全国ファミリー・サポート・センターの運営を支援する事業を従来より行っているため、センターの実態調査は適切な間隔をあけて随時行っています。

平成17年度より厚生労働省では、ファミリー・サポート・センターで対応が難しい病児・病後児、又は急な出張等の際の宿泊を含む子どもの預かり等を実施する「緊急サポートネットワーク事業」を創設し、都道府県を単位とする全国26の社会福祉法人などの団体にこの事業を委託し、財団法人女性労働協会は、緊急サポートネットワーク事業の運営を支援する事業を受託しました。

ファミリー・サポート・センター事業と緊急サポートネットワーク事業は互いに補完しあう事業です。そのため相互の連携は重要不可欠と言っても過言ではなく、よりよい連携は地域の子育て支援機関としての両者をともにパワーアップすることは間違いありません。

そこで、今回の調査は、緊急サポートネットワーク事業である病児・病後児の預かり、宿泊などの実施状況などを前回の調査項目に追加して実施しました。

当初ファミリー・サポート・センターの相互援助活動の内容は、「保育施設の保育開始時まで（保育終了後）子供を預かること」などで病児・病後児の預かりや宿泊を伴う預かりなどは想定していませんでしたが、ファミリー・サポート・センターの実績が上がるにつれ、さまざまな依頼があり、病児・病後児の預かりや宿泊を伴う預かりなどもでてきました。

調査結果（平成17年4月～6月の相互援助活動の内容）をみると、「保育所・幼稚園のお迎え及び帰宅後の預かり」が最も多く29.6%で、「子どもの病気時の援助」は1.2%となっています。

センター編自由記述の「保育所に子どもを預けている親から一番要望の多いのは、『少しでも熱があると保育所ではみてもらえないのでそんなときセンターでみてもらえないか』です。病院との連携がないので回復期を除いてなかなか要望に応えることがで

きず、申し訳ない気持ちで断っているのが現状です」というのが実状と考えられます。

宿泊について依頼を「受け入れている」センターは8.1%で、このうち平成17年4月～6月の間に宿泊の依頼のあったセンターは52.0%でした。

このことから、前述のファミリー・サポート・センターと緊急サポートネットワーク事業の連携は、地域の子育ての充実をもたらすのみではなく、両者自身のパワーアップが図れることがお分かりいただけたと思います。

また、調査の主目的であるファミリー・サポート・センターの実態については、依頼会員、提供会員のプロフィール、センターの奮闘振りなど楽しく読んでいただけるとと思いますし、ファミリー・サポート・センターのみならず、緊急サポートネットワーク事業においても、さらに検討を加え運営に役立ててほしいと思っています。

最後になりましたが前回（平成14年度）に比べ回収率はやや下がったものの（センター調査100%→90.1%、提供会員調査76.0%→66.3%、依頼会員62.4%→51.3%）個人情報保護法の関係で調査が困難になったと聞く中では高い回収率であったことや、自由記載はほぼ全員の回答者が熱心にその思いを書いてくださったことにつきましても、お忙しい中、調査にご協力くださいましたファミリー・サポート・センターの皆様、会員の皆様に御礼申し上げます。

平成18年3月

財団法人女性労働協会

目 次

I 調査の概要	7
II 調査結果の概要	11
1 ファミリー・サポート・センター編	11
(1) センターの概要	11
① 運営方法、支部の有無と支部数、アドバイザーの人数、 サブリーダーの有無と人数	11
② 開設曜日・時間	12
(2) センターの業務、方法	13
① 会員の登録方法	13
② 援助依頼方法	13
③ 閉鎖時の対応方法	14
④ 緊急依頼の対応の有無と方法	14
⑤ 会員獲得のための広報の場所	15
⑥ 講習会、交流会について	15
(3) 規定	16
① 活動時間の制限の有無と規定時間	16
② 活動報酬	16
③ 援助対象児の年齢	16
(4) 会員について	17
① 会員数、年齢	17
② 男性会員	17
(5) 相互援助活動について	18
① 相互援助活動の内容	18
② 「病気」「宿泊」「障害児」の受け入れ	19
(6) 活動報酬の支払遅延や未払いについて	20
① 支払遅延・未払いの有無	20
② 回収のための対応	20
③ 回収できないときの対応	20
④ 回収のための特別な方法	20

(7) 地域の子育て関連施設や医療機関との連携	21
(8) 自治体からの報酬援助について	21
(9) 新たな活動予定とその内容	22
(10) 自由記述 ― 良かったこと、困ったこと、問題点	23
(11) 自由記述 ― 国や自治体への意見・要望	33
2 提供会員編	43
(1) 提供会員の概要	43
① 性別、年齢	43
② 同居の家族	44
③ 仕事の有無、仕事の形態・内容	45
④ 家族の中の提供会員の有無	45
(2) 援助活動の状況	46
① 提供会員になったきっかけ、理由	46
(3) 平成17年4月から6月の3ヶ月間の活動	47
① 援助依頼の有無、断ったことの有無	47
② 援助内容別活動件数	48
③ 援助時間	49
④ 援助活動による収入金額	49
⑤ 援助を行った場所、送迎の交通手段	49
(4) 過去1年間の援助活動の状況	50
① 緊急な援助活動	50
② 依頼者からの当日のキャンセル・変更の有無とその回数	53
③ 提供会員（自分）からの当日急なキャンセルについて	55
(5) 活動に対する評価	56
① 満足度、良いと思うこと、困っていること	56
(6) 自由記述 ― センターに関する意見・要望	58
(7) 自由記述 ― 子育てについての意見	65
3 依頼会員編	71
(1) 依頼会員の概要	71
① 性別・年齢	71
② 就労の有無、仕事の形態、勤務形態	72
③ 早出や残業、土・日・祝祭日の出勤	73
④ 同居の家族、子どもの数、子どもの年齢	73

⑤ センターに登録している子どもの数・子どもの年齢	74
⑥ センターに登録している子どもが昼間過ごす場所	74
⑦ 緊急時の保育を頼める人の有無	75
(2) 依頼会員としての活動	76
① 依頼会員になったきっかけ、理由	76
② 依頼状況	77
③ 援助は応じてもらえたか、断られた回数	78
④ 援助を断られた時の対応	78
⑤ 当日急な援助依頼、変更、キャンセルについて	79
⑥ 当日急な援助内容や時間の変更について	81
⑦ 早朝（8時前）、夜間（10時以降）の援助について	82
⑧ 土、日、祝日の援助依頼について	84
⑨ 宿泊依頼について	84
(3) 活動に対する評価	85
① 満足度、良いと思うこと、困っていること	85
(4) 自由記述－子育てについての意見・要望	87
(5) 自由記述－ファミリー・サポート・センター活動についての意見・要望	97
Ⅲ 集計表	113
Ⅳ 平成17年度ファミリー・サポート・センター活動状況調査票	

I 調査の概要

1. 目的

ファミリー・サポート・センターにおける相互援助活動についての実情や問題点を把握し、事業の円滑な運営に資する。

2. 調査の構成

ファミリー・サポート・センター調査、提供会員調査、依頼会員調査の3種類により構成。

3. 調査対象

平成16年度末現在既設のファミリー・サポート・センター（育児）344カ所を対象とする、各ファミリー・サポート・センター（支部を含む）にて提供会員10名、依頼会員10名を別紙基準により選定し調査対象とする（両方会員は対象としない）。

4. 調査方法

郵送自計による調査とする。

ファミリー・サポート・センターへ各調査を送付し、センターより調査対象の提供会員、依頼会員へ調査票を渡し、記入を依頼する。記入済みの調査票は直接女性労働協会へ返送。

5. 調査期間

平成17年9月1日～9月30日

6. 調査項目

(1) ファミリー・サポート・センター用調査

① 基本的属性

名称 所在地 施設名 所管部署課名 事業開始年

② センターの概要

運営方法 支部設置の有無と支部数 アドバイザーの人数 サブリーダーの有無と人数 センターの開設曜日と開設時間

- ③ センターの業務、方法
会員の登録方法 援助依頼方法 閉鎖時の対応方法 緊急依頼の対応の有無と方法
会員獲得のための広報の場所 講習会・交流会について
- ④ 規定
活動時間の制限の有無と規定時間 活動報酬 援助対象児の年齢
- ⑤ 会員について
会員数 年齢 男性会員
- ⑥ 相互援助活動について
相互援助活動の内容 「病児」「宿泊」「障害児」の受け入れ
- ⑦ 活動報酬について
支払遅延・未払いの有無 回収のための対応 回収できないときの対応 回収のための特別な方法
- ⑧ 地域の子育て関連施設や医療機関との連携
- ⑨ 自治体からの報酬援助について
- ⑩ 新たな活動予定とその内容
- ⑪ 自由記述－良かったこと、困ったこと、問題点
- ⑫ 自由記述－国や自治体等への意見・要望

(2) 提供会員用調査

- ① 提供会員の概要
性別 年齢 同居の家族 仕事の有無、仕事の形態・内容、家族の中の提供会員の有無
- ② 援助活動の状況
提供会員になったきっかけ・理由
- ③ 平成17年4月から6月の3ヶ月間の活動
援助依頼の有無、断ったことの有無、援助内容別活動件数 援助時間 援助活動による収入金額 援助を行った場所、送迎の交通手段
- ④ 過去1年間の援助活動の状況
緊急な援助活動 依頼者からの当日のキャンセル・変更の有無とその回数
提供会員（自分）からの当日急なキャンセルについて
- ⑤ 活動に対する評価
満足度、良いと思うこと、困っていること
- ⑥ 自由記述－センターに関する意見・要望

⑦ 自由記述一子育てについての意見

(3) 依頼会員用調査

① 依頼会員の概要

性別 年齢 就労の有無、仕事の形態、勤務形態 早出や残業、土・日・祝祭日の出勤 同居の家族・子どもの数・子どもの年齢 センターに登録している子どもの数・子どもの年齢 センターに登録している子どもが昼間過ごす場所 緊急時の保育を頼める人の有無

② 依頼会員としての活動

依頼会員になったきっかけ・理由 依頼状況 援助は応じてもらえたか、断られた回数 断られた時の対応 当日急な援助依頼、変更、キャンセルについて 当日急な援助内容や時間の変更について 早朝（8時前）、夜間（10時以降）の援助について 土、日、祝日の援助依頼について 宿泊依頼について

③ 活動に対する評価

満足度、良いと思うこと、困っていること

④ 自由記述一子育てについての意見・要望

⑤ ファミリー・サポート・センター活動への意見・要望

7. 有効回答数

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) センター | 310（配布数 344／有効回答率 90.1％） |
| (2) 提供会員 | 2,280（配布数 3,440／有効回答率 66.3％） |
| (3) 依頼会員 | 1,764（配布数 3,440／有効回答率 51.3％） |

選 定 方 法

各ファミリー・サポート・センターの提供会員、依頼会員それぞれの名簿から次の基準により10人を選定する。

1 会員数に応じて10人を選定する。

(会員数の下1桁は切り捨て、次の例により決めてください。)

(例) 提供会員98人、依頼会員190人の場合

提供会員 $90 \div 10 = 9$ 9人毎に抽出

依頼会員 $190 \div 10 = 19$ 19人毎に抽出

2 最初の調査対象者となる会員を決める

それぞれの会員名簿に一連番号をつけ、抽出率の数字の中から無作為に番号を選び、最初の調査対象者を決める。

(例) 上記の提供会員の場合は1番から9番の中で無作為の番号(例えば3とする)を選び、その番号の会員(3番目の会員)を最初の調査対象者とする。

依頼会員の場合は1番から19番までの中で無作為の番号(例えば9とする)を選び、その番号の会員(9番目の会員)を最初の調査対象者とする。

3 残りの9人を決める

最初の調査対象者が決まったら名簿の一連番号により抽出率ごとに抽出し調査対象とする。

(例) 提供会員 抽出率9人毎の場合(最初の調査対象者は3番)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
		↑									↑						
		最初の調査対象者									2番目の調査対象者						

(例) 依頼会員 抽出率19人毎の場合(最初の調査対象者は9番)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
								↑									
								最初の調査対象者									
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33			
									↑								
									2番目の調査対象者								

4 名簿上で選ばれた会員が、すでに会員でない場合等は、その次の会員を選定する。

Ⅱ 調査結果の概要

1. ファミリー・サポート・センター編

(1) センターの概要

① 運営方法、支部の有無と支部数、アドバイザーの人数、サブリーダーの有無と人数

回答のあった310センターの運営方法をみると、「直営」が53.2%、「委託」が46.8%であった。

委託先を見てみると、「社会福祉協議会」が54.5%と半数以上を占め、次いで「NPO法人」が19.3%となっている。また、支部があるセンターは5.8%である。

図1.1 センターの運営方法

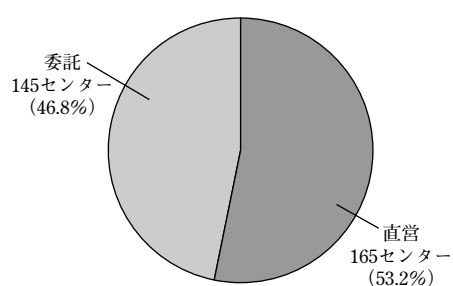


図1.2 委託先

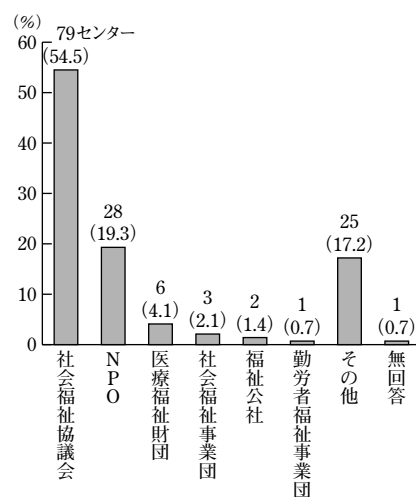
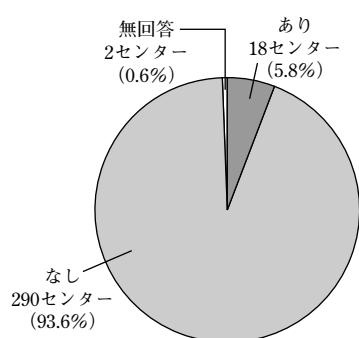


図1.3 支部の有無



アドバイザーの人数は、「2人」配置されているセンターが35.2%、「3人」が30.6%である。「5人以上」いるセンターも8.7%あった。

サブリーダーを置いているセンターは59.4%で、その人数は「1～5人」が49.5%である。

表1.1 アドバイザーの数

1人	35センター (11.3%)
2人	109センター (35.2%)
3人	95センター (30.6%)
4人	41センター (13.2%)
5人以上	27センター (8.7%)
無回答	3センター (1.0%)
合 計	310センター (100.0%)

図1.4 サブリーダーの有無

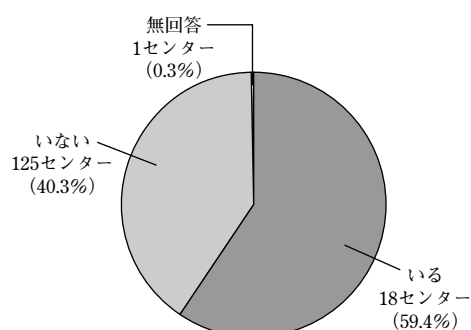


表1.2 サブリーダーの数

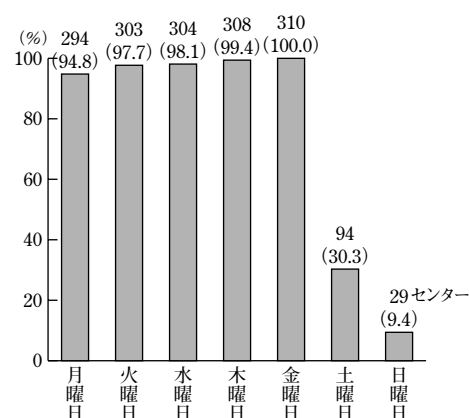
1～5人	91センター (49.5%)
6～10人	67センター (36.4%)
11～14人	17センター (9.2%)
15人以上	9センター (4.9%)
合 計	184センター (100.0%)

② 開設曜日・時間

開設している曜日は、「月～金曜日」までは9割を越えているが、「土曜日」は30.3%、「日曜日」は9.4%となっている。

開設している時間を記入してもらったところ、39種類の開設時間があった。そのうち最も多いのは「9時～17時」で33.3%、次いで「8時30分～17時」が16.2%、「8時30分～17時15分」は12.4%である。最も長時間開設しているセンターは、「7時30分～22時」である。

図1.5 開設している曜日（複数回答）

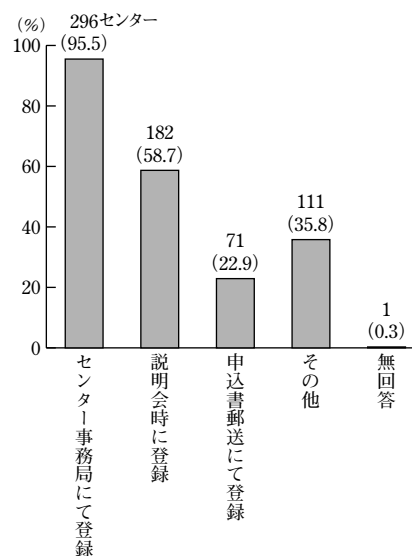


(2) センターの業務、方法

① 会員の登録方法（複数回答）

会員の登録の方法として、「センター事務局にて登録」が95.5%である。「説明会時に会場で登録」58.7%、「申込書郵送にて登録」22.9%、「その他」35.8%と、臨機応変に対応している。「その他」の登録方法は、「会員宅」「会員向け講習会時」「保育所」「公共の施設」などが挙げられている。

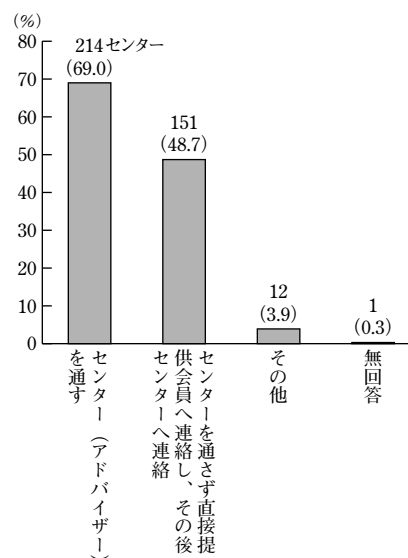
図1.6 会員の登録方法（複数回答）



② 援助依頼方法（複数回答）

事前打ち合わせが済んだ依頼会員の通常の依頼方法は、「センター（アドバイザー）をとおす」69.0%、「センターを通さず直接提供会員へ」48.7%である。

図1.7 援助依頼方法（複数回答）



③ 閉鎖時の対応方法（複数回答）

センター閉鎖時の依頼の対応方法は、「依頼会員が直接提供会員へ連絡する」が最も多く65.5%、「サブ・リーダーを通して」は27.4%、「その他」が34.8%である。

「その他」の対応は、「アドバイザーの携帯電話に転送」「留守番電話・ファックス・メールで受付」などである。

「対応しない」は7.4%となっている。

表1.3 センター閉鎖時の依頼への対応（複数回答）

依頼会員が直接提供会員へ連絡する	203センター（65.5%）
サブ・リーダーを通して	85センター（27.4%）
対応しない	23センター（7.4%）
その他	108センター（34.8%）
合 計	310センター（100.0%）

④ 緊急依頼の対応の有無と方法

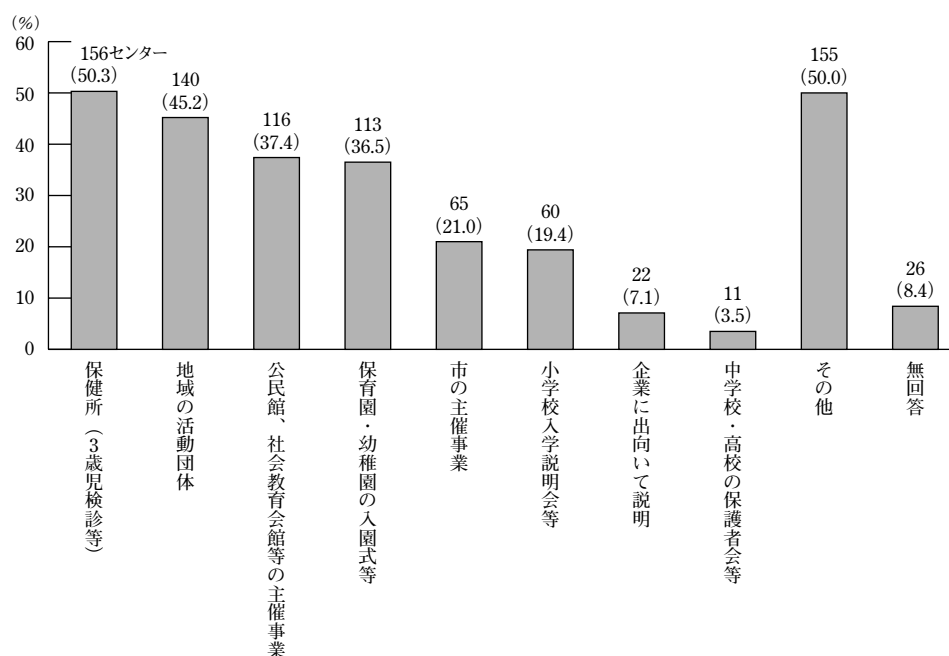
未登録者や事前打ち合わせの済んでいない会員の緊急依頼に対して、「対応する」が72.3%で「対応しない」は27.7%である。

「対応しない」と答えたセンターに対して、その場合どうしているかを尋ねたところ、「事前打ち合わせが済んでいない会員の場合は、至急事前打ち合わせを行い活動につなげている。未登録者の場合は、応じられないかもしれないがと断った上、援助できる会員を探し、援助可能な会員がいれば登録を行い援助活動につなげているが、援助可能な会員がない場合は、地域の子育て支援の情報を伝えている。」などと、未登録者の緊急依頼の場合は、援助活動につなげていけない場合もあるが、他の子育て支援機関を紹介するなどの対応をしている。

⑤ 会員獲得のための広報の場所（複数回答）

広報は、自治体の広報誌やセンターのチラシ配布の他、直接出向いて広報活動を行っている。広報活動の場所をあげると、「保健所（3歳児検診等）」50.3%、「地域の活動団体」45.2%、「公民館、社会教育会館等の主催事業」37.4%、「保育園・幼稚園の入園式等」36.5%、「市の主催事業」21.0%、「小学校入学説明会等」19.4%等である。その他の場所では園長会・児童民生員会議に出席、医療機関への説明、放課後児童クラブ入会説明会、保健センター、育児サークル、自治体主催事業などが挙げられている。

図1.8 広報活動の場所（複数回答）



⑥ 講習会、交流会について

提供会員として活動する前に講習会を受講修了することを義務づけているセンターは、79.4%である。時間数で最も多いのは56時間にのぼるが、平均8.3時間となっている。

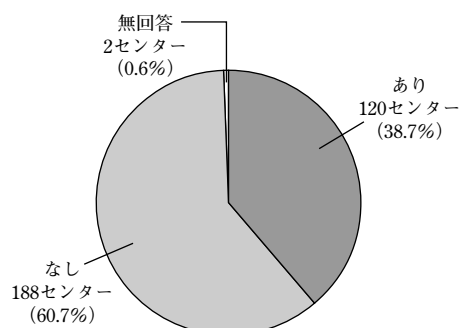
全体交流会を実施しているセンターは37.1%で、地区別交流会は39.1%のセンターで、会員別交流会は23.8%のセンターで実施している。

(3) 規定

① 活動時間の制限の有無と規定時間

提供会員の活動時間に制限を設けているかどうかは、「制限なし」60.7%、「制限あり」38.7%となっており、「制限あり」の活動時間をみると、17通りの活動時間があったが、そのうち最も多い活動時間は「6時～22時」で、制限のあるセンターの33.4%である。次いで「7時～21時」15.9%、「7時～22時」13.4%となっている。

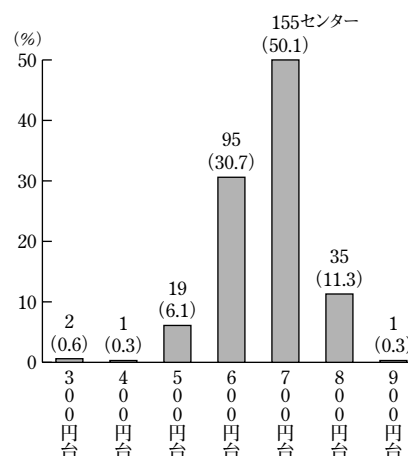
図1.9 提供会員の活動時間の制限の有無



② 活動報酬

基本料金で一番多いのは、1時間「700円台」で50.1%、次いで「600円台」30.7%、「800円台」が11.3%となっている。平日の時間外や土日の料金等基本外の時間は、「差額なし」とするセンターは少なく、「100円」増、「200円」増という対応を行っているセンターが多い。

図1.10 基本料金（平日時間内）



③ 援助対象児の年齢

援助対象児の年齢については、「制限を決めている」センターは93.9%で、「決めていない」センターは5.5%である。

下限の年齢は、「0歳」が36.9%と最も多く、次に「3ヶ月」が22.0%、「6ヶ月」が19.7%となっている。

上限の年齢は、「12歳」が62.3%、「10歳」が20.4%となっている。

(4) 会員について

① 会員数、年齢

回答のあった310センターの総会員数は、210,391人で、提供会員55,967人、依頼会員134,124人で依頼会員は提供会員の約2.4倍である。両方会員20,300人となっている。

提供会員の年齢を調べると、「50歳代」が一番多く29.2%、次いで「40歳代」25.8%、「60歳代」19.9%となっている。

依頼会員の年齢は、「30歳代」が圧倒的に多く67.2%、「40歳代」20.0%、「30歳未満」10.9%である。

両方会員は「30歳代」が65.5%、「40歳代」24.6%と依頼会員と同じ傾向である。

図1.16 会員数

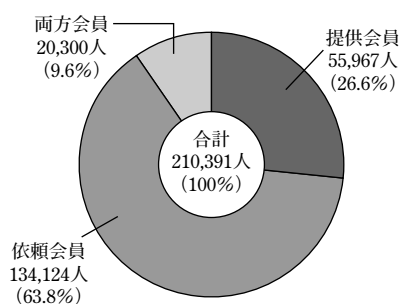
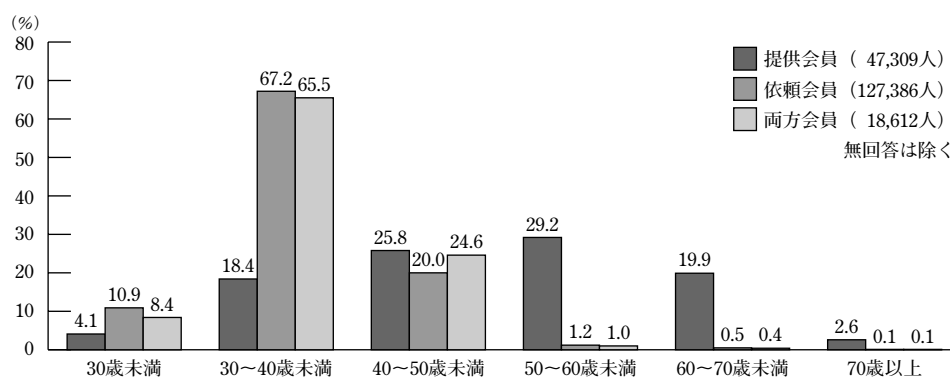


図1.17 会員の年齢



② 男性会員

男性会員の登録は309センター（99.7%）であり、男性会員数については307センター（99.0%）から回答があった。男性会員の総数は8,266人で、その内訳は、提供会員20.1%、依頼会員77.5%、両方会員2.4%である。提供会員の年齢をみると、269センターの回答1,341人のうち、「60歳代」46.1%、「50歳代」17.5%、「40歳代」9.5%である。

図1.18 男性会員の内訳
(回答 307 センター、無回答 2 センター)

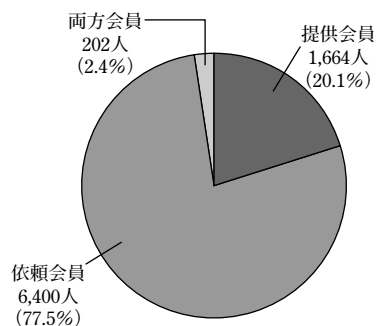
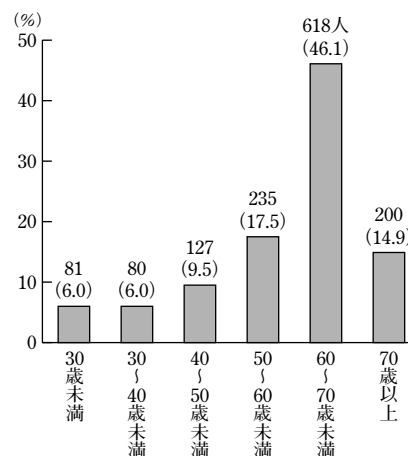


図1.19 男性提供会員年齢
(回答 269 センター、無回答 40 センター)

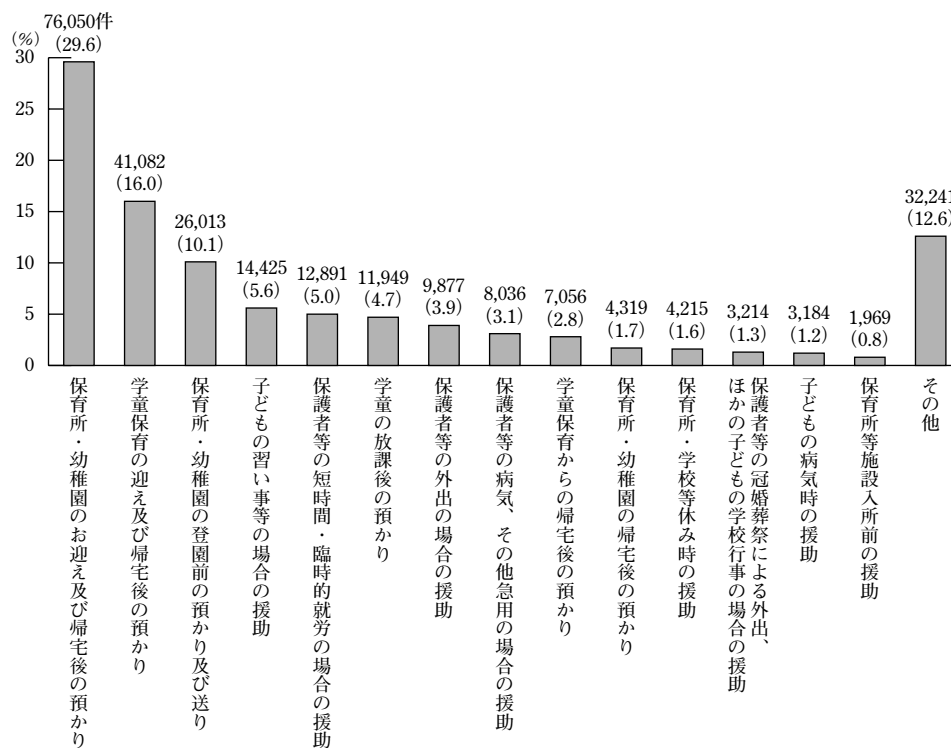


(5) 相互援助活動について

① 相互援助活動の内容

平成17年4月～6月の活動件数は合計256,521件である。活動内容は、「保育所・幼稚園のお迎え及び帰宅後の預かり」が29.6%、次いで「学童保育の迎え及び帰宅後の預かり」16.0%、「保育所・幼稚園登園前の預かり及び送り」10.1%、「子どもの習い事等の場合の援助」5.6%と続いている。

図1.20 平成17年4月～6月の活動内容別件数



② 「病気」「宿泊」「障害児」の受け入れ

病気

病気依頼を受け入れているのは84.2%である。受け入れ方法としては、「一定の基準を設けている（病気回復期）」64.0%、「基準は設けていないが提供会員が承諾すれば受け入れている」が30.3%である。またこの3ヶ月間で83.5%のセンターで病気の子どもの援助依頼があった。

図1.12 病気依頼の受け入れの有無

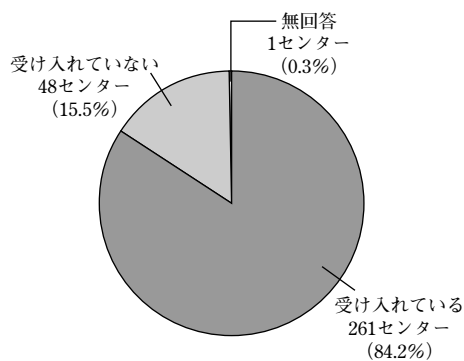


図1.13 病気受け入れの方法

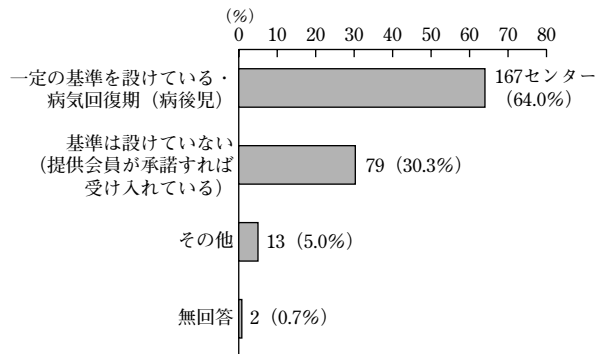
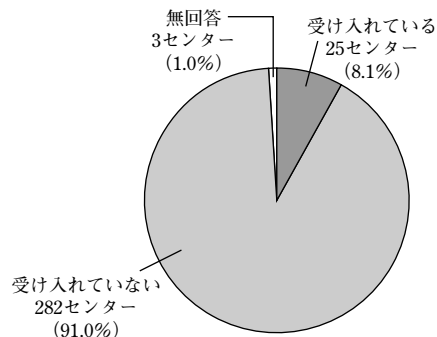


図1.11 宿泊依頼の受け入れの有無

宿泊

宿泊の依頼を受け入れているのは8.1%のセンターで、このうち3ヶ月間に宿泊の依頼があったセンターは52.0%である。



障害児

障害児の受け入れをしているセンターは97.1%である。受け入れ方法としては、「提供会員が承諾すれば受けている」が85.1%、「医療行為を伴わない場合」「軽度の障害」「面接を詳細にする」等12.6%のセンターが何らかの基準を設けている。

図1.14 障害児受け入れの有無

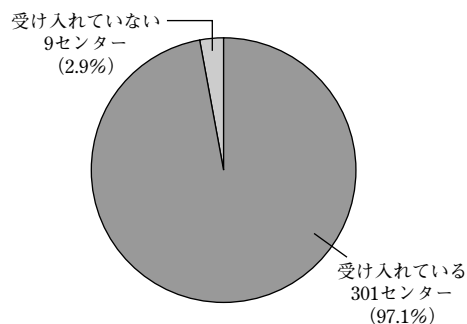
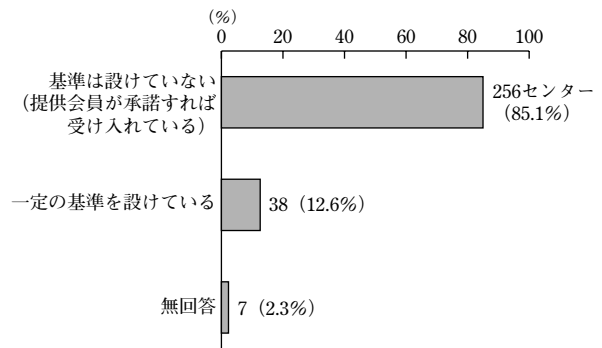


図1.15 障害児受け入れの方法（複数回答）



(6) 活動報酬の支払遅延や未払いについて

① 支払遅延・未払いの有無

活動報酬の支払遅延や未払いについてみると、「これまでこのようなことはない」は57.1%で、「あり」のセンターは41.9%である。

② 回収のための対応

回収のための対応について具体的に聞くと、支払遅延などを経験したことのある全てのセンターから、具体的な回答が寄せられた。「依頼会員に確認の電話や手紙、ファックスを送り応答を待った。提供会員と連絡を密に取り依頼会員と会える機会にアドバイザーが同行し交渉した。」など何度もさまざまな方法で制度の理解を求め説明を行っている。

③ 回収できないときの対応（複数回答）

回収できなかった場合どのようにしたかを尋ね、32センターから回答が寄せられた。「提供会員の無償の活動になった」が最も多く53.1%、「センター（又は市）が補助をした」12.5%、「その他」46.9%となっている。「その他」の対応は、「アドバイザーが負担した」などである。

表1.4 回収できなかった場合の対処（複数回答）

センター（又は市）が補助した	4センター（12.5%）
提供会員の無償の活動となった	17センター（53.1%）
その他	15センター（46.9%）
合 計	32センター（100.0%）

④ 回収のための特別な方法

回収のための特別な方法はなく、「まとめて支払うのではなく1回ずつ支払うよう依頼会員に話している」など、支払遅延や未払いが発生しないよう日ごろから「支払いはそのつど」を指導している。

(7) 地域の子育て関連施設や医療機関との連携

過去1年間に地域の子育て関連施設や医療機関との連携については、78.4%のセンターが実施しており、その方法は「電話等により個別に」69.1%、「会議の席上」57.6%である。

具体的にどのように連携しているか概要は次のとおりである。

各機関に寄せられた相談ケースでファミリーサポートへの協力依頼、子育て支援のネットワーク会議にて具体的な活動について情報交換、小学校のスクールカウンセラー・養護施設の指導員と子どもについての情報交換、児童相談所・児童福祉課・医療センター等でのケース会議、母親への育児支援として保健師・保育士・家庭児童相談員等との会議、ファミリーサポートで対応が難しいケース等社会福祉協議会等との連携等、子どもに関するさまざまな機関と会議をもつなど連携している。

図1.21 過去1年間の関連施設や医療機関との意見交換や情報交換の有無

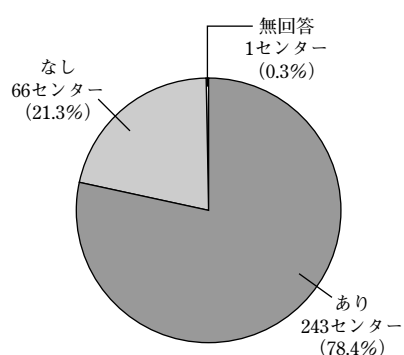
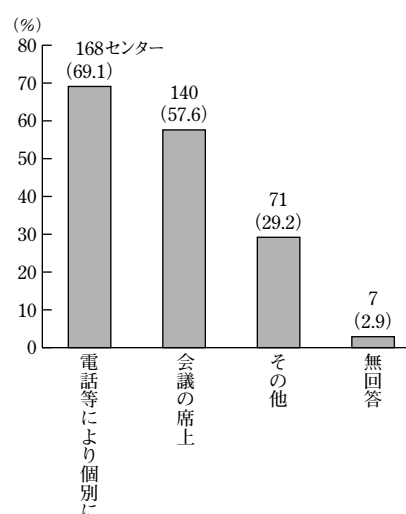


図1.22 意見・情報交換の方法（複数回答）



(8) 自治体からの報酬援助について

ファミリー・サポート・センターを利用するにあたり自治体からの援助の有無については、11.0%のセンターが利用者に対して援助をしている。その援助対象者は、「利用者全員」32.4%、「一人親家庭」32.4%、「母子家庭のみ」5.9%、「多胎児預かり」5.9%である。その他として障害を持つ子どものいる家庭、市町村民税非課税世帯などである。

図1.23 センターを利用するにあたり
自治体からの援助の有無

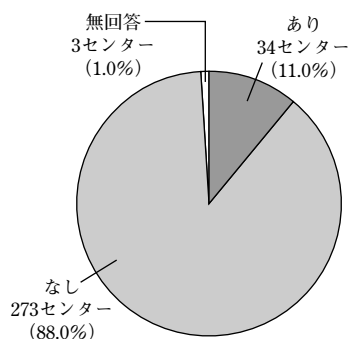
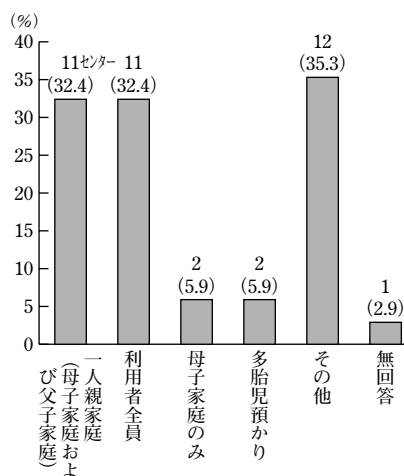


図1.24 補助対象者（複数回答）



(9) 新たな活動予定とその内容

ファミリー・サポート・センターに登録している会員を活用して、新たな活動を実施する予定については、19.4%のセンターがあると回答している。その内容については、「産後サポート事業」33.3%、「緊急サポートネットワーク事業」25.0%、「ひろば事業」21.7%、「ショートステイ事業」11.7%となっている。その他の事業として、「母子家庭等日常生活支援事業」「母親の病気時等の家事支援サービス」「公共施設等での集団託児」等がある。

図1.25 登録会員を活用して
新たな活動を実施する予定の有無

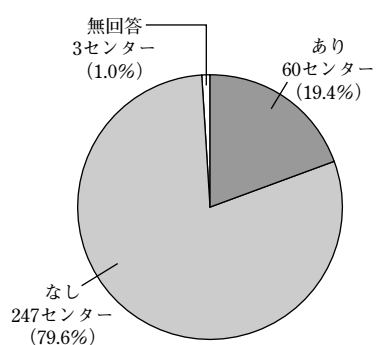
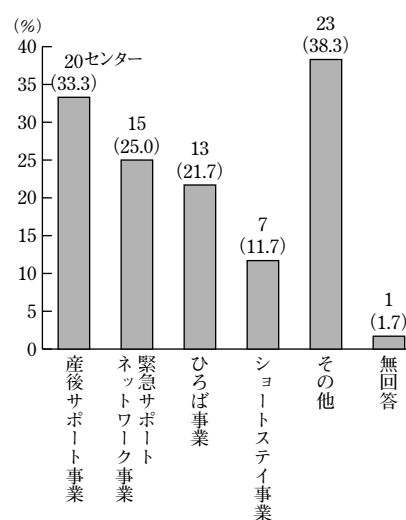


図1.26 事業の種類



(10) 自由記述—良かったこと、困ったこと、問題点

ファミリーサポートセンター活動を進めていく中で良かったこと、困ったこと、問題点などを自由に記述していただいたところ、殆どのセンターから声が寄せられた。

イ 良いこと

困難な事例がうまくいったこと、活動が会員に幸福をもたらしたこと、会員間の絆が深まりその輪が広がっていることを実感する感動が多くつづられている。また、事務局（アドバイザーなど）がスキルアップする喜びなども多くあった。

（困難な事例がうまくいったことや会員の幸せを実感する感動）

- ・ひとり親家庭でケース別対応ができたこと。
- ・予期せぬ子どもの病気でこれ以上親が会社を休めないとき、緊急にコーディネート出来た時。
- ・他機関との連携で、産後うつ、障害を持つ子どもの親などの支援で、明日に向かって生きる希望を見いだしてもらった時。
- ・会員から安心して仕事が出来、利用して良かった等、感謝の言葉をもらった時。
- ・伝染性の疾患の場合基本的には支援はお断りしているが、姉弟で先に姉が水痘になり、その時母親は仕事を休んでいたが、次にかかったときは休めず依頼をうけた。いつもの支援会員さんに連絡したら「自分の子どもは大きいし水痘もすんでいるのでお受けします」と快く引き受けていただきました。困った時すぐ手をさしのべてくださる方がいらっしゃるのには心強いです。
- ・活動の中で依頼者から感謝の言葉や家族以外に地域の中に助けてもらえる人がいることの安心感を聞き、また協力会員のやりがいや喜びの声をきいたりお互いの子どもが異年齢の交流ができ、経験の幅が広がったという感想を聞く。

- ・サポートをしてもらえるということで、3人目の出産を決心したと聞いた時うれしく思った。
- ・援助を求めている会員に該当する会員を紹介できた時や、その方々の関係が互いに思いやりのある良い関係を築いていると伺った時やはりうれしい。
- ・未熟児で生まれた子どもさん（当時1歳5ヶ月）の援助で、最初は笑顔がなかなか見られず抱っこしていても泣いていることが多かったけれど、2ヶ月目に入り笑顔が見られるようになったこと、抱っこをしなくても遊ぶようになったこと、ハイハイをするようになったことを嬉しそうに援助会員さんが報告されたので安心したのと同時に、この仕事につけて良かったとやりがいを感じた。又援助会員さんの力は大きいと思いました。（声かけ、絵本の読み聞かせ、うたを歌うなどいろんなことをしてくれました）
- ・各家庭に必要な依頼内容に沿って援助できること。
- ・就労している母親が子どもの迎えなど不安を抱くことなく仕事に取り組んでいることを聞くと、この制度があり良かったと感じます。
- ・利用会員から安心して仕事ができ、近くに身内のいない会員にとってはとても頼りになっている。又保育施設等と違い協力会員宅で1対1で預けることから、家庭的な雰囲気です。又子育ての悩みなど気軽に相談なさっているようです。反対に協力会員さんからはセンターを介して、自分の子育て経験の力を活かせることや子どもとの関わりから豊かな時間が生まれることなど子育ての積極的な貢献をみなさんおっしゃって下さいます。
- ・ファミサポで対応できないケースをNPOにつないでスムーズに調整がいった時は良かったと思う。
- ・会員から「この制度のお陰で良い人に巡り合えて…」と言う声や、活動を通して会員が生き生きと過ごされている様子に接する時…この事業の大切さと仕事に関われる喜びを感じます。

(会員間の絆が深まりその輪が広がっていく喜び)

- ・地域の中で会員同士つながりができはじめた。
- ・子育てと仕事に悩まれて、本当に助かったと感謝され、こちらも嬉しく思うことが多い。しかし利用料金がとても負担になっているご家庭もいるのも事実で調整する中で気になる1つです。そんな中サポーターさんの優しい心遣いを子どもさんから聞いたときはこの出会いから広がっていく人と人の温かさが感じられほっとすることもある。
- ・会員から活動の喜び、楽しみ等、出会いと感動の声を聞いたり、緊急時の対応が出来た時などは人と人とのつながりが地域の中にあり支え合っていることを実感し大変嬉しい。
- ・預ける預かるだけの関係でなく子どもに関わる人が増えていくという実感です。安心で安全な子育てができる地域を作っていきたいと思っているのでこのシステムを利用して「安心した」というご家族が増えていくことは良かった。
- ・先日援助会員の市民農園で対象児と利用会員を招いてじゃがいも収穫をする会に招かれた。子どもたちも利用会員も援助会員と交流する場面に同席し、地域の子育てネットワークが作られていることを実感した。
- ・有償とはいえ決して多くはない活動費で、子育て支援に関心をもち、活動が続けてくださる提供会員の方が地域の中に多くいらっしゃることに気づけたことに感謝し、サポートを受けた依頼会員が同じ提供会員に継続活動をお願いされた時など、センター活動の広がりを感じます。

(事務局がスキルアップする喜びなど)

- ・サブリーダーさんに交流会等のアイデアや協力をしてもらえとても助かっている。わたしたちの視野も広がっているように思われます。
- ・平成15年度より出前講習に要望があれば、出かけ子育て中の依頼会員の支援をし

ています。保健所や保育園、地域の公民館の他、つい先月は個人宅で5人集まられていたので、出前講座をして喜ばれました。これからもがんばりたいと思っています。

- ・女性の就労と子育て支援の観点から、緩やかなセーフティネットとして機能している。敷居の低い相談できるとこととして、種々の相談が飛びこんでくる。女性の就労、子育て支援のワンストップサービスの受け皿としても可能である。

□ 困ったこと、問題点

依頼の増加や依頼内容の多様化による提供会員数の不足に対して、提供会員の確保の困難さが困ったことの中で最も多く、また会員（特に依頼会員）に対しての注文、提供・依頼会員間の意識や取組に対する悩み、現在の子育て環境に対する理解や対応も多くつづられている。

（提供会員の確保が困難、依頼内容の多様さの悩み）

- ・依頼内容によって多くの提供会員を必要とします。又長期にわたる場合提供会員の体調によってサポート出来なくなる場合もあるので、数名チームを組みたいが、現状は厳しい。（提供会員が少ないため）
- ・多様な依頼に対応できる提供会員の確保をどうしていったら良いか悩みです。
- ・援助会員が多くいる地域に提供会員が少ないなど地域に偏りがあり調整がむづかしい。
- ・援助会員として登録はしてあるものの、登録後就労すれば援助できる時間が限られてくるため援助会員を捜すのに時間がかかる。
- ・会員数を増やしてはいただけない状況の中で、急な依頼の際対応できる会員が少なく（両方提供会員も仕事を始めた等で夕方しか連絡がとれない）、援助を引き受ける際、時間がかかることもあります。
- ・週5日のようにほぼ毎日依頼のあるお子さんに対し、援助者はできるだけ同じ方の

ほうが良いように思うがそのようにできないのが現実。

- ・ 依頼会員の人数は年々増加するが、提供会員の人数が伸び悩んでいる。提供会員の拡大確保に関して参考となる事例を紹介してほしい。
- ・ 利用したい時に利用できることとすべての利用会員に隔たりなくサービスを提供するためには利用会員に見合う協力会員の確保が必須であるが、難しい現状です。そのため利用に制限を加えざるを得なくなっている。
- ・ 協力会員の急なキャンセルに対して、代替えの協力会員を派遣できないため、利用会員からは不満の声があるが、代替えの協力会員の確保はむづかしい。
- ・ まかせて会員の安定確保が難しいので、このところが一番の課題。
- ・ 多様な依頼に対応できる提供会員の確保をどうしていったら良いか悩みです。
- ・ センター開所より5年を迎え、当初予定していなかった依頼内容やトラブルが発生し、その1つ1つに対し対応に苦慮している。また不定期の依頼が多いが、毎日必要という依頼も多くなってきておりコーディネートが難しくなっている。
- ・ 依頼内容が複雑多岐にわたり、それぞれに応じた対応がむづかしい。

(依頼会員に対する悩み、注文)

- ・ 例え有償活動であっても、まかせて会員のボランティア精神に支えられて、センターの活動が成り立っていることをお願い会員にも分かっていただきたい。
- ・ 依頼会員の大変な気持ちもアドバイザーとしてくみとっているが、提供会員への感謝の気持ち、センターの趣旨を理解してもらえない会員さんがいると悲しい気持ちになる。
- ・ お金を支払えば全て要求が通じるということではなく、依頼する側に子どもの立場、自分が提供会員だったらということを少しでも考えてもらいたい。

- ・依頼会員のモラルの低下。(提供会員を使用人扱い、連絡をしてこない等)
- ・地域のボランティア精神をもつ人々によって支えられている活動であり、必ず依頼に对应されるとは限らない点があるのに対して、依頼側の要求は有償ということでさまざまな対応を求めている。
- ・依頼会員が気軽にキャンセルするので手助けをしようとしている提供会員と気持ちのずれができ、信頼関係が築きにくい。
- ・利用会員の方が時間にルーズだったり、キャンセルの連絡を入れなかったり、金銭的な面で支払いが遅くなったりと提供会員さんが困った場合があった。
- ・緊急申し込みや(会員登録)依頼をする人が増え、又数時間後にキャンセルするパターンが増えつつあり困っている。
- ・複雑な依頼や、安易な依頼によるキャンセル等振り回される事も多くなってきている。
- ・緊急時の依頼が多く、条件の限られた援助会員に依頼する為、活動のない予約が重なる
- ・利用会員さんのわがままで自分の行動範囲で援助さんに依頼する事と、福祉の人の手助けでファミサポも援助してもらっている気持ちが強く、利用しても支払いがなくて困っている。
- ・依頼会員さんへの連絡のむづかしさ、1回の電話だけでは伝わりきれていないことがある。
- ・複数の提供会員がかかわっている依頼会員が、比較し、時々依頼した内容以外のことをしてくれる提供会員さんのことを他の提供さんに話すため困ることがある。

(提供会員に対する悩み、注文)

- ・精神的病気をもった方の入会希望、行動面にやや難がある方の支援会員としての登録についての対応、コーディネートの方。
- ・複数の提供会員とマッチングした場合、提供会員自身が他の人と比べられる気持ちになるということを意見として出された。子どもを丸ごと受け止めるには、自分自身を受け止めるということをつかんでもらうしかないと思っています。自分の負の部分も受け止めることをつかみ合うにはどうしたらよいか考えます。

(提供会員と依頼会員の意識・取組のギャップに対する悩み)

- ・利用会員と提供会員の考え方の相違からくるトラブルの対応が難しい。
- ・「地域の助け合い」が基本理念ではあるが、利用会員から協力会員に対しては「仕事として対応してもらいたい」との要望があったり、逆に安心のために入会しておきたいとの希望があったりと幅がある。協力会員もボランティア感覚の人もいれば、ビジネス感覚で活動を入れたい方もいる。説明会でお伝えしているのにも関わらず、双方の意識の差・ファミサポへの期待等にずれがありマッチングの難しさを感じる。
- ・提供会員（50～60歳）さんから現代の依頼会員さんの気持ちがつかめない。本当に困っている人の援助をしたいと思って登録したいと思って登録しても、実際は困っていないくて時折様子を聞いて啞然とする答えが返ってくることもあるとの話を聞く。
- ・母親のリフレッシュの為に使ってくださいと言ってくださいと言っているが、サポートしている人は、ストレスがたまるとは、と心配する。

(複雑困難な依頼内容や緊急時の対応に対しての課題と取組)

- ・母親が精神疾患を持っている場合の援助活動の進め方、又他機関との連携の仕方。

- ・依頼内容に変化がある。例えば産前産後のうつ、子どもの無表情、無気力。センターの職員も心の病、精神障害についての勉強会をしたい。
- ・小さな子どもを持つ若い母親のうつ病、対人恐怖症が増えているように思う。子どもに問題はないのですが、母親の方が預かりさんとうまくいかない、人と話すことが苦手で会員を何人も変えたり、要求が指示以外のことも要求してきたりと問題はでています。アドバイスや説明は何度もしているが実際はむづかしい点も多くある。各関係機関と連絡をとりあっているものの行政のみならず、もっとアンテナを広げていくことが現段階の現状である。
- ・育児不安や不登校等のサポート依頼もあり、他機関との連携が重要になってきている。
- ・社会全体としての子育て支援施策が充実してくる中で、複雑困難なケースを扱うことが多くなり、他の機関では充分対応しきれない子育て支援の多様なニーズに応えることが求められている。
- ・協力会員は1人での活動なので、活動中の疑問や不安を会員同士で共有できる場が必要だと感じる。
- ・ファミリーサポートの閉庁時の活動で緊急事態が生じた場合の連絡は利用会員協力会員の電話番号を伝え対応してもらっているが、ファミサポに対して組織的な対応を求められることがある。
- ・感謝をされることが多くやりがいがある反面、子どもをとりまく社会環境がよくわかりすぎてつらいことも多くある。
- ・現在の子育て家庭が抱えている問題は、ずっと以前から社会が抱えていた問題の積み重ねであり、単に決められた時間のみ支援すれば解決され少子化に歯止めがかかるというものではない。子供の育て方、しつけの仕方がわからないまま母親になり戸惑い、困難をきたしています。そういう母子に対して言葉をかけ、話を聞き、子を預かり、子育てを教え、安心を与えるという事は、とても大事な事で必要な事です。一人一人の親子に対して痛みを分けあえ支える事のできるシステム作りが必要

です。

(交流会・講習会の参加が少ない)

- ・交流会の参加率が悪い。
- ・講習会の参加が少ないので参加してもらえらる講習会にしていくのが課題。

(病児・病後児預かり、宿泊を伴う預かりなどの課題)

- ・病気の援助の依頼で、どの程度なら引き受けてもよいか等対応の判断に苦慮することもある。
- ・病児保育の依頼が増えている。対応の実現に向けて検討。
- ・保育所に子どもをあずけている親から一番要望の多いのは、『少しでも熱があると保育所ではみてもらえないのでそんな時にみてもらえないか』です。病院との連携がないので回復期を除いてなかなか要望に応えることができず、申し訳ない気持ちで断っているのが現状です。
- ・保育所で保育中発熱した時、迎えの依頼で提供者が見つからないこと。
- ・女性の夜勤や出張などに対応するため宿泊を伴う活動も課題であると思う。
- ・依頼内容が早朝・夜間に及ぶこと。

(会則の見直し)

- ・センターの対象年齢は0歳～小学3年生までですが、兄弟3人を預ける場合、上の子が小学4年生で対象外でした。この子どもは小さいときは会員で受け入れに悩んだことがある。対象年齢を小学6年生にまで広げるか検討中。
- ・支援会員交流会の中ででた意見で、サポート料金について双子、病後児等子どもの

状況により差があって当然。又依頼会員の立場からすれば支出は少ないにこしたことはない。その辺のからみで料金体系の見直し、行政の援助を希望する声が聞かれました。

(矛盾を感じたり納得できないこともある)

- ・ 依頼会員のニーズが多種多様になりどこまでサポートすればよいか、又ファミサポ本来の援助なのかどうか悩む時がある。
- ・ 子育て支援というものが明確に定義されぬままとにかく今は親のニーズに添ってという事、利便性のみが取り上げられ追及されていることに強く疑問を抱く、子育てをしながら親として成長していく過程が失われ、親子の関係づくりがともするとマイナスになっているのでは…？
- ・ 市民との協働の事業であるが協力会員に過度な期待やあまりに難しい援助はお願いしたくありません。

(11) 自由記述一国や自治体等への意見・要望

ファミリー・サポート・センターをもっと知ってもらうためにマスメディアを使って全国的なPRを行ってほしい、また、センターを利用したいのに経済的な面で利用できない低所得者等に対して補助金を検討してほしいなどある中で、最も多くあったのはセンターの予算が少ない（削減された）のでもっと充実を望む声である。全国交流集会に出席できなくなった、国の補助金から交付金になったことのとまどい、アドバイザー等の処遇、これらについて改善の要望が多くあった。

(マスメディアを使って全国的なPRを行ってほしい)

- ・子育て支援対策として国サイドからもファミサポ事業のPRをもっと大きくして欲しい。
- ・センター事業の主旨やシステムを一般に広く知らせる政府広報など（メディアなどを使ってコマーシャルするなど）の活動があると、相互援助の考え方が常識として皆に伝わっていくのではと思います。未知のもの、自分とは関係ないものという意識の方がほとんどという現実の中で、継続し広げていくためにもっと一般的なものにしていく必要があると思います。
- ・地方自治体ではもっとファミリーサポートの広報を積極的にすべきと考えます。微力ながらも、私達も頑張っていますので、国自治体ではもっと市民の立場に立った子育て事業を考えて欲しいと思います。机上の空論になることが多いので、ファミサポに来て研修をする事も必要かと考えます。
- ・ファミサポ事業について、もう少しPRをして欲しい。ほとんどの方が内容システムについて知らず、また、名前すら聞いた事がないという人も多い。国のポスターなどにも簡単なシステム図を載せてみてはどうか？

(利用料金の補助をするなど低所得者などが利用しやすくしてほしい)

- ・一人親家族や、障害児の人達への補助が少しでもあれば、長い時間利用するには助

かと思う。

- ・サポート活動も随分普及してきましたが、実際必要な低所得者、母子家庭に費用の面から躊躇している人もいるようで、その方達への利用法を配慮して欲しい。
- ・各市町村で利用料金を安く設定していると思いますが、母子家庭をはじめ、センターの料金だと利用できない家庭に国や自治体からの補助があればもっと本当に必要な家庭に活用してもらえとおもいます。
- ・利用についての問い合わせがあったときなど利用料金を聞かれると長時間のお預けなどは高額になり利用したいが利用できないと言われることがあります。安易に安くすればいいとは思いませんが、一人親家庭への補助や、家庭の状況に応じての何か少しでも助成があれば、子育て中のご家庭がもっと気軽にご利用できるのではないかと思います。
- ・自治体からの利用料金の補助があると、もっと使いやすくなるのではないか。核家族が増え地域の結びつきが希薄になっている昨今、孤立してしまう母子もふえていく。もっと多くの方に気軽に使ってもらうためには、料金の負担を軽減してあげる事も必要。本当に必要な家庭に料金的な問題でサポートできないこともある。
- ・援助活動費用において、母子家庭や生活保護者などに補助金が出ると、本当に困っている人たちももっと利用しやすくなるのではないかと感じる事があります。
- ・事業の利便性を感じながらも、若い会員には謝礼金が高く、利用できない場合もある。一人親家庭・障害児家庭などには補助があるとより利用しやすくなる。
- ・母子家庭からの相談も増えてきているので、金額面での補助など検討していただきたい。
- ・利用者に対する補助があれば、もっともっと利用者が増加するのではないか。少子化対策として、ぜひ検討願いたい。
- ・収入の少ない若い世代の人達や、一人親家庭の厳しい経済状態の人達が利用しやす

くなる様に国や自治体で料金の半分を負担するなどしてほしい。そうでなければ、本当に困っている人のサポートはなかなかできない。

- ・ファミサポはある程度収入のある家庭、予定の決まっている援助にとって大変有効で利用しやすい制度だと思います。その反面、母子家庭など、パート勤務（時給、最低賃金）の方にとってファミサポの利用料金は高いという声が聞かれます。生活のため、少しでも長く勤務を希望しながらも、保育所のお迎え時間に制約される。本来、ファミサポで補っていける援助内容ですが、毎日の事となると費用がネックとなり利用を踏みとどまっている様です。ある依頼会員さんの言葉が心に残ります。「ファミサポはお金持ちの人のための制度ですね。」収入に応じた補助は出来ないもののでしょうか？

- ・母子家庭・父子家庭・多胎児に対する利用料金の補助。

- ・謝礼の支払いが困難な人は利用したくても利用できない状況がある。支援費の様な制度があれば良い。

- ・一人親家庭や、低所得家庭では、援助を受けたくても経済的にも負担が大きく、使えないという声も聞かれます。そういった家庭が本当に援助を必要とされる時に少しでも負担が軽くなるような補助があればと思います。

- ・低所得の方への助成金の援助。（保育所の入所待機中、父子家庭、病後児の子供の預かりなどは長時間となり本人負担が大きいから）

- ・障害児の受け入れや、父子・母子家庭の依頼が増えているが、ファミリーサポートセンターの援助には限界というケースが多い。この様な困難ケースへの対応策を考えて欲しい。

（アドバイザー・サブリーダーの働きやすい環境整備を図ってほしい）

- ・アドバイザーの責任、専門性は重くなり、社会のニーズが高まっているが、身分や賃金は安くて、ボランティアの部分がかかなりあるのが現状。少子化対策、虐待の未然防止、母親等就労支援など「親を育てるソーシャルワーク」を実践する機関とし

て「ファミリーサポート」への期待が高まるが、行政サイドの人々の認識がなくて
がっかりすることがある。社会環境の変化によるニーズへの対応ができる環境整備
をして欲しい。

- ・ 年々活動が増加するにもかかわらず、アドバイザー人数、処遇が劣悪である。「身
分は軽く責任は重い」。当センターではアドバイザー1名が今年度出産したが、産
休・育休をとるまでの経緯などの労働環境を考えると、子育て支援の柱になろうと
する部署の対応とは思えない。市民と市民をつなぎ、相談や調整など、困難で専門
的知識があれば、その事で事業の充実がはかれる職種だけに、満5年の雇用止めと
いう条件はいかなるものか、と思う。
- ・ アドバイザーの人件費が、非常勤職員の経費であるが、問題ケースへの対応など、
非常勤職員だけでは対応困難な場合が増えてきている。また、利用会員・協力会員
が増加しているにも関わらず、明確なアドバイザーの配置基準がないため、少ない
職員で対応せざるを得ない。利用会員からは、説明会の増加や直接入会など柔軟な
対応を求められている。アドバイザーの増や常勤化が望ましい。
- ・ 次世代育成支援対策交付金（ソフト交付金）にファミリーサポートセンター事業が
移行し、財政的支援がどのようになるか不明であるが、アドバイザーの人件費アッ
プ、身分保証の確立など。運営費の増額をお願いしたい。
- ・ アドバイザーの勤務体制が、現在1ヶ月20日が一人、13日が2人となっているが、
フルタイムにしてほしい。
- ・ 非常勤委託という事で、月14日勤務していますが、いろいろな準備、連絡などに
おわれ、アドバイザー同士で担当した会員さんの事などゆっくり話す時間が取れて
いないのが現状です。日数がもう少し増えるほうがファミリーサポートセンターに
とってよりスムーズに運営ができると思います。
- ・ アドバイザーの身分、待遇の改善を（同じ職場での差が大きい）。パート的な労働
体制でしか働けない（女性だからできるというのはおかしい）。1つの職業として成
立していない。

- ・アドバイザーを臨時職員だけでなく正職員をおいて欲しい。
- ・非常勤や臨時職員で対応していくのではなく、常勤職員の設置も検討してほしい。
- ・アドバイザーの身分の向上を考えて欲しい。
- ・仕事量や責任の事を考えると、人件費が伴っていないように思います。
- ・会員数も活動件数も右肩上がりが増えつづけ業務内容も複雑になり忙しい日々を過ごしています。それなのに、予算がへらされてアドバイザーの時給も減額されています。自主的に勉強する為、手弁当ということも多いです。同じようなところも多いと思います。現場の様子などをきちんと実感をつかんで欲しいと思います。
- ・サブリーダーへの対応改善。
- ・土日祝日の事前打ち合わせ、会員の申し込み、相談が増え、サブリーダーが対応できるようにするためには、手当を多くするなど現実的な問題を解決しなければならない。

(全国交流会や県の研修会に参加したい)

- ・各ファミリーサポートセンターのアドバイザーにとって唯一の交流の機会である全国交流会議の出席に際しての多額の費用が必要となったことから、参加希望がありながら出席できないことは大変残念に思います。
- ・国が女性労働協会への委託を突然打ちきったのには驚いています。今後、アドバイザーの研修等はどこが責任を持って行っていくのでしょうか。各自治体が独自で行えるほど余裕があるのでしょうか。
- ・ファミリーサポートセンターに対する支援事業が自主事業となったため、全国交流会への参加料や情報誌及び手引き書の購入代金が地方自治体の負担となった。当センターには自主財源がないため、市の予算が手当てされなければ、情報を全くいただくことができなくなった。女性労働協会は、今までどおり全国のセンターに積極

的に情報提供をされるよう、財源の確保に努力してくださるようお願いいたします。

- ・ 県の情報交換の場、研修の場を設けてほしい。
- ・ 地方都市で行われるアドバイザーの研修会は、身近で他都市の意見交換や同じような問題も起こりうるなど、再確認や検討する事ができ、活動する上でとても有意義な研修となっているため、継続していただきたいと思っています。（東京で行われる研修の報告等も伺えればと思うのですが）依頼会員や提供に対するファミリーサポートセンターの会員として活動を継続していくための研修会の持ち方、取入れかた等の指導があれば参考にしたいと思っています。
- ・ アドバイザーだけでなく、サブ・リーダーも参加できるような研修を開催して欲しいと思います。
- ・ 女性労働協会の交流会参加費が大幅に値上げとなり、今年度の予算では参加できない状況である。国や都から女性労働協会へ助成して欲しい。（他のファミサポとの交流は必要であると思う）
- ・ 「ファミリーサポートセンター事業」を統括する中央の機関として、女性労働協会への委託を復活させていただきたい。この事業の充実と推進のためには、全国交流会への参加や運営ハンドブックの作成を担う機関の存在と充実がまだまだ必要だと感じる。
- ・ 継続してアドバイザーの研修の場を設けて欲しい。
- ・ 予算の都合上、全国交流集会への参加が出来なく、とても残念です。何回か参加させていただきましたが、アドバイザーとしての研修の場も少ないので、この集会はとてもいい勉強になりますし、刺激にもなります。このような形での集会をもっと近くの都市であれば良いかと願っています。
- ・ ファミリーサポートセンター運営支援が女性労働協会の自主事業となりましたが、当市の財政事情は非常に厳しく、本年度も来年度も契約を結ぶ事は困難で、全国交流集会に参加することさえも厳しい状況です。従来通り国の委託事業としての運営、

もしくは契約金の引き下げを希望致します。

- ・女性労働協会へ16年まで委託していた「ファミリーサポートセンター運営支援事業」が委託廃止になったことの理由。撤退なのか、又は別の形で運営予定なのか。もし、撤退であれば、今の時代に逆行ではないかを感じる。
- ・国より何らかの形でファミリーサポート事業への助成をして欲しい。18年度ネットワーク事業の会費、年に経費削減されている市の財政状況の中、予算化されるか不安である。

(交付金に対する要望、予算を削減しないでほしい)

- ・国の補助金の制度がソフト交付金へと移行する中で、制度自体がはっきりしないので、よりよい制度となるよう地方自治体からの要望も聞いていただけるとよいと思います。
- ・交付金を減額しないで下さい。支給額の審査は会員数だけでなく活動数、活動内容なども考慮してほしい。
- ・ソフト交付金となってしまいましたが、やはり、ファミリーサポートセンター事業の補助金の位置づけであれば、具体的に市の負担がこれくらいになりますということで、説明もしやすいし、理解してもらいやすい。
- ・ファミリーサポートセンターの予算が交付金となり、その基盤が会員数によるポイント制が導入されることになっていますが、会員数のみで予算化され、活動実績が評価されないと運営管理が不可能になります。管理者がNPO法人の場合特にその傾向が顕著になりますのでご配慮いただきたい。

また、県・市は交付金になったメリットが何なのかはっきりさせてください。次世代育成支援対策行動計画の目玉として家庭と仕事の両立支援は勿論のこと県民に即手許に届くサービスとして、福祉の底上げに役立つ事業として住みよい県づくりに役立つ事業として評価していただきたい。

- ・国や自治体は、ファミリーサポート事業を地域に行き届いたものにすることが結果

として人口を増やし、経済も豊かになることを強く認識して欲しい。財政が厳しいとしても、将来への投資なのだから、予算を削らずに国の未来を考えて欲しい。

- ・センター活動の広がりを感じる時、センターへの予算が増える事を希望します。
- ・少子化対策を取るべき時代に全国的に見ても子育てに対する予算は少子化対策に歯止めをかけているように思う。地方になればなるほど予算取りが難しいような気がします。

(制度について)

- ・サポート先がどちらかの会員で都合がいい方の自宅というのは、地域の子育て支援としてはとても重要であるが、どこか公の場所を拠点としてそこへ援助会員が出向き、援助するということができるのではないかと感じる。(個人宅に子供を預ける事に不安が強い場合)
- ・保護者が短時間・臨時的就労の場合、子供の夏休みなどにおける一時保育場所・方法など(学童等に登録していない子供)の検討。
- ・ファミリーサポートセンターは全国の地域で事業をしています。他県ファミリーサポートセンターの会員さんが帰省して(子育てのため出産のため)いる地域にファミリーサポートセンターがあれば利用できるシステムがあればよいと思います。
- ・親や家庭の力を、側面から援助するというファミサポの姿勢をくずさないような制度を、これからも貫いていただきたい。

(子育て支援策の充実、ネットワークづくり)

- ・事業開始当初に比べ、利用者の依頼内容が多様化し、だれも対応してくれないようなケースがファミリーサポートセンターに回ってくる事が増えてきました。現在、育児中の家庭を取り巻く地域社会の環境は大きく変化し、社会通念や親の意識も変わってきており、家庭や子育て中の親を支える社会的なサポートがより強く必要になってきているように思われます。より充実したファミリーサポートセンターにな

るよう国をあげてのバックアップをよろしくお願いしたいと思います。

- ・'94から始まった少子化対策も機能せず、合計特殊出生率も減少をたどる。国は法規性を整備、支援のための制度作りを進めているが、社会のシステムそのものの見直しが必要であり、ヨーロッパを代表する国々は子供問題や出生率の低下にそれまでの働き方を見なおしてきた。家族が成り立つような社会と子供の視点に立った施策を考えてほしい。
- ・待機児童をなくして、もっと保育施設を、内容も含め充実したものにしてもらいたい。
- ・二重・三重保育は親も子も大変だと思うので、保育園等の延長保育の充実を検討して欲しい。
- ・若い親が働きながら子育てしやすい環境となるよう、国や各自治体がもっと強いリーダーシップをとって企業等へ働きかけてもらいたい。（企業内の保育施設の充実・育児休暇の充実等）
- ・縦割り行政の枠組をはずして、子育てに関する全ての機関と連携がとれる世の中にしていきたい。
- ・子育て支援を重点対策として実施していくのであれば、それぞれの機関が単独に支援に取り組むのではなく、ネットワークづくりや情報交換をして、足りない部分を補って行ける組織づくりをして欲しい。
- ・未設置の市町村への設置の働きかけをお願いします。もし1つの市町村で設置が難しい場合、近隣とつながり合えるような仕組みが出来るといいと思います。
- ・サポートセンターの仕組みは、会員数、件数にかかわらず市町村に必要だと思います。
- ・地域のボランティア団体や関係機関と密なネットワークづくりを、自治体が主になってしていく必要性を感じます。

- ・子育て支援事業の窓口が多岐にわたっているため、利用しにくいとの声も多い。
(連携がない)

- ・ファミリーサポートセンター事業だけではないのだが、育児支援のためのサービスが増えてきているが、管轄が異なると他の事は分かりにくい。名称も似ているものがあるので、もっと分かりやすくしてほしい。

(その他)

- ・当初就労支援の目的で立ち上げたために、年数の経過とともに活動内容の幅が広がり、活動可能な提供会員がいれば活動に進むという形をとっているため、あるいは各センターが認めれば活動としてよいという観点で進めているために予期せぬ事柄が生じている。国や地方自治体にガイドラインを示してほしい。予算が無いという声もしばしば聞こえるが、施設や人選に力を入れ、ファミリーサポートセンターも含め、他の子育て支援と共に細切れではないトータルな支援策を作って欲しいと思う。県や市に本腰を据えて、ファミリーサポートセンターを考えてくれる職員の配置を望む。

- ・関係する各主管に、ファミリーサポートセンターの現状を理解していただきたいと思います。各市町村によって、細かい方針が違うのはよいのですが、今後のファミリーサポートセンターの有り方として、大筋のところは国や県から決められた方針が欲しいところです。最近の県の研修会で、担当の方にもお話をしましたが、答えはありませんでした。

- ・講習・研修などの事業内容について、こういうテーマならどのような内容で、どのような講師に依頼したらいいのかというサポート情報の提供かあればと思います。

女性労働協会に対してもご要望をいただきました。特に保険（自動車に関すること、集団保育）についてですが、これにつきましては、ファミリー・サポート・センター補償保険の案内をご覧くださいご理解くださいますようお願いいたします。

2. 提供会員編

提供会員の調査は、各センター毎にそれぞれ10名の提供会員を無作為に抽出してもらい、合計3,440名に調査票への回答を依頼した。有効回答数は2,280人、回収率は66.3%であった。

(1) 提供会員の概要

① 性別、年齢

2,280人の男女別内訳をみると、「女性」が97.3%、「男性」が2.7%である。

年齢別にみると、「50代」が31.2%と一番多く、次いで「40代」が27.1%、「60代」が22.2%の順になっている。

図2.1 性別

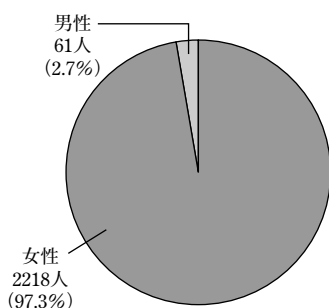
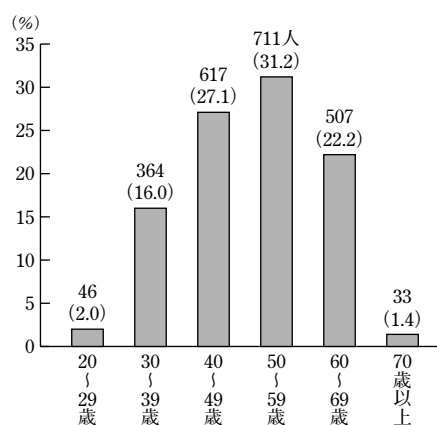


図2.2 年齢



② 同居の家族

同居している家族は、「配偶者」と同居しているが87.9%、「子ども」と同居が69.8%となっている。子どもと同居している人について子どもの数を聞いたところ、「2人」が43.3%、ついで「1人」が38.1%となっている。また同居している子どもの年齢で一番多いのは「高校生以上」60.4%で、ついで「小学校高学年」22.4%となっている。

図2.3 同居の家族（複数回答）

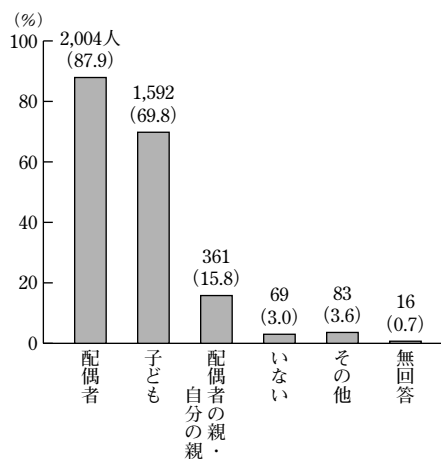


図2.4 同居している子どもの数

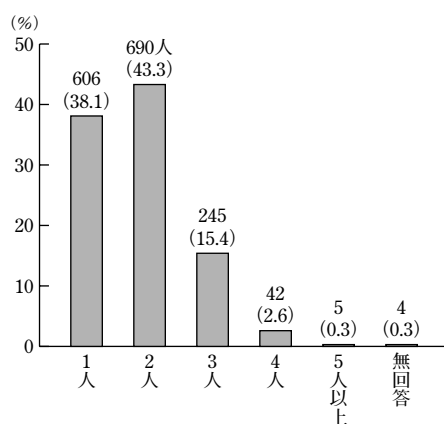


表2.1 同居している子どもの年齢（複数回答）

就学前	228人 (14.3%)
小学校低学年	323人 (20.3%)
小学校高学年	357人 (22.4%)
中学校	342人 (21.5%)
高校生以上	962人 (60.4%)
無回答	23人 (1.4%)
合 計	1,592人 (100.0%)

③ 仕事の有無、仕事の形態・内容

提供会員としての援助活動以外の仕事をしているかどうかについてみると、仕事「あり」と答えた人は52.1%、「なし」と答えた人は46.0%で、「あり」の人がやや多くなっている。「あり」と答えた人の中では、「パートタイムで外で働いている」が44.4%、「主に自宅で働いている」が11.4%、「登録ヘルパーとして働いている」が10.9%、「その他」は24.9%である。「フルタイムで働いている」は7.0%と少数である。

「その他」は不定期的な仕事、ピアノ・習字等の講師、地区の児童委員、民生委員などさまざまである。

図 2.5 援助活動以外の仕事の有無

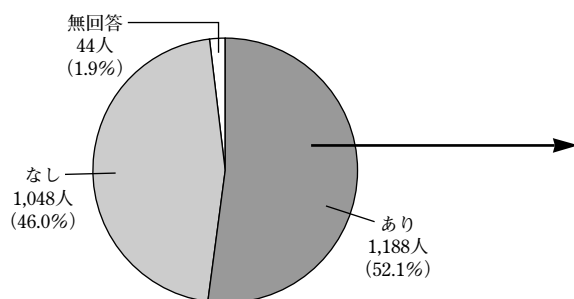
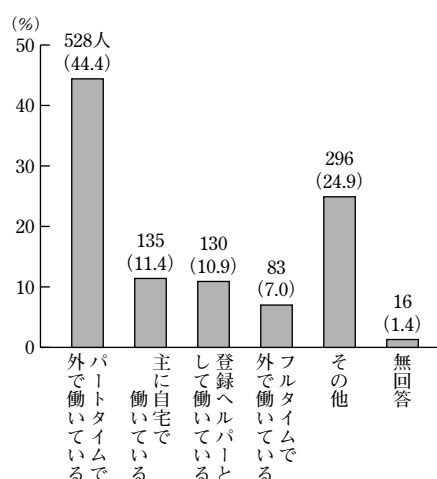


図 2.6 仕事の形態



④ 家族の中の提供会員の有無

同居している家族の中で提供会員になっている人はいるかという問いについて、「いる」と答えた人は8.8%で、またそれは誰ですかと問うと、「配偶者」と答えた人が67.2%、「子ども」24.9%となっている。

図 2.7 家族の中の提供会員の有無

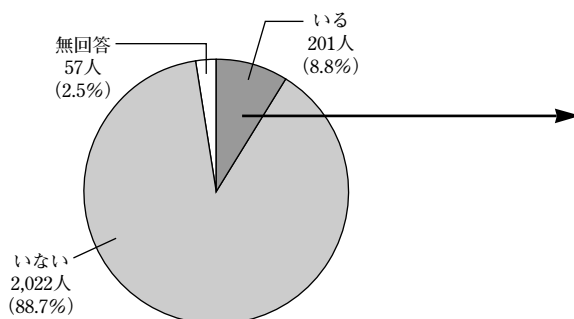
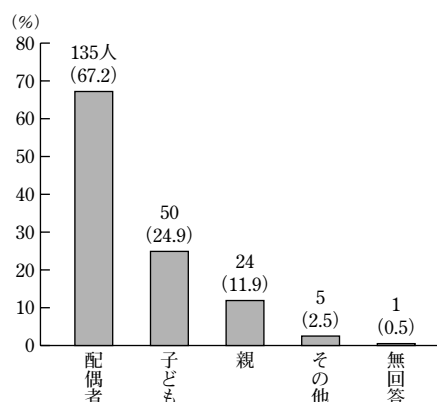


図 2.8 それは誰ですか（複数回答）



(2) 援助活動の状況

① 提供会員になったきっかけ、理由

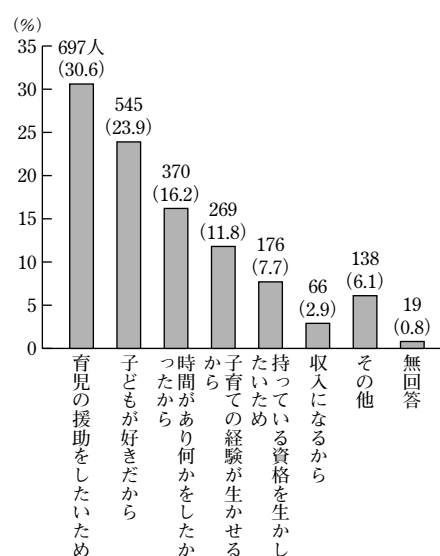
提供会員になったきっかけは、「自治体の広告を見て」が58.9%、次いで「友人・知人からの口コミ」が24.0%となっている。

また提供会員になった理由については、「育児の援助をしたいため」が30.6%、「子どもが好きだから」23.9%、「時間があり何かをしたかったから」16.2%となっている。

表2.2 提供会員になったきっかけ

自治体の広報紙を見て	1,342人 (58.9%)
家族が会員で勧められた	28人 (1.2%)
友人・知人から口コミ	547人 (24.0%)
その他	343人 (15.0%)
無回答	20人 (0.9%)
合 計	2,280人 (100.0%)

図2.9 提供会員になった理由



(3) 平成17年4月から6月の3ヶ月間の活動

① 援助依頼の有無、断わったことの有無

3ヶ月間に援助の依頼を受けた人は77.5%であった。

また援助の依頼を受けその依頼を全部受けた人は53.0%、自分の都合で引き受けなかったことがある人は46.2%となっている。また引き受けなかった回数を聞いてみると、「1回」が49.9%、「2回～3回」40.1%となっている。また引き受けなかった回数の最高は19回であった。

図2.10 援助依頼の有無

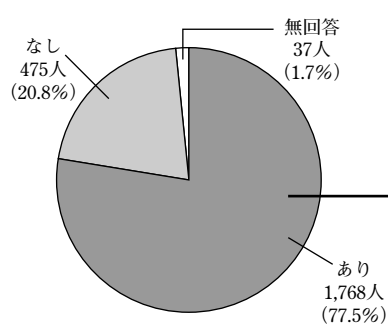


図2.11 援助依頼を断わったことの有無

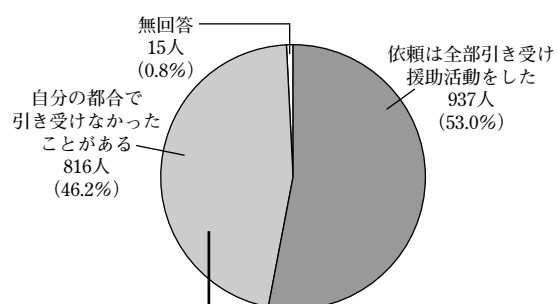


表2.3 引き受けなかった回数

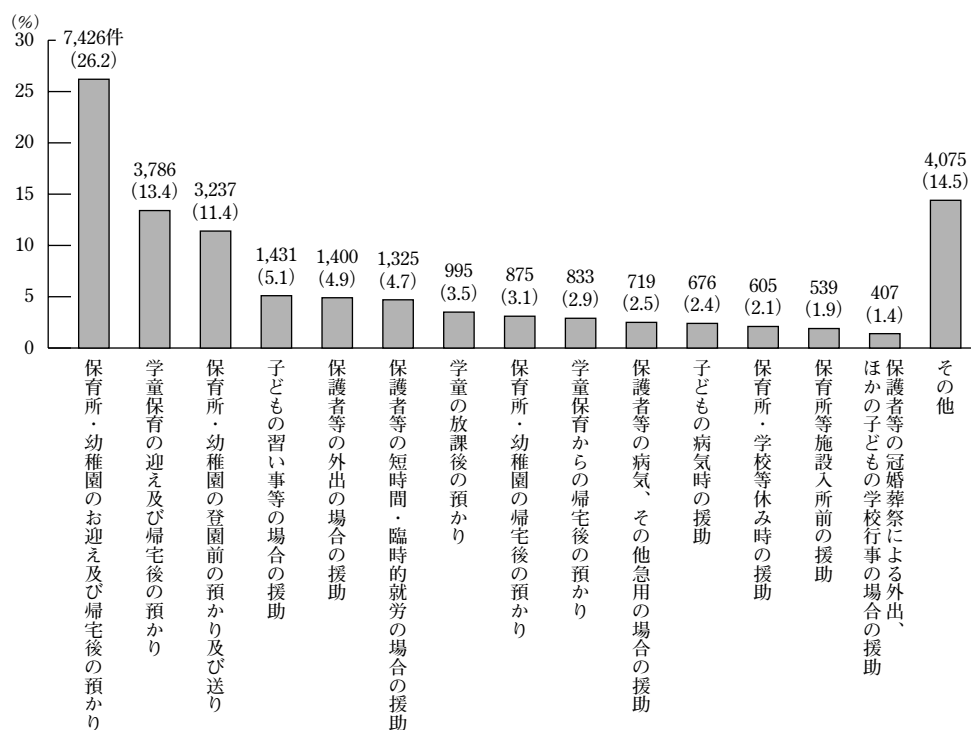
1回	392人 (49.9%)
2～3回	315人 (40.1%)
4～6回	66人 (8.4%)
7回以上	13人 (1.6%)
合 計	786人 (100.0%)

無回答を除く

② 援助内容別活動件数

援助活動で1番多かったのが「保育所・幼稚園のお迎え及び帰宅後の預かり」26.2%で、総援助活動数28,329件の4分の1を占めている。次に「学童保育の迎え及び帰宅後の預かり」は13.4%、「保育所・幼稚園登園前の預かり及び送り」11.4%となっている。

図2.12 3ヶ月間の援助内容別活動件数（複数回答）



また、1人の会員が預かった回数は、「1回～10回」51.5%、「11回～20回」17.9%で、約7割の人が20回までとなっている。また最高は202回となっている。

表2.4 1人の援助活動件数

1～10回	819人 (51.5%)
11～20回	284人 (17.9%)
21～30回	184人 (11.6%)
31～40回	104人 (6.5%)
41～50回	81人 (5.1%)
51回以上	117人 (7.4%)
合 計	1,589人 (100.0%)

③ 援助時間

1人の会員が預かった総時間については、「10時間未満」20.3%、「10時間以上～30時間未満」22.4%と30時間未満の援助時間の人は42.7%となっている。また、「30時間以上～50時間未満」は10.4%で、約半数程が50時間までの活動となっている。

表 2.5 3ヶ月間の活動時間別状況

10時間未満	463人 (20.3%)
10時間～ 30時間未満	511人 (22.4%)
30時間～ 50時間未満	237人 (10.4%)
50時間～100時間未満	253人 (11.1%)
100時間～200時間未満	98人 (4.3%)
200時間以上	24人 (1.1%)
活動なし	73人 (3.2%)
無回答	621人 (27.2%)
合 計	2,280人 (100.0%)

④ 援助活動による収入金額

1人の会員の援助活動による収入は、「5,000円未満」が15.0%、「5,000円～20,000円未満」25.3%と20,000円未満の人が40.3%となっており、「20,000円～50,000円未満」が18.1%で、約6割の人が50,000円未満となっている。

表 2.6 3ヶ月間の援助活動による収入金額

5,000円未満	342人 (15.0%)
5,000円～ 20,000円未満	578人 (25.3%)
20,000円～ 50,000円未満	413人 (18.1%)
50,000円～100,000円未満	191人 (8.4%)
100,000円～150,000円未満	40人 (1.8%)
150,000円以上	24人 (1.1%)
収入なし	73人 (3.2%)
無回答	619人 (27.1%)
合 計	2,280人 (100.0%)

⑤ 援助を行った場所、送迎の交通手段

援助を行った場所は、「提供会員の自宅」が54.6%と最も多く、「送迎のみ」が23.7%となっている。

子どもの送り迎えの交通手段は「徒歩」が25.1%となっている。

図 2.13 援助活動を行った場所（複数回答）

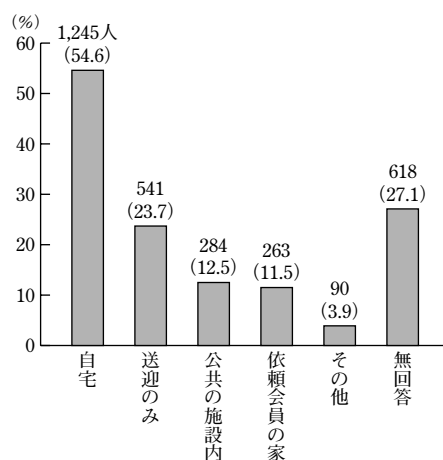


表 2.7 子どもの送り迎えの交通手段（複数回答）

徒歩	572人 (25.1%)
自転車	223人 (9.8%)
バス・電車等の公的乗り物	69人 (3.0%)
タクシー	35人 (1.5%)
その他	752人 (33.0%)
送り迎えはしていない	573人 (25.1%)
無回答	441人 (19.3%)
合 計	2,280人 (100.0%)

(4) 過去1年間の援助活動の状況

① 緊急な援助活動

過去1年間、次のような援助活動の依頼「当日急な援助」「早朝（8時前）の援助」「夜10時以降の援助」「土・日・祝日の援助、宿泊の援助」があったかどうか、また、実際にその援助を行った回数について聞いた。

上記の援助活動のうち、最も多い援助活動は、「土・日・祝日の援助」34.5%、次いで「当日急な援助」27.8%、「早朝（8時前）の援助」17.3%となっており、夜間や宿泊の援助はそれぞれ5.5%、1.4%となっている。

当日急な援助

過去1年間に「当日急な援助の依頼」について「あり」と回答した人は27.8%で、そのうち、援助回数を回答した人は67.5%、援助を行った回数は1,562回、1人平均3.7回となっている。

図2.14 当日急な援助依頼の有無

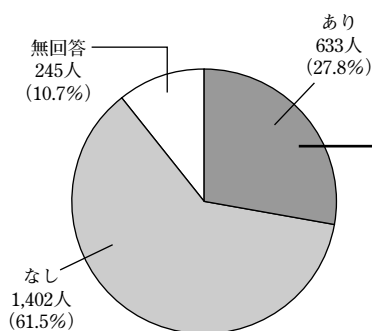
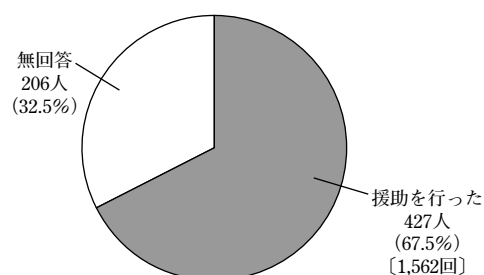


図2.15 援助を行った回数



早朝（8時前）の援助

過去1年間に「早朝（8時前）の援助の依頼」について、「あり」と回答した人は17.3%で、そのうち援助を行った回数を回答した人は71.8%、その回数は3,910回で1人平均3.7回となっている。

図2.16 早朝（8時前）の援助依頼の有無

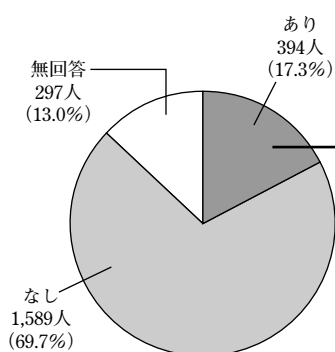
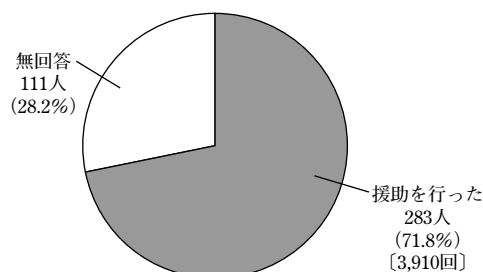


図2.17 援助を行った回数



夜10時以降の援助

過去1年間に「夜10時以降の援助の依頼」について、「あり」と回答した人は5.5%で、そのうち援助を行った回数を回答した人は72.2%、その回数は440回で1人平均4.8回となっている。

図2.18 夜10時以降の援助依頼の有無

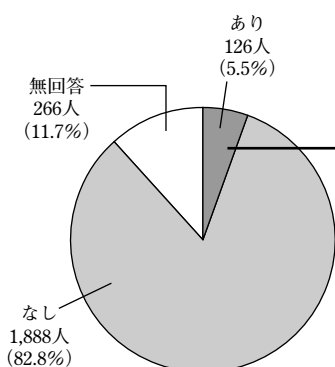
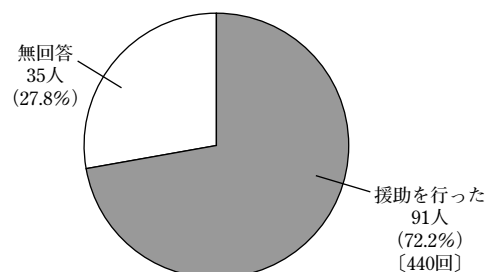


図2.19 援助を行った回数



土・日・祝日の援助

過去1年間に「土・日・祝日の援助の依頼」について、「あり」と回答した人は34.5%で、そのうち援助を行った回数を回答した人は68.2%、その回数は3,025回で1人平均5.6回となっている。

図 2.20 土・日・祝日の援助依頼の有無

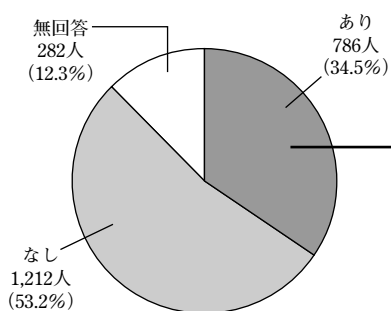
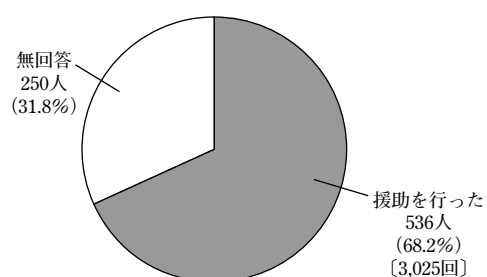


図 2.21 援助を行った回数



宿泊の援助

過去1年間に「宿泊の援助の依頼」について、「あり」と回答した人は1.4%で、そのうち援助を行った回数を回答した人は43.8%、その回数は69回で1人平均4.9回となっている。

図 2.22 宿泊の援助依頼の有無

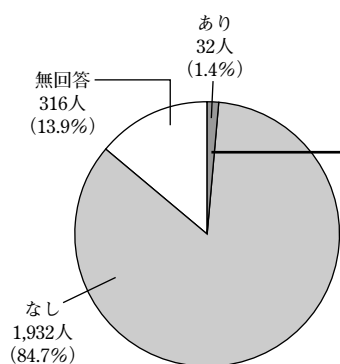
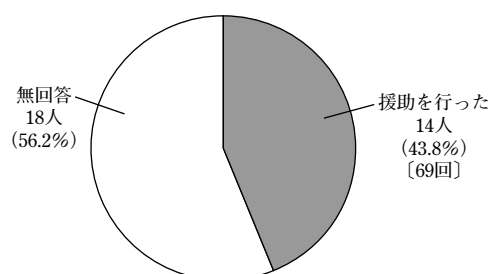


図 2.23 援助を行った回数



② 依頼者からの当日のキャンセル・変更の有無とその回数

過去1年間に「依頼者から当日のキャンセル」、「依頼者から当日の変更（時間、内容）」があったかどうかについても聞いてみた。また、「当日のキャンセル」については、「キャンセルを受けた回数」を、「当日の変更」については「変更を受けた回数」と「援助を行った回数」を聞いている。

「当日のキャンセル」は3割を超える人が経験ありと答えており、「当日の変更（時間や内容についての変更）」は約2割の人が経験ありとしている。

依頼者からの当日のキャンセル

過去1年間に依頼者から「当日のキャンセル」があったかどうかについて、「あり」と回答した人は31.8%で、そのうちキャンセルを受けた回数を回答した人は93.1%で、その回数は1,641回、1人平均2.4回となっている。

図2.24 当日のキャンセルの有無

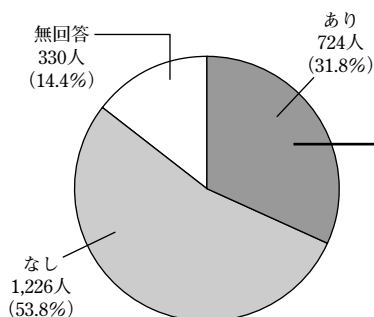
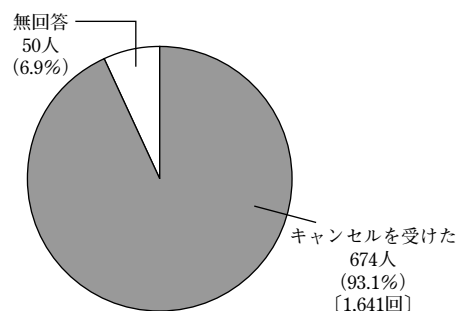


図2.25 キャンセルを受けた回数



依頼者から当日の変更（時間、内容）

過去1年間依頼者から「当日の変更（時間、内容）」があったかどうかについて、「あり」と回答した人は19.7%で、そのうち「援助を行った回数」に回答した人は45.7%でその回数は649回、1人平均3.2回となっている。

図 2.26 当日の変更の有無

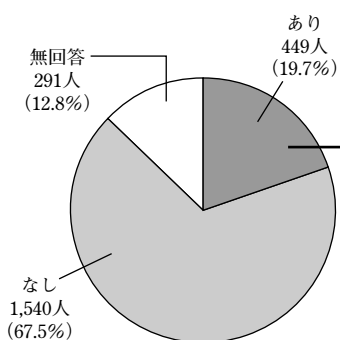
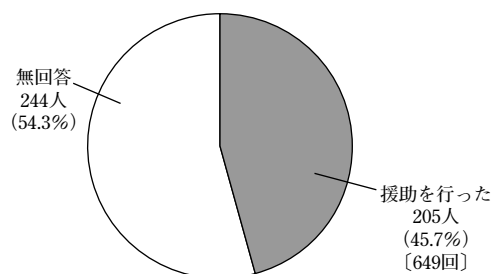


図 2.27 援助を行った回数



③ 提供会員（自分）から「当日急なキャンセル」について

提供会員から当日のキャンセルをしたことが「あり」の人は10.3%で、その理由は「自分の病気のため」29.5%、ついで「自分の用事のため」25.6%、「家族の病気のため」25.2%となっている。また自分からのキャンセルをした時の連絡は、「センターを通して」が55.6%、「直接依頼会員へ」48.3%となっている。

図 2.28 自分からのキャンセルの有無

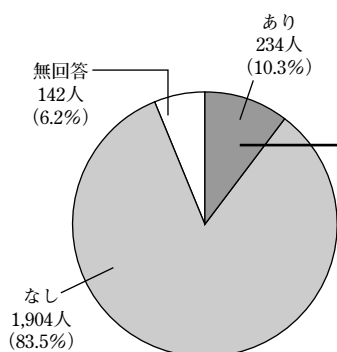


図 2.29 その理由（複数回答）

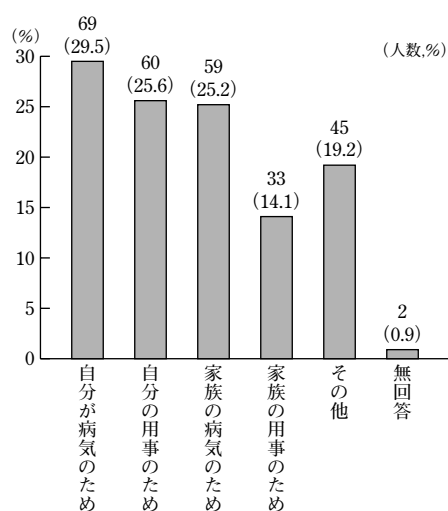


表 2.8 依頼会員への連絡方法（複数回答）

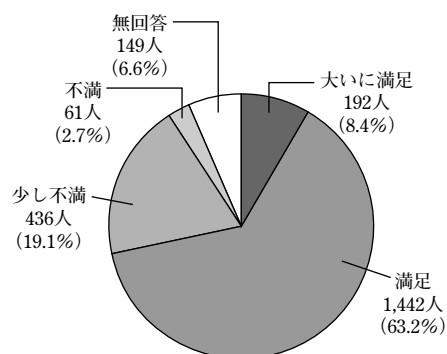
センターを通して	130人 (55.6%)
直接依頼会員へ	113人 (48.3%)
サブ・リーダーを通して	7人 (3.0%)
無回答	6人 (2.6%)
合 計	234人 (100.0%)

(5) 活動に対する評価

① 満足度、良いと思うこと、困っていること

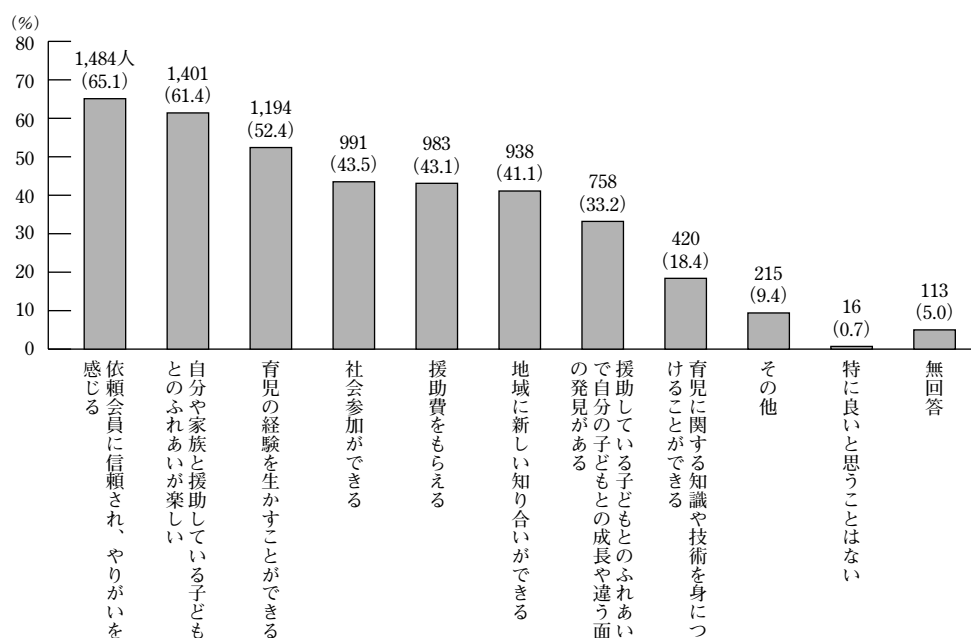
ファミリー・サポート・センターの活動に満足しているかどうかについての問いに、「満足」していると答えた人は63.2%、「大いに満足」は8.4%であった。70%以上がセンターの活動について満足と答えている。

図 2.30 センター活動に対する満足度



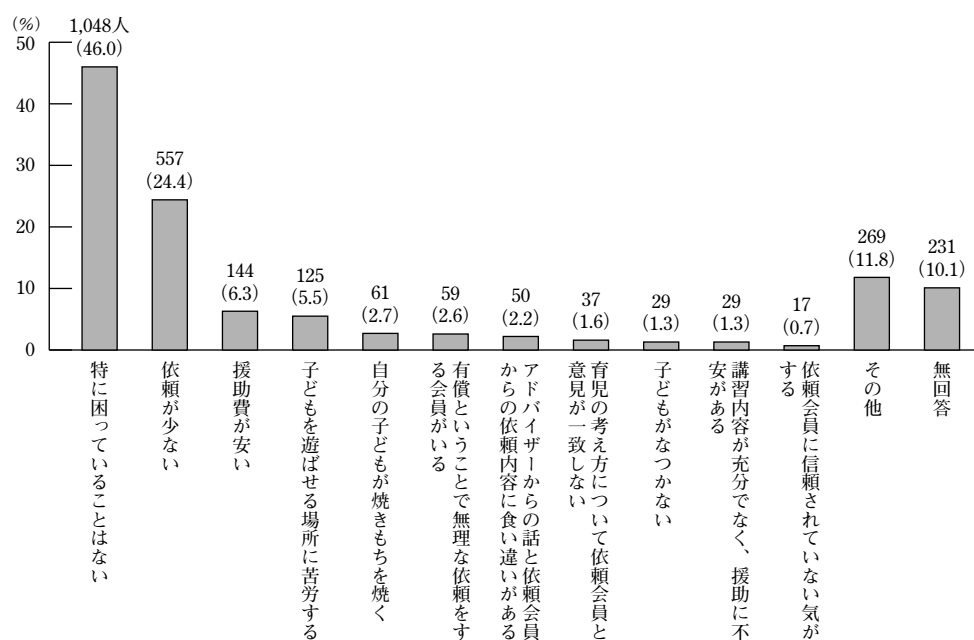
また具体的に活動して良いと思う点は、「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」が65.1%、「自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい」61.4%はいずれも6割を超えている。次いで、「育児の経験をいかすことができる」52.4%、「社会参加ができる」43.5%、「援助費がもらえる」43.1%となっている。

図 2.31 センター活動の良い点（複数回答）



反対に困っていることについて聞いてみると、約半数の46.0%が「特に困っていることはない」と答えているが、困っていることの最も多いのは「依頼が少ない」の24.4%である。

図 2.32 センター活動で困っている点（複数回答）



(6) 自由記述－センターに関する意見・要望

有意義な・楽しい活動に対する感謝の気持ちが最も多く、センター活動をもっとみんなに知ってほしいと広報を願っている。また、病児や緊急時、障害児などの対応についても、今後の課題として認識しており、講習会や交流会を要望している。

また、利用料を補助してあげてほしい、報酬をもっと高くほしいなどの声、依頼が少ないことの不満や事務局に対する要望などがあった。

(アドバイザーに感謝)

・センターの方の会員に対する態度がとても丁寧で、好感が持てます。

・活動依頼が複雑化し、大変だと思う。価値観の違いやジェネレーションギャップなどをうまく取り持てくださる方々のご苦勞が、偲ばれます。大変ありがたいと思います。これからもとりまとめお願い致します。

・アドバイザーの方たちは、預かる側の家庭の事情も分かってくれているので、依頼のお手伝いを無理に押しつけられることもなく、とても安心してお手伝いをさせて頂いております。

・サポートセンターとの出会いは私にとって有意義なものです。

依頼がある日は、朝から適度の緊張感と頑張るゾ！という気持ちでいっぱい、どんな子に会えるのだろうと楽しみにしてセンターに行きます。

時にはサポートをしていても障害児の時はどう接して良いのか分からず困惑することもありますが、センターの方々にいろいろとアドバイスをして頂きますので、とても心強く思っています。ありがとうございます。

子供との出会いは私にとって宝であり、これからも一人一人と丁寧に関わっていきたいと思っています。

・ファミサポの職員のかたは、少ない予算で良くやっているなあと思います。もう少し予算が取れて運営に必要な事に使えたら良いのになと思います。

- ・事前打合せ、依頼は必ず、サポートセンターを通す。援助報告の提出、確認ときちんと行われているので安心して活動する事が出来ます。ファミリーサポートをする前に講座保育のグループに入っていたので子供にはなれていましたが、一人で見るとなると緊張してしまいました。安全にそして何とか楽しく過ごして欲しいと願い、一緒に楽しく遊ぶように心がけています。5年間、小学生から赤ちゃんまで、いろいろなお子さんと出会いましたが、その子なりに働くお母さんの立場を理解している様子に感心しています。
- ・ファミリーサポートセンターは、とても良いシステムだと思います。私の地域は転勤族が多く、皆さん子育てを頑張りすぎているように思います。両方会員なのでお子さんを預かると私自身の子育ての息抜きができ、私のように子どもは一人で兄弟がいない家庭はとてもプラスになる面が多いです。
- ・つたない子育て経験を生かしながら、人様のお役に立てる事は、大変嬉しいです。社会参加ということも自分の生き甲斐にもなるし、責任はありますが、喜びもあります。無理せず、無事故で仕事を全うしていきたいと思います。
- ・とても良い活動だと思う。今から子育てをしていく人たちがうらやましい。これからも内容を充実させて行って欲しい。
- ・サポートはじめて4年経ちます。周囲の人にも段々知ってもらっています。皆、とても楽しんで活動しています。大変良い制度だと思っています。提供会員同士の集まりが年2回ほどあるのですが、その会を楽しみにしています。皆、サポートしたお子さまの写真を持ち寄って、話に花が咲きます。
- ・今は地域力が弱まっているので、ファミリーサポートセンターの様に有償ボランティアは必要です。なくさないで欲しいです。長く続けてください。

(広報をもっとすべき)

- ・センターの活動を知らない人が多いので、もっといろいろ広報して欲しいです

- ・もっと多くの人にセンターの活動を知って頂けるようにしたいですね。本当に子供のことで悩んでいる人や、預けたいと思っている人もいます。根気よく伝えていって、もっと多くの人に利用して頂きたいです。
- ・ファミリーサポートは子育てする親にとって大変心強い活動だと思っています。もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思います。
- ・まだまだ認知度が低いので、幼稚園や学校などにパンフレットを置いてもらうようにしたらどうでしょうか。
- ・もっともっと世間に知って欲しい。民放でCMを流してくれたら良いのに・・・。
頑張りすぎるお母さんは、もっとたくさんいると思う。
- ・広報紙だけでなくもっとPRすると良いと思う。病院などにもパンフレットを置かせてもらうと良いと思う。
- ・ファミリーサポートセンターの活動はとても良いと思いますが、あまり知られていない。私も友人から聞くまでは知りませんでした。もっと広くアピールしたら良いのと思っています。
- ・もう少し、行政はセンターのシステムについて広報した方が良いと思う。今ひとつ身近に感じられない。
- ・子育て支援のシステムを1人でも多くの方に知って頂き、1人で子育てに息詰まって悩んでいる方、子供のために仕事をあきらめてしまう女性が社会進出出来るようにセンターへの登録が増えていって欲しいと思います。

(病児・緊急時、宿泊、障害児の保育)

- ・病気の子をサポートするシステムができましたがサポーターはその病気に対する知識を持ち合わせていないので不安を感じます。専門家の研修を受けてから預かりたいです。

- ・難しいことだとは思いますが、夜間や、子供が病気の時など、本当に困っているときのサポートが出来ないものかと思っています。病気の時は、素人では判断がつかなかったり、責任が重いので、受け入れが出来る施設や病院を確保できれば、働くお母さんはどんなに助かることかと思っています。
- ・緊急な場合の対応が出来ないと思います。どちらかというと経済的に恵まれた人にとって利用しやすいような気がします。世の中にはハンディを背負って子育てをしている人もたくさんいるということを知り、そのような方たちが利用しているのが疑問です。
- ・突発的な出来事が起こり、通常の内容以外にも対応ができる仕組みがあると良いと思います。
- ・いつも楽しく活動させて頂いているので今のままで満足しています。これからの活動に宿泊という懸案があり少しとまどっているところです。実行するにしても問題点があると思います。依頼者の要望があるので、宿泊というのもやむを得ないのかもしれませんが、こういう事は、たくさん話し合っただけで決めるのは難しいです。
- ・軽度の障害児の預かりをしたのですが、何かがあったときに困るので、色々な場面においての対応の仕方を詳しく知らせて欲しい。
- ・障害のある子供たちのサポートが難しいです。そういう子供たちの保育の経験はありますが、それを生かして出来る限り協力したいと思いますが、自宅で預かるのにはなかなか踏み切れません。

(要望－講習会、会員間の交流会)

- ・育児に関する資格がないので、もっと援助活動に関する勉強の時間を作ってもらえるとありがたいです。
- ・講習会の事ですが、保育の資格を持っていないので、もっと保育の事について学びたいです。病気や自閉症の事に対しても無知なので、もっと具体的に学びたいです。

- ・私が所属しているセンターはフォローアップセミナーをことあるごとに開催してくれて、勉強の機会を与えてくれる。
- ・1対1の援助なので援助会員の能力の差が目立つ。講習後のフォローアップに力を入れて欲しい。
- ・定期的に会員同士の交流会や講習会などがあれば参加したいです。
- ・会員同士の情報交換の場を持ちたい。
- ・もっと交流の場を作って頂き、若い方の話を聞きたいです。同じ提供会員同士でもいろいろ話をしてみたいです。

(報酬に関することー補助があれば、割引制度の導入、内容によってもっと高く、授受時の配慮)

- ・利用者が経済的に利用しやすいように市などから一部援助があれば良いと思う。
- ・母子家庭の子を預かる事が多いので、料金を頂くのにつらいです。低収入の人には市が補助すればいいと思う。(気の毒なので半額にしたことがあった)
- ・若い人たちの子育ては経済的に大変になっていくような気がします。少子化はそんなところが原因ではないでしょうか。少子化問題は行政、市民がもっと危機感を持って望まなければならないような気がします。現に有償とわかり、依頼会員が辞退してきた例がありました。突発的なときはともかく、継続的になると負担は大きいのではないかと思います。何とか行政の負担にならないでしょうか？
- ・若い親御さんにとって、依頼費が結構負担になると思います。少しでも依頼費がやすくなると良いのにと 생각합니다。
- ・援助費は仕事内容によって、考えて欲しい。どんな仕事でも1時間700円は安いと思う。

- ・3歳未満の子供は手がかかるので、一律ではなく少し高くして欲しい。
- ・お金のやりとりに疑問。現金収入で良いが、封筒にお金を入れてくるかして欲しい。
子供が大きくなると、書類に目を通す子供もいる。保育所や学童は目の前で、お金のやりとりはありません。銀行振り込みでは面倒ですし、せめて、報告書をもっと小さくするか、金額欄を小さくして欲しいです。
- ・活動が終わって料金の受け渡しをするとき、その様子を子供が見ているので、とても違和感を覚えます。

(依頼が少ないことの不満)

- ・1か月に2～3回のサポートしか活動がなく少し寂しいです。もっともっとサポートができたらなあと思います。
- ・せっかく研修を受けたのに3年間全く依頼がありません。とても残念です。

(事務局に対する改善等)

- ・サポートの依頼、時間変更、キャンセルなど電話連絡が多いが、出来れば、電話の他にFAXなど紙ベースで知らせてもらえると不安が無くなります。
- ・活動中に依頼の電話が入るときがあり、困ります。スケジュールを把握していて欲しい。
- ・月曜日がお休みなので、理容関係の仕事をしている方は仕事を抜けて登録に行かなければなりません。センターの休みの日の設定、登録者の受付方法をもっと柔軟に考えて欲しいです。
- ・緊急な場合の連絡がスムーズにいかないことが心配です。特に土日や時間外をもっと連絡が取れやすくして欲しいです。
- ・アドバイザーが一人なので、不在時や休日などこちら側の判断で活動する事がある。

出来ればサブの方をきちんと決めて欲しい。

- ・最近、依頼会員の情報が漏れたとの報道があり、非常に残念に思いました。しっかり情報管理をして欲しいです。交渉の段階で個人情報を教えないで欲しいです。
- ・同じクラスのお子さんを定期的にサポートすることになり、とまどいを感じながら、活動しました。周囲から「〇〇君のお母さんが△△ちゃんと一緒にいる」といわれ、お預かりしたお子さんに嫌な思いをさせてしまいました。センターの方も少し配慮して欲しかった。
- ・基本的な原則がしっかり出来ているのは心強いのですが、もう少し個々の事情を踏まえ、臨機応変な対応を望みます。
- ・報告書ですが、毎日決まったお子さんの送迎をしていますが、毎回、会員番号、名前等同じ事を書かなくてはならなくて、すごく面倒な思いをしています。1冊にまとめて書ける様な報告書があれば良いのにと 생각합니다。送迎だけのもっと小さな報告書があればと思います。
- ・親も遊び方を知らないなので、子供に教えられない。ファミリーサポートのような場で、伝承していければと思う。

(7) 自由記述—子育てについての意見

今の子育てについての意見を尋ねた。良くやっている、がんばっていると感心しつつ、現在の子育てをめぐる環境を気の毒に思っている意見が大多数を占めている。しかしながら、「今時の親」やその子育てを批判する声もある。

(いいなと思うこと、エールを送ります)

- ・情報をうまく取り入れ、合理的な子育てをしていて、頑張っている。
- ・私の子育て時代より熱心に子供と向き合っているなので、感心しています。女性として母として学ぶ事が多々あり勉強させて頂いております。
- ・核家族化で親からの支援が受けにくい分、地域のサポート施設やサークル活動などをうまく利用していると思う。
- ・今までは小学校受験に批判的であったが、受験する学校の「教育方針」などを見極め、それに向かって家庭教育をしっかりしているのを見て、放任していることを「子供をのびのびと育てている」という親に比べて、親がよい指針を持って子育てをする方がいい子に育つと思った。
- ・依頼会員の親が教師のためか、習い事など先のことを考えて通わせている。躰もしっかり出来ていて、手もかからずしっかり育てているなど思う。
- ・働くお母様方にエールを送ります。大変でしょうが、“ファイト！！”
- ・共働きなのにきちんと子育てをしている。
- ・最近のお母さんは、子育てに、仕事にとっても頑張っていて、感心させられます。
- ・私の周りの若いお父さんとお母さんは、一生懸命子育てをしています。
なるべく両親に迷惑をかけずに自分たちでやっていきたい（金銭面・育児援助）と

いう考えを持っていて、立派だと思う、一方で、夜中まで居酒屋で子供を連れ回したりしている親を見ると心配です。

- ・核家族化が進んでいるなかで、若いお母さんたちは本当に頑張っていると思います。若いお母さんたちが子育てで追いつめられないようにファミリーサポートなどの手助けがとても必要な時代だと思います。
- ・これからの親は、勉強も大切だと思います。いまは、子育てをサポートしてくれる公的機関もできたので、サポートを受け、もっともっと親は勉強するべきだと思う。
- ・子育てと自己実現を果たそうとすると乳幼児期は過重な仕事量になると思いますが、いろいろな援助を積極的に取り入れて楽しんで子育てをして欲しいと思います。

(気の毒だと思うこと)

- ・子育てに関する情報があふれていて振り回されるが、その子に「合う、合わない」が有るので、よく見極めて欲しい。
- ・情報社会のなかで、若いお母さんは何を選んで良いか迷っている様です。
- ・親だけで育児をしなければならないと思っているようです。子供はいろんな人の色々な目があって丸く育つのです。もっといろんな人に見てもらえれば、育児も楽になるし、子供ももっとのびのびと育つと思います。
- ・親や育児経験者が近くにいない方などは、心配な方も多く、本などに頼りがちで、子供に対して、神経質になっている。
- ・多くの子育てをしている親は、いつでも一生懸命でいろいろ悩み、そして多くの喜びを感じながら、育児している。心にゆとりのびのびとした気持ちで育児をしていけばのびのびとした子供に育つと思う。子供を育てるのに一番大切なのは夫婦円満だと思う。
- ・まだまだ一人で子育てをしている、もっと外へ出ていろんな人と関わって行けば良

いと思う。

- ・兄弟が少ない子は、子ども同士で遊ぶことにより社会性が育つと思う。
- ・夫の転勤や出産などによって、仕事を辞める事になった女性が再就職をするためには子供を保育園に預けなくてはならないが、入所するときの矛盾により、再就職出来ず母親が精神的に追いつめられる。また、子供の病気などで欠勤すると退職に追いつめる。育児・家庭・仕事に頑張っている母親は大変です。悩みを聞いていると30年前と状況は変わっていないのだと思う。
- ・親の教養や子育てに対する考え方、取り組み方でずいぶん個人差があると思います。私の知る限りでは、皆さん熱心に早期教育に取り組んでいらっしゃいます。若い親たちは、経済的にも恵まれない人もいますので、若い人の雇用問題なども解決しないと、精神的に安定した子育てが出来ないと思います。不幸な子供を増やさないためにもすべての親が子供を愛おしく思える子育てが、出来ると良いと思います。
- ・最近では予想以上に一人親が多く、学童を利用している子供が多い。親を待っている子供たちはとても我慢をしている様子が分かる。子供もストレスをためてイライラしている様子が分かります。
- ・働いているお母さんたちは、自分の子供の様子を知らない。もっと知って欲しいです。
- ・普段は共働きで子供と接する機会が少ないので、休日は子供と大いに接して欲しいです。
- ・共働きのせいで、子供と関わる時間が少ない為に、家庭での躾が足りないと感じます。家に上がるときに靴をそろえろとか、お菓子をもらったら「ありがとう」と言うとか、おもちゃを出したら片づけるとか、帰るときには「さようなら」を言うとか、些細なことですが、自分も気を付けようと思います。
- ・今の社会は女性の社会進出が当然だと思いますが、子育ての環境は良くない。特に

就学後の子供はカギっ子が多い。親が帰宅するまでは、家でゲームやTVを観て過ごす時間は良くないと思う。ある地域では、学校で放課後を過ごすシステムが有ると聞いたが、もっと他の地域にも広がっても良いと思う。

- ・時代の流れなのでしょうか、ビデオやゲームが子育てのなかに深く入っているのが、気になる。
- ・共働きが当たり前になってきた現代、安心して子供を預けられ、生活していける様な施設がまだまだ不十分だと思います。
- ・育児ノイローゼやストレスなどで、幼児虐待をする前に、子供を他人に預けて、自分の時間を作った方が良いと思う。

(父親の育児参加)

- ・日本では女性が家事、育児をこなしていけないといけない現状ですが、男性がもっと意識改革をしなければならないと思います。
- ・父親が家事、育児にもっと協力したら良いと思います。
- ・共働きが多くなり、協力的な父親が多くなっている。
- ・今は父親もしっかり育児に参加され、夫婦平等に生活されているのを見ると私たちもほのぼのした気持ちになる。とても嬉しくなってきます。お子さんもお父さんに良くなついています。皆さん良く頑張っています。

(今時の子育てを批判的に思うこと)

- ・おやつの中で、親がおやつを持たせることになっているが、ほとんど既製品のお菓子で、おやつは、無添加の手作りおやつを与えてほしい。
- ・飲食店などで、子供が騒いでいるのに、注意をしないで、平然と食事をしている。

- ・ 子供が静かにしないといけない場所でも平気で子供が騒いでいても、親が話したりして注意もしない。親としての自覚がない人が多い。
- ・ 自分の子供が他人に注意されたりすると、反対に怒り出したり、注意してくれた相手が悪いように愚痴を言ったりします。
- ・ 親が何でもしてしまい、子供の成長を遅らせてしまっている。
- ・ 過保護な親と放任な親が両極端でとまどいます。
- ・ 子供のわがママを聞きすぎる。親が指導者になりきれないので、子供が振り回されている。
- ・ 昔と違い、親の威厳が無くなっている。子供の機嫌をとったり、子供にすぐ謝る親が多い。黙って親の言うことを聞けという風潮が無くなってきているので、子供は自分の意見だけを述べる。これでは自己中心的な人間が出来てしまう。親は子供の機嫌取りをしないで欲しい。
- ・ 少子化で、子供に対する思いが強く、何でも与え、甘やかしている。
- ・ 飽食の時代なので、我慢する事や“もったいない”ということをお子に伝えるべきだと思う。
- ・ きれい好きすぎる。しつけやしかり方に自信がなさ過ぎ。
- ・ 子育てに追われて自分の時間がなくイライラしているように思えます。同年代の子供と比較し遅れを気にしすぎて、子供に「何で出来ないの？」とあたったり、子育てに余裕がない。
- ・ 公園などで見かけるお母さんは、おしゃべりや携帯電話に夢中で、子供を見ていない。見ていてとてもハラハラします。自分の子は自分で守る。そんな気持ちで子育てをして欲しいです。

- ・子どもがけんかした時やおもちゃの取り合いがあったときの親の対応はあまり適切とは思えない人が多く、人付き合い（社会性）が欠けている人が多くみられる。

3. 依頼会員編

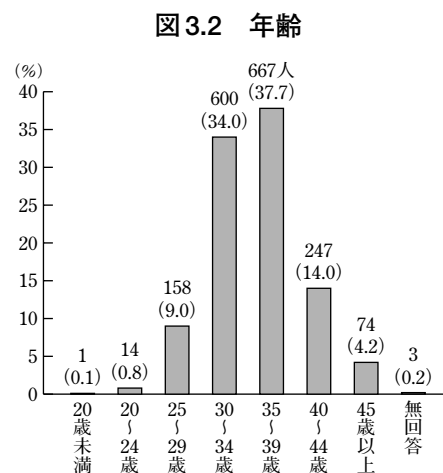
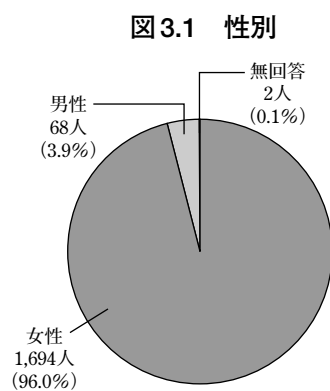
各センター毎に10名の依頼会員を無作為に抽出し、総数3,440名に対して調査を実施した。
有効回答者数は1,764人、回答率は51.3％であった。

(1) 依頼会員の概要

① 性別、年齢

依頼会員1,764人のうち、「女性」が96.0％、「男性」が3.9％と圧倒的に女性が多い。

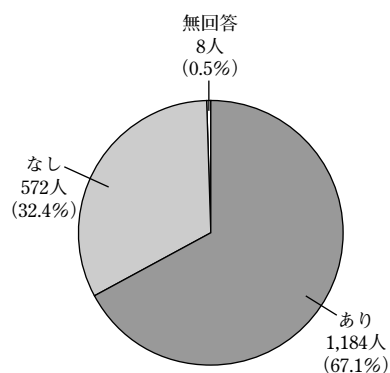
年齢は、「35～39歳」が37.7％、「30～34歳」が34.0％で、30歳代が70％以上を占めている。



② 就労の有無、仕事の形態、勤務形態

就労については、「仕事をしている人」67.1%、「仕事をしていない人」32.4%となっている。

図3.3 仕事の有無



仕事の形態をみると、「フルタイムで外で働いている人」は61.0%、「パートタイムで外で働いている人」は24.7%、「自営業や自営業の手伝いなど主に自宅で働いている人」は9.1%となっている。また、フルタイム又はパートタイムで働いている人（1,184人）のうち、86.3%は日中の通常勤務である。

図3.4 仕事の形態

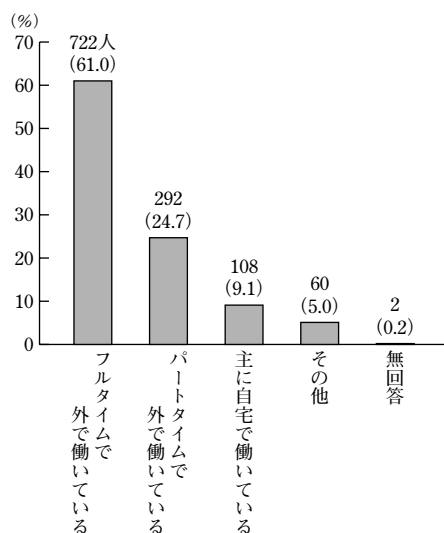
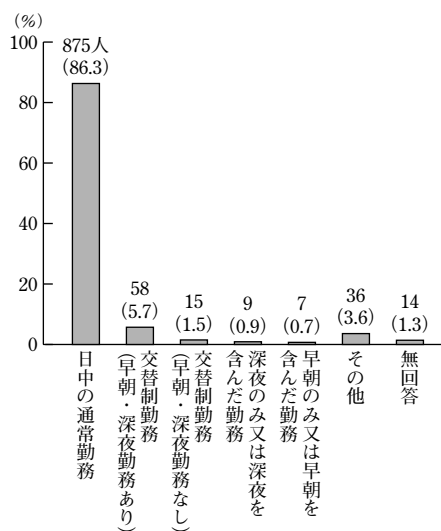


図3.5 勤務形態



③ 早出や残業、土・日・祝祭日の出勤

日中の通常勤務の人（875人）のうち、「早出や残業は、ほとんどない」人が43.0%、「月に3～4回程度」の人は25.0%となっている。また「月のうち半数以上が早出や残業がある」人は15.9%、「月に10回程度」が10.7%となっている。

土・日・祝祭日の出勤については、「ほとんどない」人は47.8%であるが、「月に1～2回程度」の人は30.1%、「月に5～6回程度」の人は16.8%である。

図3.6 早出や残業の有無

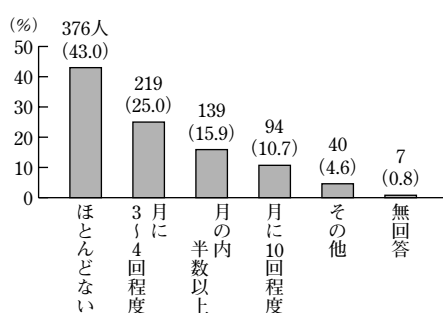
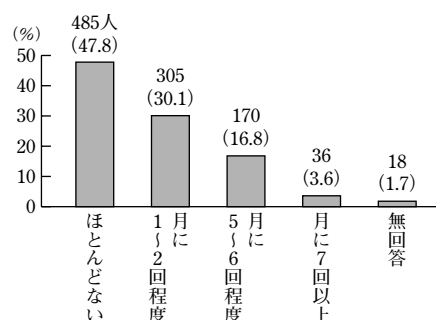


図3.7 土・日・祝祭日出勤の有無



④ 同居の家族・子どもの数・子どもの年齢

同居の家族については、8通り（表3.1）の家族構成パターンとなっており、80.3%が「子どもと配偶者」で、次いで「子ども」のみが8.2%となっている。

同居している子どもの数は、「2人」が最も多く44.6%、次いで「1人」が38.9%となっている。

その子どもの年齢は、「3歳以上就学前」が53.9%、「1歳以上3歳未満」が41.3%、「小学低学年」34.8%である。

表3.1 家族構成

①子ども＋配偶者	1,415人（80.3%）
②子ども	145人（8.2%）
③子ども＋配偶者＋親	120人（6.8%）
④子ども＋親	45人（2.6%）
⑤子ども＋配偶者＋親＋他	17人（1.0%）
⑥子ども＋配偶者＋他	9人（0.5%）
⑦子ども＋親＋他	9人（0.5%）
⑧子ども＋他	2人（0.1%）
合 計	1,762人（100.0%）

図3.8 同居している子どもの数

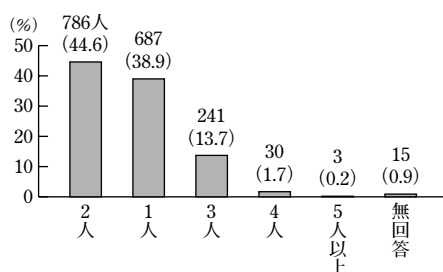
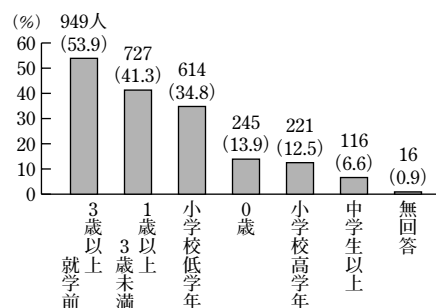


図3.9 同居している子どもの年齢（複数回答）



⑤ センターに登録している子どもの数・子どもの年齢

センターに登録している子どもの数は、「1人」が最も多く54.1%、次いで「2人」が37.3%となっている。また、同居の子どもの年齢が「1歳以上3歳未満」が41.2%、「3歳以上就学前」が53.4%、「小学校低学年」33.1%となっているが、「0歳」では10.5%である。

図3.10 センターに登録している子どもの数

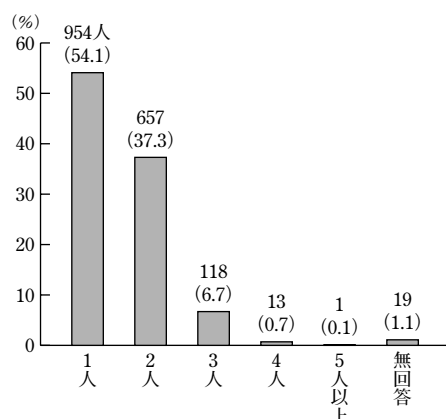


表3.2 子どもの年齢（複数回答）

0歳	185人（10.5%）
1歳以上3歳未満	726人（41.2%）
3歳以上就学前	941人（53.4%）
小学校低学年	583人（33.1%）
小学校高学年	146人（8.3%）
中学生以上	15人（0.9%）
無回答	20人（1.1%）
合 計	1,762人（100.0%）

⑥ センターに登録している子どもが昼間過ごす場所

センターに登録している子どもが1人の人（1,452人）の場合では、「保育所」（36.3%）、「自宅」（35.7%）が同程度で高く、次いで「小学校」（24.5%）となっている。子どもが2人の人（702人）の場合は、「自宅」（40.9%）、「保育所」（36.2%）、「小学校」（32.9%）で、子どもが3人の人（96人）の場合は、「自宅」（55.2%）、「小学校」（42.7%）、「保育所」（27.1%）となっている。

表3.3 センターに登録している子どもが昼間過ごす場所（複数回答）

	1人	2人	3人
保育所	527人（36.3%）	254人（36.2%）	26人（27.1%）
幼稚園	229人（15.8%）	126人（17.9%）	9人（9.4%）
小学校	356人（24.5%）	231人（32.9%）	41人（42.7%）
学童保育	201人（13.8%）	77人（11.0%）	8人（8.3%）
自宅	519人（35.7%）	287人（40.9%）	53人（55.2%）
祖父母等親戚の家	59人（4.1%）	27人（3.8%）	4人（4.2%）
その他	49人（3.4%）	17人（2.4%）	4人（4.2%）
合 計	1,452人（100.0%）	702人（100.0%）	96人（100.0%）

⑦ 緊急時の保育を頼める人の有無

同居の家族以外に緊急時の保育を頼める人がいるかどうかを聞くと、61.8%の人が「いる」と答えているが、頼める人をみると、「自分の親・配偶者の親」が69.8%と最も多く、次の「友人・知人」(18.2%)、「近所の知人」(10.2%)は10%台である。

図 3.11 同居の家族以外に
緊急時の保育を頼める人の有無

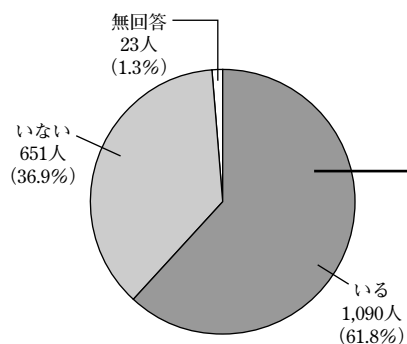


表 3.4 緊急時保育の依頼先 (複数回答)

自分の親・配偶者の親	761人 (69.8%)
親戚	98人 (9.0%)
近所の知人	111人 (10.2%)
友人・知人	198人 (18.2%)
その他	99人 (9.1%)
無回答	19人 (1.7%)
合 計	1,090人 (100.0%)

(2) 依頼会員としての活動

① 依頼会員になったきっかけ、理由

依頼会員になったきっかけは、「自治体の広報誌・チラシなどを見て」が63.7%で圧倒的に多く、次いで友人・知人の口コミが17.6%となっている。また会員になった理由は、「保育施設への送迎等、仕事のためにできない時の援助を頼みたいため」が43.5%、「いざという時に援助を頼みたいため」が34.2%である。

図3.12 依頼会員になったきっかけ

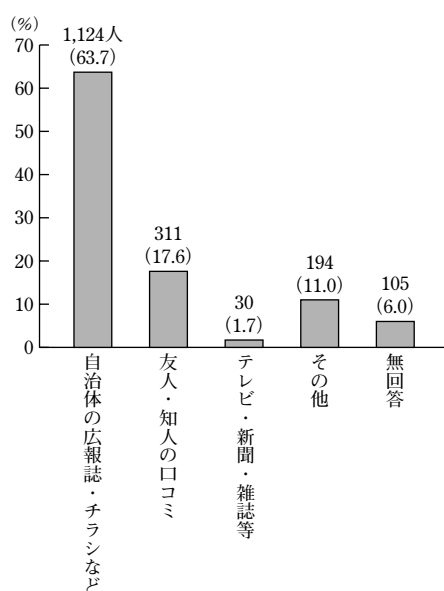
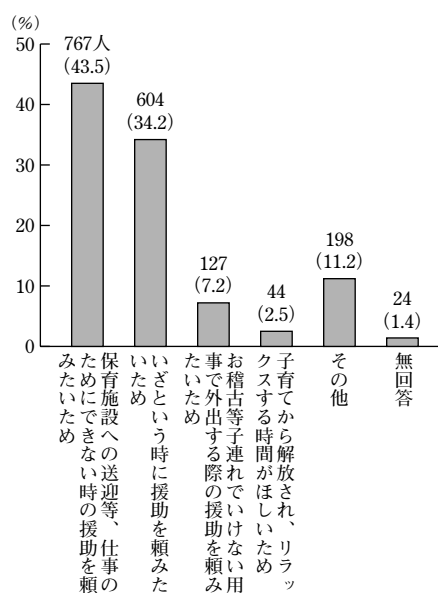


図3.13 依頼会員になった理由



② 依頼状況

平成17年4月～6月の3ヶ月間の援助の依頼の有無については、依頼した人は58.3%であり、その理由は「仕事のため」が66.0%と最も多く、次の「冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会、お稽古等で外出するため」(12.7%)を大きくひきはなしている。

仕事の為に依頼した1人の依頼回数は、「1～10回」が54.4%、次いで「11～20回」17.0%となっている。また週の半分以上依頼している人は、「51～60回」6.3%、「61回以上」1.8%いた。

図3.14 援助依頼の有無

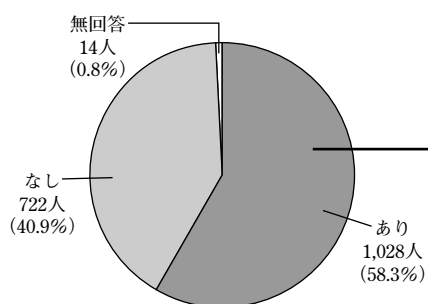


図3.15 依頼の理由（複数回答）

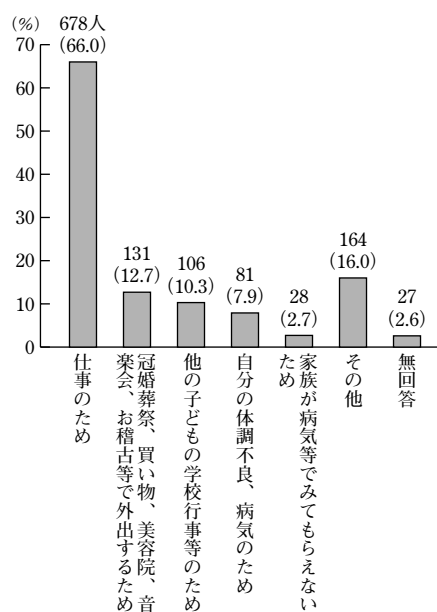
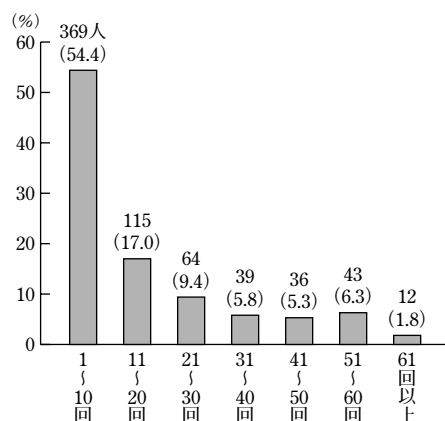


図3.16 仕事を理由とした依頼の状況



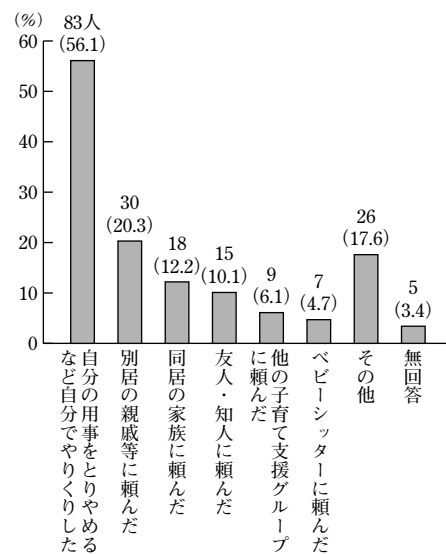
③ 援助は応じてもらえたか、断られた回数

援助の依頼（1,028人）に対して「依頼に応じてもらえた」人は83.9%と大半であったが、断られた事がある人は13.6%、すべて断られた人も0.8%いた。また、援助を断られた回数の総数は272回で、1人平均1.9回となっている。

④ 援助を断られた時の対応

援助を断られた時にどのように対応したかは、「自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした」が56.1%、「別居の親戚等に頼んだ」が20.3%、「同居の家族に頼んだ」が12.2%となっている。

図3.17 断られた時の対応（複数回答）



一方、この3ヶ月間に援助の依頼をしていない者は40.9%で、依頼しなかった理由は、「依頼する必要が生じなかったため」が圧倒的に多く71.9%、「同居の家族親戚、友人等に頼んだ」人も26.3%であった。

⑤ 当日急な援助依頼、変更、キャンセルについて

過去1年間で「当日急な援助依頼」をしたことが「あり」は24.9%で、その理由は「仕事のため」が56.1%、「自分の体調不良、病気のため」が14.5%となっている。

図 3.18 当日急な依頼の有無

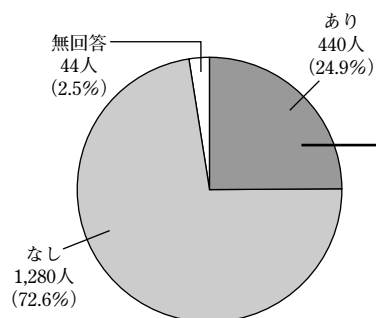
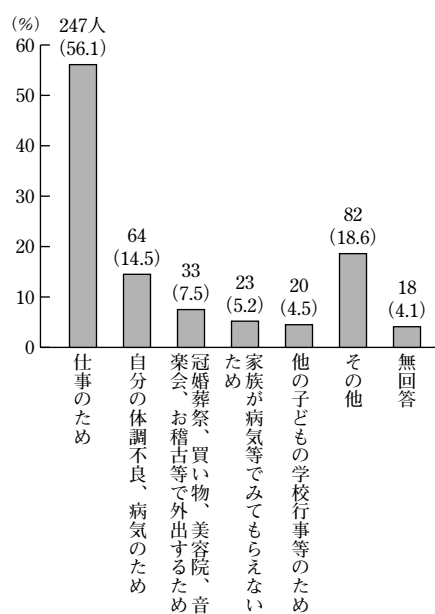


図 3.19 依頼の理由（複数回答）



当日急な援助依頼に対する提供会員の対応は、大半が「応じてもらえた」(80.0%)で、「断られたことがある」は14.1%、「すべて断られた」は3.9%となっている。

断られた時の対応は、「自分の用事をとりやめるなどして自分でやりくりした」48.1%、「別居の親戚等に頼んだ」19.0%、「友人・知人に頼んだ」16.5%である。

図3.20 提供会員の対応

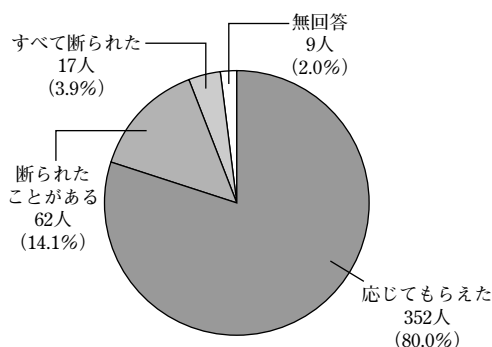
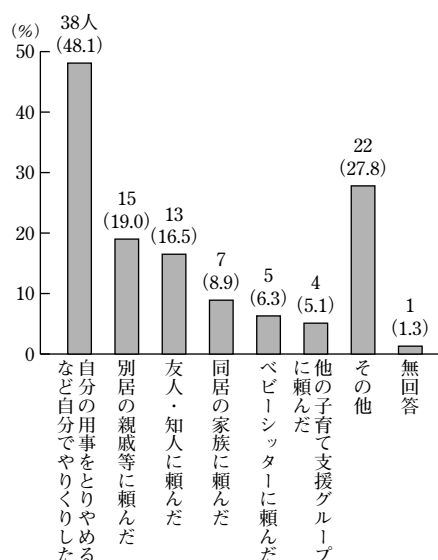


図3.21 断られた時の対応（複数回答）



過去1年間で急なキャンセルをしたことが「あり」は27.2%となっており、その理由は「子どもや自分・家族の病気のため」52.4%、「仕事や用事が変更となり依頼する理由がなくなった」が46.6%となっている。

図3.22 当日急な依頼キャンセルの有無

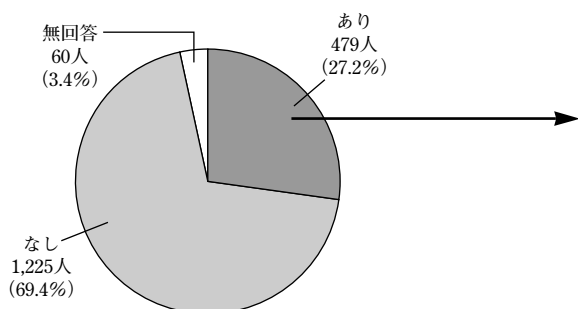
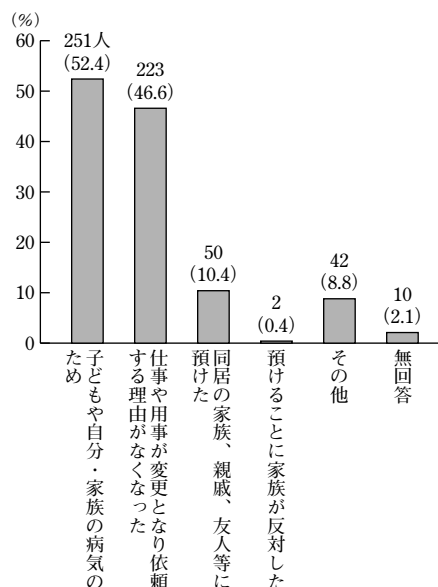


図3.23 キャンセルの理由（複数回答）



⑥ 当日急な援助内容や時間の変更について

過去1年間で当日急な援助内容の変更や時間の変更は21.9%がしており、その理由は「仕事のため」63.5%、「自分の体調不良、病気のため」10.9%である。また大半の人(93.3%)が急な援助内容の変更や時間の変更に対応してもらっていたが、「断られたことがある」(2.6%)人のその時の対応は、「自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした」が70.0%である。

図3.24 当日急な援助変更の有無

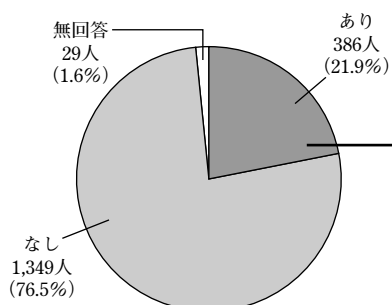
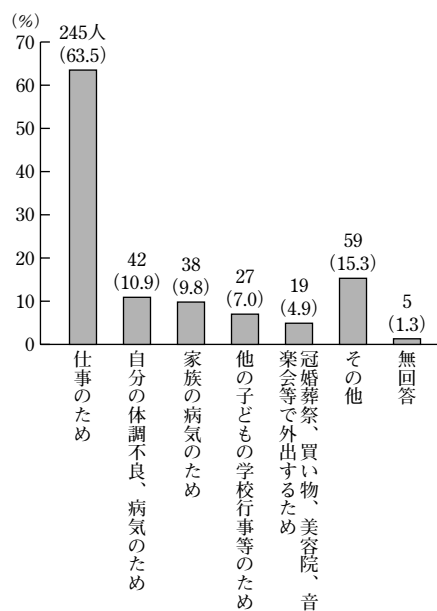


図3.25 変更の理由（複数回答）



⑦ 早朝（8時前）、夜間（10時以降）の援助について

過去1年間で「早朝の援助」を11.3%が依頼しており、その95.5%が対応してもらっている。「断られたことがある」のは1.0%（2人）である。また依頼の理由は大半が「仕事のため」80.4%となっている。

図3.26 早朝の援助依頼の有無

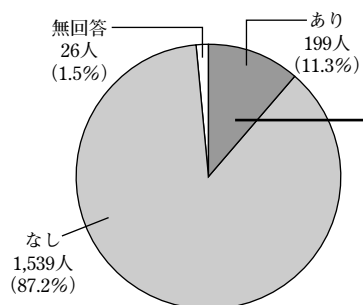


図3.27 提供会員の対応

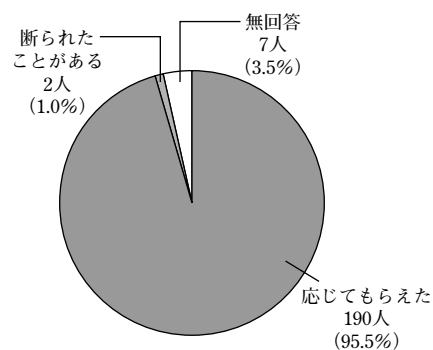
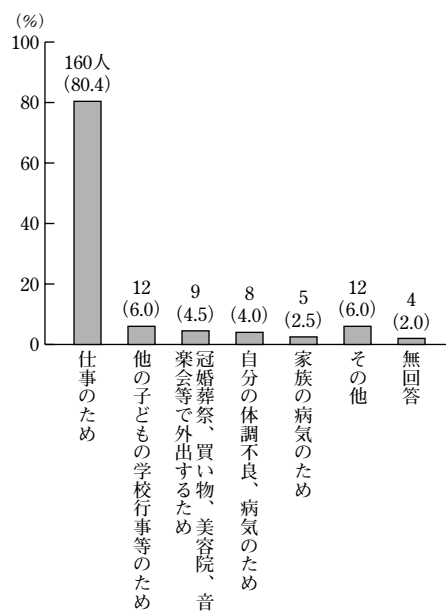


図3.28 依頼の理由（複数回答）



過去1年間で「夜10時以降の援助」を2.7%が依頼しており、回答を寄せた全員が援助を受けている。また援助依頼の理由は「仕事のため」75.0%、「冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽等で外出するため」14.6%である。

図3.29 夜10時以降の援助依頼の有無

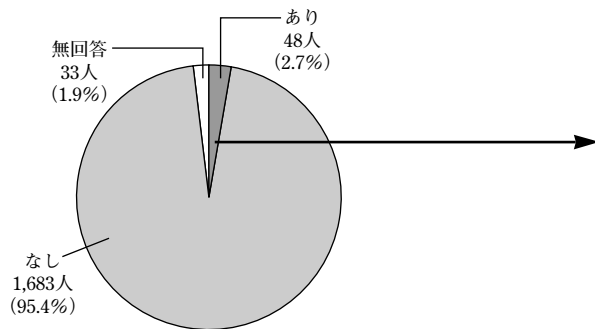


図3.30 提供会員の対応

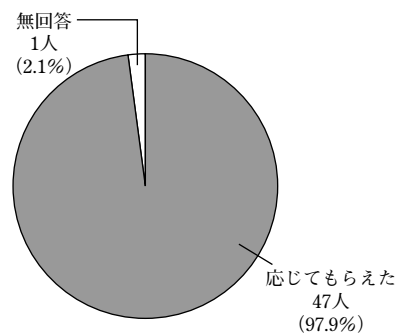
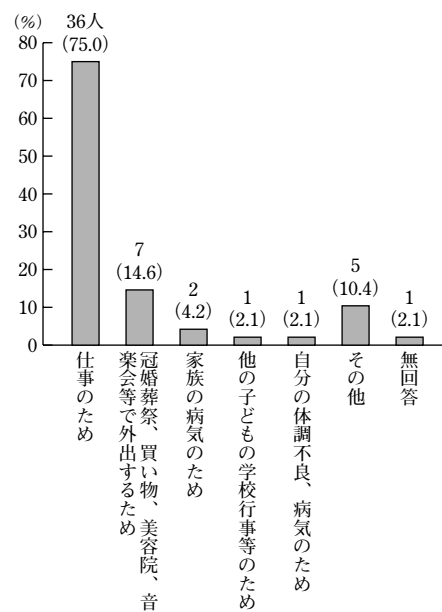


図3.31 依頼の理由（複数回答）



⑧ 土、日、祝日の援助依頼について

過去1年間で土、日、祝日の援助依頼をしたことが「あり」は22.1%で、その内の87.2%が援助を受けている。依頼理由は「仕事のため」65.4%、「冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため」14.1%である。「断られたことがある」(7.7%)、「すべて断られた」(1.0%)時の対応は、「自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした」44.1%、「別居の親戚等に頼んだ」「友人・知人に頼んだ」は17.6%である。

図3.32 土・日・祝祭日の援助依頼の有無

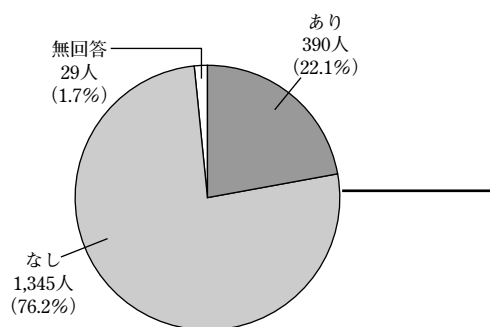


図3.34 依頼の理由（複数回答）

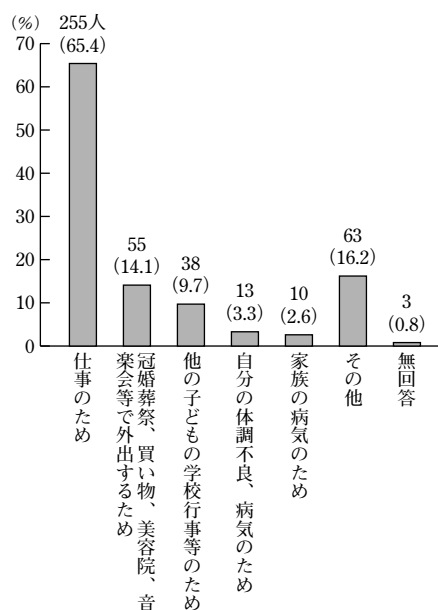
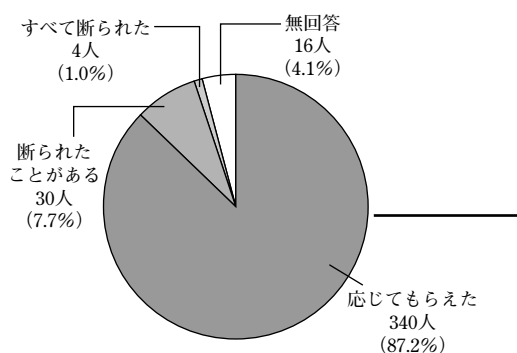


図3.33 提供会員の対応



⑨ 宿泊依頼について

過去1年間で宿泊の依頼をしたことが「あり」が11人（0.6%）で、その内72.7%が援助を受けている。宿泊の依頼理由は「仕事のため」が54.5%、「冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため」が27.3%となっている。

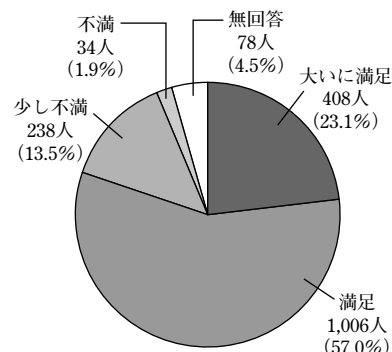
(3) 活動に対する評価

① 満足度、良いと思うこと、困っていること

センター活動に「満足」とする人は57.0%、「大いに満足」は23.1%で、あわせて80.1%が満足であると回答している。

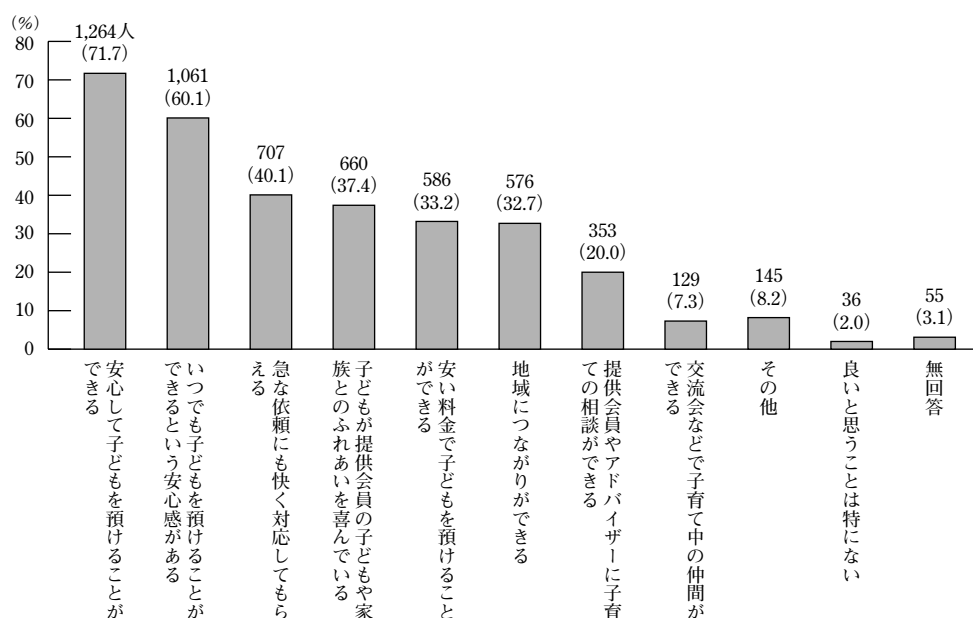
また「少し不満」は13.5%、「不満」は1.9%いたが、センター活動に対する評価は高いといえよう。

図3.35 センターに対する満足度



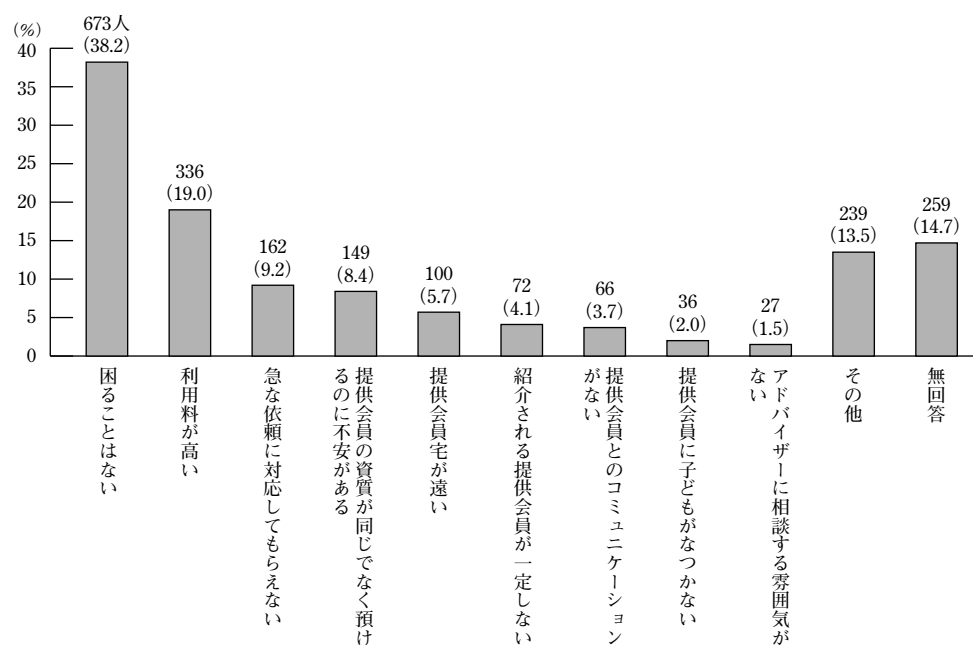
依頼して良かったことは、「安心して子どもを預けることができる」71.7%、「いつでも子どもを預けることが出来るという安心感がある」60.1%、「急な依頼にも快く対応してもらえる」40.1%、「子どもが提供会員の子どもや家族とのふれあいを喜んでいる」37.4%、「安い料金で子どもを預けることができる」33.2%、「地域につながりができる」32.7%、「提供会員やアドバイザーに子育ての相談ができる」20.0%である。「その他」の良かったこととして、「仕事のためあきらめていた習い事にかよわせることができた」「1対1でゆっくりと見てもらえる」「子どもが成長しているのがうれしい（良い刺激になっている）」「安心して仕事ができる」「母子だけの関係でなく1人で過ごせる時間があるとホッとする」などがある。

図3.36 援助依頼をして良い点（複数回答）



また、困っていることについては、「困ることはない」とする人が38.2%だが、一方、「利用料が高い」と回答している人が19.0%いる。「その他」の困ったこととして「病気の時に頼めない」「早朝・深夜・宿泊してもらえない」「提供会員が少ない」「土・日に依頼しづらい」「夏休み、冬休み等長期の預かりをしてもらえない」などである。

図3.37 援助依頼をして困っている点（複数回答）



(4) 自由記述—子育てについての意見・要望

子育てについての意見・要望を自由記述してもらったところ、多くの意見・要望をいただいた。

最も多いのは、仕事と育児の両立について困難・不安などの声で、特に子どもの病気時の大変さがつづられている。「保育施設の充実」、「企業・職場に対して、育児をしている社員にもっと配慮をしてほしい」、「父親の育児参加の少なさに対する不満、もっと積極的に育児をしてほしい」と願っている。

また、核家族であることや近隣と疎遠などの理由から一人で悩みながら育児をしている状況が伺え、気軽に相談できる相手や場所を望む声も多くあった。子育てをめぐる自分の考えなども寄せられた。

(仕事と育児の両立に関すること)

- ・男女平等で仕事を進めていく上で、子育て支援は必要なことだと感じます。サポートがあってうれしい。
- ・子供の病気休暇は会社で年5日とれること等規定ではいろいろ決まっていますが、そのとおりに利用できなかったり、学校の行事も多すぎて正社員で仕事を続けていくのは本当に大変です。家庭訪問、個人懇談、参観日、親子行事すべて当たり前ですが平日昼間にあり、別にプール当番、学校からの要請だけでなく地区としてもいろいろ回ってきます。4月から入学し丸4ヶ月たちましたが今後、役員等学校だけでなくPTAとしても関わってくるかと思うと仕事をかかえてはとてもできず、断れる雰囲気でもないのではとても重いです。
- ・非常勤講師をしているのですが、この仕事は一度依頼を断ると次がない状況です。二人目がほしいと思ってもふみきれない。保育システムの他に出産で退職した人の再雇用が優先的に行わなければ、子供の数は増えていけないと思う。
- ・仕事を持ちながら子育てをして又近くに親や頼る親戚もいない家にとって、安心して子供を預け仕事も専念できる環境が必要です。ファミリーもそうですが、もっと行政で子供を預けられる環境の整備とサービスが増えることを希望します。都では

サービス向上で保育園の民営化が進められていますが、本当にこれでいいのでしょうか。疑問であり不安です。女性が安心して仕事をしながら子育てができる環境の改善を望みます。子供を持って見えてきた世界がたくさんあります。

・育休が3年取得できるようになったが、社会復帰できるのかどうか不安が大きい。その間スキルアップ出来る講座が安価で気軽に受けられるとよい。

・仕事をしながらの子育ては大変である。子供にもっといろいろとしてやりたいと思っても生活のために働かねばならず、会社でも気まずい思いになりながら休むこともある。専業主婦がうらやましい。子育てに対する社会の理解を得られることを願います。一人ぼっちで戦っているような気がします。いろいろな人と話し合える場がほしい。

・仕事をしながら子育てをして実感するのは、身内の理解、協力なしでは仕事と子育ての両立は無理だということです。保育園やファミリーの制度の充実や社会や職場の理解も高まればと思う。

・多くの人達と関わりいろんな環境で育てたいと思っています。しかし親の都合で夕方から何軒もの家庭にご迷惑をかけてしまうのはと申し訳なく思います。男性と同じように働くためには一番子供が犠牲になっているのかもしれませんが、育児休暇、看護休暇等恵まれた所で仕事をして周囲の方も配慮して下さっていると感じますが、勤務時間内で終わる仕事量でもありません。時間外に働くことも多い毎日です。高校生を相手に仕事をしているので、小さい頃の親の関わりの大切さも強く感じています。

・子育てをしながら働くというのは、想像以上に大変です。実家のない私は公的機関に頼るしか方法がない現状です。保育園、学童に通っていてもファミサポに更に不足部分の時間をお願いしそこのお宅で家族のようにして可愛がってもらっています。親も子育てと仕事のやりくりが大変ですが、子供も長い間親と離れて生活しているので子供との精神的なつながりやスキンシップには気を使っている。

・実家から離れ、はじめは誰も知人がいない場所での子育てだったので不安が大きかった。仕事をするようになり友人が増え、夫の協力も得られたお陰で明るい子育て

ができた。そうでなかったら育児ノイローゼになっていたかもしれない。保育園の充実と夫の子育てについての啓蒙活動をしてほしい。

- ・ 地方自治体に金銭的余裕がなく環境、人的、保育園の定員オーバー、学童保育の条件が悪くなり子育てをしながら仕事を続けていくことに非常に不安を感じます。安心して子育てをし仕事を続けたいのです。
- ・ 女性が子育てのために社会から離れ、その後復帰することがむづかしい環境である。男性の育児参加や社会復帰する環境を整えていただければ、働きたくても働けない専業主婦が減ると思う。
- ・ 働く女性や片親で子育てする家庭、核家族で母親しか子育てをする人がいない家庭が増えて来ている中、地域で子育てを支援する体制がととのわなければますます少子化は進むと思います。
- ・ 自分が子供の頃はよく祖父母に面倒をみてもらったが、今、自分の親が祖父母になってみると「孫2人いっぺんには大変でみきれない」といっています。本当は自分の親が近くにいるので困った時は頼みたいのですが、そうもいかずファミリーに登録しています。仕事をもって子育てをすることを選んだ自分に責任があるとは思いますが、自分の親が子供を預かることをしぶっていると板挟みのようになり、時々やりきれない気持ちになることがあります。なるべく子供にはいやな思いをさせないようにしたいと思っています。
- ・ 子供と共に笑いあえる時は本当に幸せですが、うまくいかなかったり病気が長く続く時も多く、毎日一喜一憂しています。つらい時期には仕事で気分転換できるので仕事と子育てを両方可えるこの環境をととてもありがたく思っている。
- ・ いかに公的機関が充実したとしても個人の事情にすべて対応してもらうことは不可能だし、緊急時の対応は親の責任で行わなければならない、その時の仕事とのかねあいも自己責任で処理しなければなりません。仕方のないことですがしんどいです。
- ・ 行政は、女性は会社にとって補助的な仕事をしているから休めやすいだろうと思っているのでしょうか。性差で仕事の質量を見もせずに少子化は止まりません。

(病児保育に関すること)

- ・ 子供が病気でも仕事の為お願いしなければならず、安心して預けられる場所がほしい。医師や看護婦がいる所など。
- ・ 子どもが病気の時（重症ではないとき）提供会員への依頼は頼みにくく病児保育室を利用しますが、対応時間を長くしてほしい。8：30～17：00等では厳しいです。子どもの病気や行事等で休みにくく感じるため。
- ・ 病気時も見てもらえる公的な保育所があれば助かる。
- ・ 一番困ったことは病児保育の件です。伝染病の病気だと保育園や学校を休まねばならず、親も連続して休みをとるのもたいへんです。治りかけの子供の世話をファミリーに頼んだこともありました。子供のためには親が一番ですが、そうそうやすめないのも現実です。
- ・ 普段は保育園に通っていますが、病気の時が一番困ります。夫は単身赴任中でありファミリーや実家の親が頼りです。夫はいわゆる企業戦士で、単身赴任になる前も育児は頼めませんでした（早朝、深夜帰宅のため）。お父さんが夕食時には帰ってくる社会になってほしいと思う。
- ・ 病気時が1番子供と離れるのがつらい。事業主が保育園の行事、病気時の看護のことをわかってもらえず仕事をやめることになりました。もう少し労働に対し政府、自治体に考えていただきたい。
- ・ 市には病児保育はありません。近隣の地域にはあっても「在住」もしくは「その地域」の保育所に通っていないなければならないという制限がある。近くに見てくれる人がいないため困っている。
- ・ 病気の後、仕事はどうしても休めなくてそれでも保育園に連れて行くには体力的に問題がある時（病後児）、子供をどこに預けたらよいか悩む。幸いファミリーがみってくれるので助かる。

- ・ 子供は突然病気になったりまた自分が体調不良の時にも子供のことは気になります。元気いっぱい動き回ったりヨチヨチ歩き回ったりする子供達から一時も目を離すことができません。子育てをする時間はとても貴重な時間と思っていますが、「体力が勝負」という方が本音のような感じです。

- ・ 休日診療、救急の小児科を増やしてほしいです。

- ・ 子供が病気になった時安心してみていただける場所や、お父さん、お母さんも時にはリフレッシュできることが大切に思います。そして子供と過ごす時間も大切に。

(保育所や学童保育等、保育施設に関すること)

- ・ 学童保育がもっと充実していればファミサポのお世話になる回数も減るのに、いつも思います。役所は自分の負担が増えるのをいやがるばかりで役にたちません。田舎で人家の少ない所が通学路に何か所もあるのに、交通量が多く子供を安心して外にだせません。昼間家にいない母親は論外という雰囲気が小学校にあり困っています。

- ・ 4月にこどもを小学校付属幼稚園に入れるために仕事をやめざるをえなかった。学童保育所、病児保育所が整備されていれば…と思います。

- ・ 学童保育の時間の延長を望む。学校にあがれば仕事量が増やせてバリバリ働けるということは全くない。

- ・ 学童保育や児童クラブがない地域で長期休暇時に困っている。

- ・ 仕事の時間が夕方から夜なので、保育園やベビーホームなど条件の合うところがない。

- ・ 保育施設の充実を今後期待したい。施設の数だけでなく質にも重点を置いてほしい。

- ・ 現在無職だが、子供が1歳になれば仕事を再開したいと思っている。保育園の時間がもう少し早く夜は遅くまであずけられる所が多くなれば良いと思う。

- ・保育園や幼稚園などで一時預かりができるところがおおくなればよいと思う。
- ・地域で安心して子育てできる環境の整備を早急に整えてほしい。産褥期、障害児のケア、学童保育などをとりまとめてくれる場所がほしい。

(企業・職場に関すること)

- ・取り巻く環境が豊かになったとはいえ、子育てが楽になることはない。よく年輩の方に 「今は楽だ」 いわれるが、そうでもないことを知って頂きたい。又働く者に対して、制度の充実は勿論だが会社側の努力をもっとしてほしい。規則は作ったら終わりではなく、活用されなければならないと思う。
- ・今回2人目の出産で仕事をやめたが、ワークシェアリングなどによる短時間勤務の制度があれば、仕事を続けることも考えたかもしれない。正社員でフルタイムで働いていた時は正直仕事と育児の両立はかなり厳しかった。
- ・会社は社員一人一人のこどもの育て方を調査し、会社としてどのようにサポート（就労時間、勤務形態等）があるのかを当人と探っていけるようなシステムを作してほしい。
- ・ワークシェアリングが広がり給料が減ってもゆとりがある方がよい。社会とつながっていたいし、子供も大切にしたい。子育てがとても損のような考えにかたむいているのは理解できない。
- ・上司の理解なしでは子育てどころか子供も埋めないことがよくわかった。

(父親の子育て参加に関すること)

- ・夫は協力的であるが、有休も土曜の休みもなく、時間も早朝から夜遅いです。その為どうしても子供の病気、台風などで休まなければいけない時は、私が優先的に仕事を休まなければいけない。しかたがないが少し不公平に感じることもある。
- ・仕事が忙しいという理由だけで育児に全く関わらずにいる父親（夫）に対しての不

満が強い。共働きでありながら子育ては女の仕事という古い考え方がまだまだ深く根付いている社会なのが残念である。職場においても子育て中の人に対しての少し思いやりがほしいところである。

- ・ 現在夫は単身赴任で4歳と小2の子供を2人育てています。実家も遠く5日に1度は夜9時までの勤務があり子育てに苦戦しています。いろいろな制度が改善されていますが単身赴任の期間や距離等も社会全体で見直してほしいと思います。
- ・ 父親の子育てにおける重要性をもっと広く認識してもらいたい。父親が子育てに参加しやすい環境作り（職場の雰囲気、PTAや授業参観に参加しやすい職場作り、社会認識）を今後はめざしていかなければならない気がする。
- ・ 子育て中の母親が一番必要としているのは、父親の助けだと思います。ファミリー等の公的機関の充実ももちろん大切ですが、もっと父親を家庭に帰してほしい（仕事量の軽減）。そういう世の中になるのを望みます。
- ・ 父親が子育てに参加したいと思っても仕事の都合で参加できないので、社会的にももう少し休みをとりやすくしてほしい。

（悩みーこれでいいのかしらなど）

- ・ 少子化で近くに子どもがいらないため大人の中で過ごすことが多く、それが自立のさまたげになっている感があり心配です。
- ・ 社会が変わり、親は迷いながら子供を育てています。マニュアル通りに大人になった私達の世代は、思い通りにできない子育てに悩み苦しみ、その気持ちを人に伝えられずつついっ孤独な子育てをしがちです。ちょっとだけ誰かに頼ることができたら、ずいぶん楽になれると思います。
- ・ 子供を良い方向に導きたいという願望からつい自分も子供に厳しくなりがちだが、お互いのためおおらかな気持ちで家族だけでなく地域の人とのつながりの中でみんな子育て…が精神的にとってもよい効果をうんでいる。

- ・本当に子育ては自分を成長させてくれると実感しています。毎日考え悩んでいます。これからも私の戦いは続きます。
- ・子育ては楽しい。やり方次第で自分の経験力になっていくという思いを持つ時がある。子育ては難しい。子供のためと思ったはずが単に自分の思いこみだけで反省せざるを得ない。
- ・子どもは待つということがむづかしい。とくに小さいとできません。そのことからストレスを感じることがある。でもそんな時会員の方の手助けがあると不思議とストレスを感じず子供に対応することができる。自分一人でないと思うと急に余裕を充分もてる。
- ・最近にはめずらしい3人の子育て中なのでなかなか自分の時間がない。主人は仕事で忙しいし子どものためにも思っても母親の息抜きをしたいと思うこともあり、子育て中の母親の息抜きができるような所、場所を提供してほしい。
- ・忙しい中でも楽しくしている。子供の成長が著しいのでびっくりやらうれしいやらです。危険なこと以外はのびのびとすればよいと思う。
- ・私は主人が毎日夜中すぎに帰ってくる為、全くあてにできず話しもできないので、子育てがツラくなり子供にあたってしまった。そういうとき保育室に預け子供と離れた時正直ほっとした。気軽に子供を預けられるところ（保育のプロがいるところ）がもっとどの地域にもあり充実していくと良い。
- ・2人の子育てを通して、多くの人に支えられ、助けられてきたと思う。子育ての大変な時期を過ぎると、ついその事を忘れがちになるがいつか提供会員になってお役に立ちたいと思う。
- ・子供は一人で親も子育てには不慣れでとまどうことがある。

(情報交換・交流に関すること)

- ・気軽に相談できる人や子ども同士の遊び仲間が身近にいればいいなと思います。近

所づきあいが少ないので。

- ・地域の掲示板や広報誌をできるだけ見ることにしていますが、日常生活において地域の子育てに関する情報がなかなか得られません。コスト面に関係するかも知れませんが、もっと情報が得られたらいいのにとおもいます。
- ・子育てや子供を持つ親との交流ができる場所、情報がほしい。気安く自由に行える環境があればよい。仕事をしていない親が育児の不安、問題等を情報交換することで楽しく育児が行えると思う。
- ・産後のケアとして依頼者宅へ伺い話を聞いたり相談にのるような活動を市で取り入れてほしい。市の職員が訪問する活動はあるが、身近にすむ人どおしで活動するのは子育て中でも母親が講座などで自分を高める機会など多くあればよい。(仕事をしていない場合)
- ・核家族化や実家が遠いなどで老年の方に接する機会がないのでお年寄りに接する機会があればいいなあと思います。昔の遊びを教えてもらったり昔話をしてもらったりと、親達も生活の知恵などご教授してもらったりする時間を過ごすのまたのしいかなと思います。気持ちもでてくるのでは…
- ・少子化で周りに同年代の子供を持つ方が少なく交流がむづかしいです。
- ・いつでも気軽に出かけて行って先輩の方やもう少し年輩の方などとお話のやりとりができるような施設があったらうれしい。自分の親が遠くにいるので何かの時に相談できるような場所がほしい。
- ・親子で参加できるイベントも上の子と参加したいと思っても赤ちゃん連れでは参加できないものもある。外にでる機会が制限されてしまうことが多い。いろいろな場面で気軽に利用できる託児施設が増えると子育てを楽しみながらできると思います。
- ・自分の親や主人の親と離れていて知り合いもほとんどいない所で育児をするのはとても不安。同じ子育て中の友達を作ったり市等が行っている行事にどんどん参かしないと子供と2人とのこされそうです。自分から外にでれない人のためにも手を

さしのべてほしい。

- ・地域とのつながりが大切と思いながら、犯罪やプライバシーという相反するところがありその矛盾に揺れている。
- ・初めての育児で悩むことが多かったが、支援センターに行くことにより、先輩ママや先生等にアドバイスやはげましをもらいすくわれました。家庭に入ると孤立してしまうのだと思いました。地域センターが他の知己の人の一緒に遊べるともったいいのではと思います。

(子育てをめぐる自分の考えや要望など)

- ・子育て中に乳児医療費の助成制度やファミリーサポート等、いろいろ整ってきていますが、親支援に傾いているように思います。子育て支援がすべて親支援にならないように自分も含めてですが、子供をどうしたらよりよく育てていけるか考えるべきだと思っています。親になる前に学ぶべきものがあつたのでは、と思います。
- ・子育てがむずかしくなっているのが少子化の原因の一つとされていますが、子育ては素晴らしいことだし、結婚も私にとって素晴らしい。素晴らしいと思える中にファミサポを始め多くの支援をたくさんの方にいただき感謝でいっぱいです。
- ・少子化と言われる今だからこそ、子育てや、それに対するまわりの関心を国や地域からもっと積極的に取り組んでほしい。社会で育てるという安心感を得られたら皆もっと楽しく子育てできると思います。
- ・小6、小1、3歳と3人の子どもがいます。公的援助の少ない県だとTVで他県の子育てサポートの情報を見て思います。経済的には大変ですが、兄弟が多いっていいなあと感じる毎日です。我が家の子どもは多動傾向があり安心して遊ばせることのできる場所がなく、ことばの教室とかもっともっと子ども一人一人に対応してもらえるサービスがあれば良いと思います。

(5) 自由記述ーファミリー・サポート・センター活動についての意見・要望

ファミリー・サポート・センター活動について最も多く寄せられたのは、提供会員及びアドバイザーに対する感謝の声である。次いで多いのは利用料金についてで、割引制度の導入や補助をしてほしいなどである。また、提供会員の資質を問題とする声もあり、センターに対しては「依頼にすぐ対応してほしい」、「受付時間を柔軟にしてほしい」、「病児、緊急時にも対応してほしい」、「交流の場を作してほしい」などであった。

(提供会員・センター活動に感謝)

- ・フルで共働きをして子供2人を育てている。ファミサポはとってもありがたい制度です。 又、提供会員の方がとても親切で会話をすることでサポートしていただいているという感があり、子育ての間ちょっとした心のやすらぎの場になっている。
- ・保育園へ通っているときはよく利用しました。その時は年輩の提供会員さんで子どもも 「おじいちゃん、おばあちゃん」とよくなついていたのでそういう方を増やしてほしい。いざというとき助かっている。
- ・娘が小学校に入り学童が5時という現実にあふつきつくづく世の中は働く親に冷たいと痛感しました。そこで知ったのがファミリーサポートセンターです。本当にありがたく思いました。
- ・ファミリーのシステムがあるということが、心の保険になり安心して仕事をすることができます。子育ての先輩を紹介してもらえ話しをするだけでも気が晴れる思いで嬉しい。
- ・仕事をしながら育児をする者としては困った時に助けてくれる人がいるというのは心強い。また仕事をしていないとしても疲れた時には誰かに助けてもらいながら子育てをしたらきっと苦しみより楽しみが増えると思う。
- ・実家の親も働いているので、地域の中にサポート事業があるのでとても助かる。

- ・急な残業があったらどうしようと不安でしたが、安心して働けます。
- ・働きながらの子育ては大変ですが、サポートしていただくことができるようになり、家族だけではできない問題も可能になりました。今は不安を感じる事がなく働けて子育てが楽しくなりました。
- ・核家族、共働きの生活をしているとどうしても子供をどこに預けるか頭を悩ませる。長期休みになるとなおさらで祖父母、親、友人、幼稚園すべてを考えてスケジュールを組むという大仕事になる。それでもすきまがでてしまいそこをうめてくれるファミリーに大変感謝している。金額的には助かる（入会金、保険代なし）内容もしっかりしていますし相手の方もいい方でもっと広まってほしい。
- ・センターがあって生活できる。頼る親戚が近くにいないのでいざというとき（2人とも日曜出勤など）本当に助かるしまた、子供も楽しみにしている。
- ・子供もなついており、朝早くの依頼にもかかわらず、いつもきていただいて感謝しています。ご近所の方とのつながりもできるので、いざという時のことも考えてお願いしています。
- ・母子家庭になってから3年がたとうとしていますが、子どもが2歳を迎えるまでは月に2回以上も熱を出し、その都度サポートさんをお願いをしていました。いつも子どもの様子を気遣って暖かく接していただいて、そんな方のおかげで毎日がんばれました。
- ・このような活動があることを知り、とても勇気がわいてきた。育休中でも利用する機会があれば是非利用したい。又、自分がサポートできる立場になればお役にたきたい。
- ・残業や夜勤と勤務が不規則の上、痴呆の祖父とデーサービスを利用している祖母がいるためファミサポにはとても助けられています。
- ・仕事を再開するのに「大変ねー」と保育士に言われとても不安になったが、ファミサポのスタッフの方の「大丈夫」との言葉にとっても救われました。これからもこち

らの立場に立って頂いてたくさんの人の力になって頂きたいと思います。

- ・第2子が6ヶ月になったので仕事を再開しましたが、出張が重なり出先のファミリーで預かっていただきました（場所により在住の者でないとダメのようですが）。こうした活動が全国で充実していることは大変うれしい。
- ・月～金の朝夜4人のサポートの方に交替をお願いしています。みなさんとても良い方で子どももなつき安心してお任せしています。サポートの方達なしでは育児ができない状態なので大変助かっています。子どもが悪いことをした場合には、遠慮なくしかっていただければと思います。他人の子どもを注意するのは難しいとは思いますが。
- ・ファミサポの活動、協力会員さんには本当に助けてもらっています。主に病児の看病保育を依頼していますが、センターの活動がなければ働いていられないと感謝している。
- ・共働きにとってとても助かっています。子どもは心臓が悪く学校の送り迎えが必要です。いつも急なお迎えを快く引き受けてくださり感謝しています。又心臓のことを心配してもらったり…ずーっとセンターの力が必要です。いつもありがとうございます。
- ・本当にお世話になっています。いつも安心して働くことが出来るのはこの制度のお陰です。夕方急をお願いすることが多かったのに快く受けてくださいました。有償とはいえボランティア精神がないとできない仕事だと感謝しています。
- ・学童等の社会的整備が不十分の中でファミサポの存在は大いにありがたく思っている。治安等が不安になってきた昨今、子どもの安全確保は必須だ。今後も積極的な活動の展開をお願いしたい。
- ・楽しく子育てをしていますが、それでもストレスを感じることはたびたびあり、仕事があるということは良い息抜きとなっています。安心して預けられる場所があるということは仕事を続ける上で必要不可欠なことで、センターを通じて良い方と巡り会えて大変幸せだと思っています。

- ・協力会員の方に遊んでもらっている様子から学ぶべきところが多々あります。破棄するものを捨てる前に子どもに手作りのおもちゃを作ってくださったり感心させられます。
- ・両親の実家が遠く親族も1人もいない家族にとって本当に素晴らしい組織ができたと思う。資格試験の勉強や上の子の授業参観など大いに利用させていただき本当に助かりました。他のご家庭で我が家にはない遊び、おもちゃ、公園遊びetc.子供も大満足でした。これからも是非がんばっていただきたいです。
- ・他の人に子供を預けるのは勇気がいりますが、親も子もいい社会勉強になり、家族以外の人と接することも大切と思いました。
- ・子供が小さいうちは親がしっかりかかわってやりたいものですが、仕事などでむづかしい場合は親代わりが必要だと思います。我が家は祖父母とのかかわりに支えられて育ちました。ファミサポは「遠くの親戚より近くの他人」ということで需要が高まるとよいと思います。
- ・今のところ困ることはいないけれど、子供が入院することになったり、自分の体調が悪いときなど長くみてもらうこともあると思う。ファミリーに登録しておくといざというときに安心な気がする。
- ・両方の両親が県外に住んでいるため、このような制度がとてもありがたい。
- ・いつでも子供を預ける所があるだけでも子育てが楽しく感じます。
- ・安心できる人に子供をみてもらうと子供にとって良い刺激になっていることが、提携会員さん宅から帰って来たときよくわかる。
- ・このような活動があり大変助かっている。相談もしやすいのでこれからも利用していきたい。
- ・障害のある子供でも快く引き受けてくださり慣れない対応ががんばってくれてありがたいです。

- ・子供を通して今まで知り合ったことがない年齢の人とも知り合いになれ、子育てというよりも「親育ち」という見方が楽しいのではないのでしょうか。
- ・大変助かっている。提供会員さんによくしていただき、子供もなついて楽しみにしている。もっと地域の方に広めていきたいくらいです。
- ・サポートセンターのアドバイザーさんに子育て、仕事、人間関係…いろいろ悩みを相談しています。ファミサポがなければこの3年間これたか…大変感謝しています。
- ・これからもいざという時に利用するとおもいますので、よろしくお願いします。
- ・実家が遠いのでファミサポの活動はとても助かっています。前日の依頼にも快く対応してくれました。
- ・日頃より心強く感じ感謝の気持ちでいっぱいです。追いつめられていることの方が多く、助けて頂き心の余裕につながりました。
- ・センターの活動については必要不可欠なものであり、大変ありがたく思っています。又援助会員の方がたくさんいらっしゃる事が幸せだと思います。
- ・ファミサポがあって本当によかった。まだ1回も利用したことがありませんが何かあった時は利用したい。
- ・どの提供会員さんも本当にうちの子どもを心から愛してくださりお世話してくださっていることがよくわかり安心している。又アドバイザーさんもいつもどうにかやりくりして依頼に答えてくださっているのもとても助かる。
- ・非常にきめ細かい心使いがなされ各方面への配慮、連絡、会員への確認、指導等とても感動すると共に本当に安心してお願いすることができました。アドバイザーの志の高さを感じます。私自身も成長させてもらっています。
- ・子育てを終えた世代の方を紹介していただきました。私は他県の出身なので近所のアパートの知り合いがほとんどいない地域でしたので、親戚のおばちゃまを紹介し

ていただいたようで嬉しいです。地域に知り合いがいることは精神的にも大きな支えになります。

- ・私は、提供会員に恵まれたので非常に助かっております。年の近い子どももいるので話しもあうようです。いつも快くひきうけていただきます。
- ・交流会などで子育て仲間ができとてもうれしかった。
- ・ファミサポの協力がないと今の生活はたちゆきません。越して来たため身内も近くにいませんし知り合いも全くいませんでした。今では何事も相談できる心強い存在よりどころとなっています。子どもも「帰りたくない。遊ぶー」と泣くほどご家族に可愛がって頂いています。感謝、感謝です。
- ・先方は本当にやさしく子育ての先輩としてアドバイスしてくれ感謝しています。子どもが入院した時、迷子になった時も必死になって探してくれました。地元でない私は引っ越ししてきた時話し合う友人もなく悩み少しノイローゼ気味でした。アドバイザーさんに泣きながら話しをして聞いていただいたこともあります。助けて頂かなければ自殺していたかもしれません。その位感謝しています。
- ・家族以外の人に子供が接するのはとてもよいことだと思う。いつも快く依頼に応じてもらえ助かっている。
- ・核家族での子育ては大変です。助けてもらえる時には肩の荷を下ろしていいんだよ。というメッセージがうれしく支えになっています。
- ・提供会員さんはなくてはならない存在です。やはり子供が好きで親切な方が多くとても安心です。両親が遠方にいるため本当に助かります。
- ・転勤のある我が家ではとても助かる（実家が遠いので）。
- ・とてもすばらしい活動です。子供が大きくなりゆとりが出ると、提供会員になりお役にたちたい。

- ・利用したことはありませんが、いざという時のためにというのは心強い。すごく安心感がある。
- ・精力的に活動していただいてありがたく思っています。最近は利用する機会はないが、何かあった時に依頼できるという安心感がある。
- ・0、1歳児、又病児を1対1で見えていただけるこの活動はとても良いと思います。2歳をすぎると集団であずかる民間の保育所の方がいつでも預かってもらえ料金も同じくらいなので便利です。
- ・私が利用しているセンターは週3～4回の利用や突然のお願いにも必ず誰かが引き受けてくださるので本当に助かっている。その一方地域や地区によりセンターの利用に制限がある所もあり、活動内容にばらつきがあるのかしら…とも感じる。まだファミサポのない地域にももっと増えていくと働く女性にとってはとても力強いと思う。

(利用料に関する意見ー割引制度や補助の要望など)

- ・多子家庭では金額も高くなり預けたくても預けられない。長時間預かりの場合などの考慮がほしい。
- ・利用料についてですが、日・祝日は学童がやすみでファミサポにお願いしているが、2人分となるとかなりの出費になる。(ここは2人分支払う)
- ・私の町にこの制度がなかったら一体どうしていたのかと考えると働く事自体が不可能だったと思う。今はちょっとした熱の時にお願いしている。長時間利用だとかなり料金がかさむので何時間以降割安になると助かる。
- ・短時間の場合は負担に感じませんが、長時間の場合には高く感じます。1日(7h)位の時は、金額を少し割り引いてもらえるとうれしい。
- ・姉妹2人で同じ塾へお送りを依頼しているが、こういう場合は1人分の料金にする等、配慮があっても良いと思う。1時間預ける場合と送迎の場合と同じ料金という

のは納得いかない。

- ・ 交替勤務で保育所への送迎ができない時に主に使うようしていて助かる。時々急な発熱などで病児保育に預けられなかったり、休めなかった時にも預かってもらっているが、1日預かってもらおうと料金が1万円弱となってしまう。1日預かりの場合はせめて5000円ぐらいにするかの料金システムの改善を願う。
- ・ 1時間600円という金額は協力会員にとっては高くない金額であるが、病気時の時日7000円で2、3日預けると2万円にもなる。このような場合何らかの方法を考えてほしい。
- ・ 実家のような気持ちであずけられる事本当に喜んでいる。ただ主婦にとって、リフレッシュの為にはいくら700円でもつかうことはできません。各家庭によりちがうでしょうが。補助があるとうれしいです。特に3人目の使用の時など。
- ・ 活動は私にとって絶対必要なものとなっています。ただ、フルタイムで働いている場合、1日預かってもらおうとかなりの料金になります。すこしでも行政からの援助があると助かります。子どもを預かる大変さはわかるので料金を下げるということは考えられません。
- ・ 子ども2人を宿泊でいつも依頼しているのですが、やはり料金が高いです。大切な子どもをみてもらうのだから、安い料金でみてもらうのも不安があります。提供会員が受け取る金額はそのまま依頼会員が支払う金額は少しでも安くなれば良いと思います。
- ・ 他の一時保育に比べると利用料金は安いと思うが、パートやバイトなどの仕事をするために預けるのはむづかしいと思う。
- ・ 産後の直後にだけ上の子供の保育園への送迎をお願いしました。料金がもう少し安ければ、もっと長い間送迎のお願いをした。
- ・ 長時間預けると保育園の1日保育より高くなってしまうので、料金的に預けづらい。

- ・ファミサポの提供会員の方は収入のためだけでなく、親切に見てくださるので本当に助かります。これが金額を高くするとお金のために提供会員になる人が出てくると思うので値上げをしないでほしい。
- ・金銭目的で援助会員になる人がないよう見極めてほしい。だから料金は絶対あげないでほしい。
- ・市町村の状況によっては（学校に学童保育を設置できない場合等）利用料の負担を軽減すべきだと思います。依頼がもっとあると思います。
- ・夫婦ふたりとも実家が遠く何かあるたびファミサポ、民間の託児所、保育園等その時の用により預け場所が違います。子供は人見知りせずすぐなれますが、利用回数が増えると、経済的負担が重くのしかかります。かといって連れ出すことも出来ず悩めます。
- ・預ける人は収入が少ないので仕事をするという事情だと思いますがファミサポの金額では高くて頼むことができません。家計のことを考えると自分で頑張るしかありません。入会はしましたが実際には使えません。
- ・センターの職員の方にはいつも親切に対応していただきいつもありがたく感謝しています。料金は市町村毎にちがうのはどういった理由でしょうか。私の所属しているセンターは1時間600円ですが、もう少し安くしていただけないかと思います。協力会員の方々に申し訳ない程よくしてもらっています。

（提供会員の資質の問題に関すること）

- ・提供会員の資質にばらつきがある。もっと勉強してほしい。
- ・提供会員さんの資質、雰囲気などとても大事だと思いますので、資質を高める研修は続けてほしい。
- ・3人の方に見てもらったが、1人の方があまりに神経質で子供達もうっとうしがったり、親としても「もう少し楽にして」という気分でした。他の提供会員とあまり

に違いすぎて、気分を悪くした事もあった。

- ・現在の提供会員さんにはとても満足していますが、前の方に不満があった。危険な道を本人は自転車を押して、子供を歩かせていたため、子供が飛び出したりすると子供のせいにされとても不愉快な思いがしました。紹介していただく時には1名だけでなく2～3名の中から選べるようにしていただきたい。また自転車の送迎の場合には年齢や体力などもきちんとチェックしてほしい。
- ・上の子の行事で下の子を預けたが、あまり小さかったのでいい顔してもらえなかった。小さな子供でも大丈夫なようにしてほしい。頼む側でもすまないと思う気持ちがあるので。
- ・今担当してもらっている方は、保育士としての経験もありプロの意識の強い方だが、以前の方は仕事のため1ヶ月前に頼んであったのに1週間前に「急用ができた」と断られた。大変安価な報酬でやっていただいているので申し訳ないが、サポート会員の方により意識の違いはあるのではないか。全体としては細かな規則もなく事故責任で預けることができ、とてもすばらしいシステムだ。
- ・提供会員の実習をきちんとした方がよい。保育に携わっていた人でも年をとられたりして口は動くが座ったら座ったままという人がある。少しでも助けてほしいと思い依頼したのにストレスをかけられよけいに困ったことがある。また、報告書を書く為に長い時間かけ子供はほうりっぱなしの方もいる（報告書は楽しみですが）。書き方の注意等もう少し会員の資質について考えてほしい。
- ・登録はしたが、一度も利用していません。はじめの挨拶時提供会員の今の様子を見せてほしいとお願いをしたら、ちらかっていると断られました。アドバイザーの方からは見学してきてくださいといわれましたが…。後日近所の方からその提供会員の方の評判が近所でも相当悪く、利用しなくて良かったと思った。もっと信頼の置ける人に提供会員をお願いしていただけないと、せっかく時間をかけて事前打ち合わせをしたのに。
- ・バイトとしてみている提供会員には残念。つながりとか大切にしてほしい。

- ・仕事の為定期的に預ける時や長時間保育の時は民間の保育ママさんをお願いし、講習会出席や短時間保育の時はファミサポを利用しています。理由は民間の場合1日の保育内容を記載するノートが義務づけられ細かく伝えられます。予約をしている場合、子どもの体調が悪い場合も預かってくれ保育内容も適切です。ファミサポの場合、預かる人にもよりますがボランティアというためでしょうか、責任感等が民間より劣り不安に思うことがあります。

(提供会員不足の解消などの意見・要望)

- ・提供会員を増やすなどして依頼に対応できるようにしてほしい。
- ・都合のあった提供会員に会えず登録しただけになった。こちらも行事にいけず申し訳ないと思っているが、提供会員をふやしてほしい。
- ・幸い近くに提供会員の方がいらして援助依頼できる状況にあるので利用しているが、同僚に聞くと会員数が不足しているため使いたくても利用できない方が多かった。
- ・依頼したら絶対に引き受けていただけるという安心感がほしい。その為にも会員数を増やしていくように環境を整えてほしい。
- ・出産後、子育て中に鬱状態やノイローゼになってしまった知人がいます。センターを利用すればよいのですが、申請制度なので自分からお願いしなくてはならないのでこのような方は利用できていません。この制度では自立した利用者が使えるものです。もっと気軽に頼めるように、又本人も変わらなければせっかく良い制度が活用できません。活用例などもっとPRを積極的に行いたいかがでしょうか。
- ・残業や子どもが病気で親がすぐ迎えにいけない時など利用したいと援助の内容を伝えたが、できない場合もある言われたことがある。提供会員がいない場合もあると思うが、何のためのファミサポか。我が家は市の境で会員も遠いところにいるため、提供会員も絞られるそうです。隣の市のファミサポも利用できないのでしょうか。

- ・ファミリーサポートを知らない人が多い、気軽に利用できるようにもっと宣伝すべきである等広告活動に関する意見等
- ・提供会員の数が足りないと聞いているが存在を知らない方も多いのではと思う。PRがたりないのでは。
- ・妊娠中にもらったパンフレットだったのだが、もっとアピールしてもよい気がする。(知らないお母さんが多いので)
- ・センターの方は親切で気さくでいい方ばかりです。下の子が生まれて登録にうかがったら1年半ぶりに又1回会っただけなのに覚えてくださってうれしかったです。センターの活動を知らないママが多いので虐待防止のためにも乳児医療の保険証の交付の時にアピールしたらいかがでしょうか。
- ・私はリフレッシュと急用の為の時お願いをしました。「ちゃんとした理由」がないと利用できないと思っている人も多いと思うので「子供と距離をおきたい」等でもいいということを広報していただけたらと思います。サポート会員のフォローアップも必要だと思います。個人差があるので。
- ・アドバイザーがいい感じなので、気楽に頼めますが、全体に周知がたりないと思います。また先日参かした臨床心理士の方の講演はとても良かった。

(受付時間など事務局のシステムに対する要望)

- ・急に土曜、日曜に用事が入ってもセンターが休みのため依頼できない。夫は土日の仕事なので。土日やまた当日でも依頼出来る制度にしてほしい。
- ・やっと市にもファミサポができたという事です。あまりよくわからない点もスタッフが丁寧に教えてくれます。しかし、受付時間が9時からというのがお役所仕事だと思います。受付方法も携帯からのアクセス等考えていただきたい。
- ・市のファミサポは土、日でも新規を受け入れてくれたり、相談も個々のニーズに応じてくださいました。一方他市では受講日が決められていて昼間でなかなか行くことが出来ません。依頼側は仕事を持っている人がほとんどなのに実態を省みない姿

勢に、自治体としてやる気があるのか疑問を感じます。

- ・仕事を始めたばかりの時は、慣れない保育園生活で、熱ばかり出していたのでとても助かりました。ただ、依頼する際、電話が16：30頃までにかけなくてはならずとても困っています。預かっていただける人を捜すために民間のベビーシッター会社へ電話をかけてみたこともあります。もう少し連絡ができる時間を長くしていただくとたすかります。
- ・交流会のお誘いがあったが、平日の日中のことで仕事の為参加できませんでした。提供会員に慣れるためには、親子で参加できるような交流会が平日だけでなく、土・日・祝祭日にあればと思う。
- ・説明会を土、日にも開催するようにしたらよいと思います。仕事で休めなくて1年近く登録したくてもできませんでした。以前いた自治体では土日も市役所をあけて催されていたが。
- ・援助会員になるための研修を依頼会員が受けることが出来る土・日曜日にもしていただきたい。
- ・提供会員の方がみなさんとても良い方で助かっていますが、夜間は依頼したことをセンターにFAXですることになっているが、センターに連絡する手段をメールや留守電などでもできるシステムを作してほしい。

(制度に関する要望)

- ・提供会員宅が遠く援助をお願いすることが大変です。自宅に来て頂いて援助サポートして頂くと助かりますが。
- ・依頼会員の家で見てもらえることも可能にしてほしい。
- ・提供会員にも都合があると思うが、出来れば同じ方に見ていただいた方が安心出来る。

- ・提供会員さんが複数の場合、全員と面会する時間がない。それぞれの都合に合わせるのが忙しくて無理。でも子供と面識があったほうが安心。
- ・0歳児の受け入れは世間一般に少ない。しかし本当に必要なところではないでしょうか。今後対象の枠に6ヶ月未満の乳幼児が含まれる考えはないでしょうか。幼稚園や学校の行事などに出かける時などとてもありがたいですが。
- ・いつもとても助かっています。子供も援助会員さんにととてもなついているので安心して仕事ができます。お金の受け渡しはセンターの方が管理してほしいです。金額が間違っていると言いくいので。
- ・ファミサポを利用したいがなんとなく思われている方もいらっしゃると思います。そこでお試し期間や割引制度などがあると利用しやすくなるのではと感じました。
- ・「ボランティア」という考え方について、きちんとお金を払って高くてもよいので割り切って考えられるようなくみにしてほしい。ボランティアというと遠慮もするし頼みづらい。(利用者、提供者の双方が選択登録できる等)
- ・子どもが食物アレルギーなので無理ですが、食事のことも合わせてお願いできるとよい。

(病児、緊急時に預かってほしい)

- ・お世話になっていえたぎりではありませんが、病気時また、急な依頼にも対応してほしい。
- ・ボランティアに不満をいうつもりはないが、結局風邪や伝染病では預かってもらえないと意味がない。
- ・前もってわかっているところに対しては利用しやすいものの、急なことに関しては利用しづらいところがある。また提供会員とのコミュニケーションもとりにくさもある。

- ・提供会員が何人もの子どもを預かっているため、熱、下痢、水痘など大人には感染しないと思う症状でも他の子どもに移るのでは？と心配して預けられない。保育園に預けられない、仕事は休めない誰にも預けられない、でも入院する程ではない病状なので何かとしたい時に預かっていただける所がファミサポと考えるのは間違いなのではないでしょうか。
- ・ファミサポ頼りで仕事をしている。仕事復帰して思うが、子供が病気をしたとき休むことが多く、なかなか信頼される仕事をする自信がない。
- ・子どもが病気の時、2, 3時間でよいので自宅で見てもらえればとても助かります。見て頂く方は大変だと思うがその分利用料が高くても必要ならば利用すると思う。
- ・働きたいが病児保育など子どもが病気などの時に預かってもらえる場所がないという事。
- ・土日祝日、早朝、夜間 病後児など急であっても安全に預けられる所があるとよい。
- ・遅くても前日の申し込み（依頼）でも受け入れてくれるといいと思う。（当日ならなおいい）

（交流会や情報提供を望む意見等）

- ・もっと交流会をふやしてほしい。
- ・助言や説明などセンターの方には丁寧に聞いていただいています。自宅からセンターまで交通の便が悪いので通って情報をえることができませんが、広報誌やホームページ等で活動の状況やイベント研修会のお知らせ等いただけましたら参考になります。
- ・子供とともに参加できる演奏会などがあると大人もリフレッシュできる。又疲れた体もリフレッシュできる。日常公園等で遊ぶことが多いので文化面の企画があるとうれしい。

- ・提供・依頼会員間の交流会をもっともっとしてほしい。
- ・毎月の広報とは別に色々な場所のサポートセンターでの活動を詳しく出してほしい。
- ・個々の家庭で預けるだけでなく何人か集まり野外での活動、ミニキャンプなどといったことができるようになると交流も深まりより広く利用されるのではないかと思う。
- ・急な依頼にも快く応じていただきありがたく思っている。ある程度以上の会員数が必要かと思うが、会員一同が集える会ができればよいように思う。

Ⅲ 集 計 表

1. ファミリー・サポート・センター調査結果

表1.1 センターの運営

表1.1-1 センターの運営方法

直 営	165 (53.2%)
委 託	145 (46.8%)
合 計	310 (100.0%)

表1.1-2 委託先

社会福祉協議会	79 (54.5%)
福祉公社	2 (1.4%)
医療福祉財団	6 (4.1%)
NPO	28 (19.3%)
社会福祉事業団	3 (2.1%)
勤労者福祉事業団	1 (0.7%)
その他	25 (17.2%)
無回答	1 (0.7%)
合 計	145 (100.0%)

表1.2 支部の有無

あ り	18 (5.8%)
な し	290 (93.6%)
無回答	2 (0.6%)
合 計	310 (100.0%)

表1.3 アドバイザーの数

1人	35 (11.3%)
2人	109 (35.2%)
3人	95 (30.6%)
4人	41 (13.2%)
5人以上	27 (8.7%)
無回答	3 (1.0%)
合 計	310 (100.0%)

表1.4 サブリーダーの状況

表1.4-1 サブリーダーの有無

い る	184 (59.4%)
いない	125 (40.3%)
無回答	1 (0.3%)
合 計	310 (100.0%)

表1.4-2 サブリーダーの数

1～5人	91 (49.5%)
6～10人	67 (36.4%)
11～14人	17 (9.2%)
15人以上	9 (4.9%)
合 計	184 (100.0%)

表 1.5 センターの開設時間

表 1.5-1 開設している曜日 (M.A.)

月	火	水	木	金	土	日	合計
294 (94.8%)	303 (97.7%)	304 (98.1%)	308 (99.4%)	310 (100.0%)	94 (30.3%)	29 (9.4%)	310 (100.0%)

表 1.5-2 開設している時間

7:30～22:00	1 (0.3%)	8:50～17:30	1 (0.3%)
8:00～18:00	1 (0.3%)	9:00～16:00	8 (2.6%)
8:15～17:00	2 (0.6%)	9:00～16:30	2 (0.6%)
8:15～17:15	2 (0.6%)	9:00～17:00	103 (33.3%)
8:30～12:00	1 (0.3%)	9:00～17:15	14 (4.5%)
8:30～16:00	1 (0.3%)	9:00～17:30	20 (6.6%)
8:30～17:00	50 (16.2%)	9:00～18:00	12 (4.0%)
8:30～17:15	38 (12.4%)	9:00～18:30	1 (0.3%)
8:30～17:30	3 (1.0%)	9:00～19:00	3 (1.0%)
8:30～18:00	5 (1.6%)	9:00～20:00	1 (0.3%)
8:30～18:30	1 (0.3%)	9:15～17:00	1 (0.3%)
8:30～19:00	5 (1.6%)	9:30～16:30	2 (0.6%)
8:30～19:15	1 (0.3%)	9:30～17:00	5 (1.6%)
8:30～19:30	2 (0.6%)	9:30～17:30	3 (1.0%)
8:30～20:00	2 (0.6%)	9:30～18:00	1 (0.3%)
8:30～21:00	1 (0.3%)	10:00～16:00	1 (0.3%)
8:40～17:25	1 (0.3%)	10:00～17:00	3 (1.0%)
8:45～17:15	4 (1.3%)	10:00～18:00	3 (1.0%)
8:45～19:00	1 (0.3%)	10:00～19:00	2 (0.6%)
8:50～17:20	2 (0.6%)	合 計	310 (100.0%)

表 1.6 センター閉鎖時の依頼への対応 (M.A.)

サブ・リーダーを通して	85 (27.4%)
依頼会員が直接提供会員へ連絡する	203 (65.5%)
対応しない	23 (7.4%)
その他	108 (34.8%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.7 事前打ち合わせをしていない会員 (未登録者含む) からの緊急依頼の対応

対応しない	86 (27.7%)
対応する	224 (72.3%)
合 計	310 (100.0%)

表1.8 活動時間

表1.8-1 提供会員の活動時間の制限

あ り	120 (38.7%)
な し	188 (60.7%)
無回答	2 (0.6%)
合 計	310 (100.0%)

表1.8-2 制限ありの場合の活動時間

4:00～23:59	1 (0.8%)	6:30～21:30	1 (0.8%)
5:00～22:00	1 (0.8%)	6:30～22:00	2 (1.7%)
5:00～24:00	1 (0.8%)	7:00～19:00	7 (5.8%)
6:00～20:00	2 (1.7%)	7:00～18:00	1 (0.8%)
6:00～21:00	1 (0.8%)	7:00～20:00	8 (6.7%)
6:00～22:00	40 (33.4%)	7:00～21:00	19 (15.9%)
6:00～23:00	3 (2.5%)	7:00～22:00	16 (13.4%)
6:00～24:00	1 (0.8%)	7:30～22:00	1 (0.8%)
6:30～21:00	1 (0.8%)	無回答	14 (11.7%)
		合 計	120 (100.0%)

表1.9 活動報酬の基準

表1.9-1 平日時間内（基本料金）

350円	2 (0.6%)	720円	4 (1.3%)
400円	1 (0.3%)	750円	2 (0.6%)
500円	18 (5.8%)	800円	32 (10.4%)
550円	1 (0.3%)	810円	1 (0.3%)
600円	92 (29.8%)	820円	1 (0.3%)
640円	1 (0.3%)	850円	1 (0.3%)
650円	2 (0.6%)	900円	1 (0.3%)
700円	149 (48.2%)	無回答	2 (0.6%)
		合 計	310 (100.0%)

表1.9-2 平日時間外（基本料金に対して）

差額なし	7 (2.3%)	200円増	68 (21.9%)
50円増	4 (1.3%)	250円増	2 (0.6%)
90円増	0	300円増	1 (0.3%)
100円増	193 (62.3%)	400円増	0
120円増	3 (1.0%)	600円増	0
150円増	2 (0.6%)	無回答	27 (8.7%)
180円増	3 (1.0%)	合 計	310 (100.0%)

表 1.9-3 平日深夜料金（基本料金に対して）

差額なし	6 (1.9%)	200円増	27 (8.7%)
50円増	2 (0.6%)	250円増	0
90円増	0	300円増	0
100円増	62 (20.0%)	400円増	0
120円増	0	600円増	1 (0.3%)
150円増	0	無回答	212 (68.5%)
180円増	0	合 計	310 (100.0%)

表 1.9-4 土曜日の時間内料金（基本料金に対して）

差額なし	55 (17.7%)	200円増	65 (21.0%)
50円増	4 (1.3%)	250円増	0
90円増	1 (0.3%)	300円増	0
100円増	176 (56.9%)	400円増	0
120円増	2 (0.6%)	600円増	0
150円増	0	無回答	6 (1.9%)
180円増	1 (0.3%)	合 計	310 (100.0%)

表 1.9-5 土曜日の時間外料金（基本料金に対して）

差額なし	7 (2.3%)	200円増	82 (26.5%)
50円増	1 (0.3%)	250円増	2 (0.6%)
90円増	0	300円増	3 (1.0%)
100円増	88 (28.4%)	400円増	4 (1.3%)
120円増	1 (0.3%)	600円増	0
150円増	2 (0.6%)	無回答	118 (38.1%)
180円増	2 (0.6%)	合 計	310 (100.0%)

表 1.9-6 土曜日深夜料金（基本料金に対して）

差額なし	6 (1.9%)	200円増	36 (11.6%)
50円増	1 (0.3%)	250円増	0
90円増	0	300円増	2 (0.6%)
100円増	38 (12.3%)	400円増	2 (0.6%)
120円増	0	600円増	1 (0.3%)
150円増	0	無回答	224 (72.4%)
180円増	0	合 計	310 (100.0%)

表 1.9-7 日・祝祭日の時間内料金（基本料金に対して）

差額なし	33（10.6%）	200円増	69（22.3%）
50円増	4（1.3%）	250円増	0
90円増	1（0.3%）	300円増	0
100円増	186（60.0%）	400円増	0
120円増	3（1.0%）	600円増	0
150円増	2（0.6%）	無回答	9（2.9%）
180円増	3（1.0%）	合 計	310（100.0%）

表 1.9-8 日・祝祭日の時間外料金（基本料金に対して）

差額なし	7（2.3%）	200円増	79（25.5%）
50円増	1（0.3%）	250円増	2（0.6%）
90円増	0	300円増	3（1.0%）
100円増	84（27.1%）	400円増	4（1.3%）
120円増	0	600円増	0
150円増	2（0.6%）	無回答	127（41.0%）
180円増	1（0.3%）	合 計	310（100.0%）

表 1.9-9 日・祝祭日深夜料金（基本料金に対して）

差額なし	6（1.9%）	200円増	37（12.0%）
50円増	1（0.3%）	250円増	0
90円増	0	300円増	2（0.6%）
100円増	34（11.0%）	400円増	2（0.6%）
120円増	0	600円増	1（0.3%）
150円増	0	無回答	227（73.3%）
180円増	0	合 計	310（100.0%）

表 1.10 会員の登録方法（M.A.）

センター事務局にて登録	296（95.5%）
説明会時に登録	182（58.7%）
申込書郵送にて登録	71（22.9%）
その他	111（35.8%）
無回答	1（0.3%）
合 計	310（100.0%）

表 1.11 通常の援助依頼方法 (M.A.)

センター (アドバイザー) を通す	214 (69.0%)
センターを通さず直接提供会員へ 連絡しその後センターへ連絡	151 (48.7%)
その他	12 (3.9%)
無回答	1 (0.3%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.12 援助対象児

表 1.12-1 援助対象児の年齢制限の有無

あ り	291 (93.9%)
な し	17 (5.5%)
無回答	2 (0.6%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.12-2 援助対象児の年齢

援助対象児の下限年齢		援助対象児の上限年齢	
0歳	107 (36.9%)	6歳	1 (0.3%)
1ヶ月	2 (0.7%)	8歳	1 (0.3%)
43日	8 (2.7%)	9歳	37 (12.8%)
57日	8 (2.7%)	10歳	59 (20.4%)
58日	1 (0.3%)	12歳	181 (62.3%)
2ヶ月	28 (9.7%)	13歳	1 (0.3%)
3ヶ月	64 (22.0%)	15歳	3 (1.0%)
4ヶ月	8 (2.7%)	18歳	5 (1.7%)
6ヶ月	57 (19.7%)	小学校低学年	1 (0.3%)
8ヶ月	0	小学生以下	1 (0.3%)
1歳	3 (1.0%)	無回答	1 (0.3%)
3歳	1 (0.3%)	合 計	291 (100.0%)
産休明け	1 (0.3%)		
首がすわったころ	1 (0.3%)		
無回答	2 (0.7%)		
合 計	291 (100.0%)		

表1.13 宿泊依頼への対応

表1.13-1 宿泊依頼の受け入れの有無

受け入れている	25 (8.1%)
受け入れていない	282 (91.0%)
無回答	3 (1.0%)
合 計	310 (100.0%)

表1.13-2 3ヵ月間の宿泊依頼の有無

あ り	13 (52.0%)
な し	11 (44.0%)
無回答	1 (4.0%)
合 計	25 (100.0%)

表1.14 病児依頼への対応

表1.14-1 病児依頼の受け入れの有無

受け入れている	261 (84.2%)
受け入れていない	48 (15.5%)
無回答	1 (0.3%)
合 計	310 (100.0%)

表1.14-2 3ヵ月間の病児依頼の有無

あ り	218 (83.5%)
な し	38 (14.6%)
無回答	5 (1.9%)
合 計	261 (100.0%)

表1.14-3 受け入れの方法

基準は設けていない (提供会員が承諾すれば受け入れている)	79 (30.3%)
一定の基準を設けている・病気回復期(病後児)	167 (64.0%)
その他	13 (5.0%)
無回答	2 (0.7%)
合 計	261 (100.0%)

表1.15 障害児依頼への対応

表1.15-1 障害児依頼の受け入れの有無

受け入れている	301 (97.1%)
受け入れていない	9 (2.9%)
合 計	310 (100.0%)

表1.15-2 3ヵ月間の障害児依頼の有無

あ り	236 (78.4%)
な し	63 (20.9%)
無回答	2 (0.7%)
合 計	301 (100.0%)

表1.15-3 受け入れの方法

基準は設けていない (提供会員が承諾すれば受け入れている)	256 (85.1%)
一定の基準を設けている	38 (12.6%)
無回答	7 (2.3%)
合 計	301 (100.0%)

表 1.16 料金の回収

表 1.16-1 依頼会員から提供会員への未払いの有無

あ り	130 (41.9%)
な し	177 (57.1%)
無回答	3 (1.0%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.16-2 回収できなかった場合の対処 (M.A.)

センター (又は市) が補助した	4 (12.5%)
提供会員の無償の活動となった	17 (53.1%)
その他	15 (46.9%)
合 計	32 (100.0%)

表 1.17 関連施設や医療機関との連携

表 1.17-1 過去 1 年間の関連施設や医療機関との意見交換や情報交換の有無

あ り	243 (78.4%)
な し	66 (21.3%)
無回答	1 (0.3%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.17-2 方法 (M.A.)

会議の席上	140 (57.6%)
電話等により個別に	168 (69.1%)
その他	71 (29.2%)
無回答	7 (2.9%)
合 計	243 (100.0%)

表 1.18 自治体からの援助

表 1.18-1 自治体からの援助の有無

あ り	34 (11.0%)
な し	273 (88.0%)
無回答	3 (1.0%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.18-2 補助対象者 (M.A.)

一人親家庭 (母子家庭および父子家庭)	11 (32.4%)
母子家庭のみ	2 (5.9%)
多胎児預り	2 (5.9%)
利用者全員	11 (32.4%)
その他	12 (35.3%)
無回答	1 (2.9%)
合 計	34 (100.0%)

表 1.19 新たな活動

表 1.19-1 新たな活動を実施する予定の有無

あ り	60 (19.4%)
な し	247 (79.6%)
無回答	3 (1.0%)
合 計	310 (100.0%)

表 1.19-2 事業の種類 (M.A.)

緊急サポートネットワーク事業	15 (25.0%)
ショートステイ事業	7 (11.7%)
産後サポート事業	20 (33.3%)
ひろば事業	13 (21.7%)
その他	23 (38.3%)
無回答	1 (1.7%)
合 計	60 (100.0%)

表1.20 会員数

		1所あたり平均
提供会員	55,967人 (26.6%)	181.1人
依頼会員	134,124人 (63.8%)	434.1人
両方会員	20,300人 (9.6%)	65.7人
合 計	210,391人 (100.0%)	680.9人

表1.21 会員の年齢

	提供会員	依頼会員	両方会員	合 計
30歳未満	1,953人 (3.5%)	13,892人 (10.4%)	1,565人 (7.7%)	17,410人 (8.3%)
30～40歳未満	8,708人 (15.6%)	85,621人 (63.8%)	12,190人 (60.0%)	106,519人 (50.6%)
40～50歳未満	12,199人 (21.8%)	25,540人 (19.0%)	4,583人 (22.6%)	42,322人 (20.1%)
50～60歳未満	13,830人 (24.7%)	1,506人 (1.1%)	193人 (1.0%)	15,529人 (7.4%)
60～70歳未満	9,412人 (16.8%)	650人 (0.5%)	71人 (0.3%)	10,133人 (4.8%)
70歳以上	1,207人 (2.2%)	177人 (0.1%)	10人 (0.1%)	1,394人 (0.7%)
無回答	8,658人 (15.4%)	6,738人 (5.1%)	1,688人 (8.3%)	17,084人 (8.1%)
合 計	55,967人 (100.0%)	134,124人 (100.0%)	20,300人 (100.0%)	210,391人 (100.0%)

表1.22 男性会員

表1.22-1 男性会員の有無

い る	309 (99.7%)
いない	1 (0.3%)
無回答	0
合 計	310 (100.0%)

表1.22-2 男性会員の内訳

(回答307センター、無回答2センター)

		1所あたり平均
提供会員	1,664人 (20.1%)	5.4人
依頼会員	6,400人 (77.5%)	20.8人
両方会員	202人 (2.4%)	0.7人
合 計	8,266人 (100.0%)	26.9人

表1.22-3 男性提供会員年齢 (回答269センター、無回答40センター)

	提供会員
30歳未満	81人 (6.0%)
30～40歳未満	80人 (6.0%)
40～50歳未満	127人 (9.5%)
50～60歳未満	235人 (17.5%)
60～70歳未満	618人 (46.1%)
70歳以上	200人 (14.9%)
合 計	1,341人 (100.0%)

表 1.23 平成 17 年 4 月～6 月の活動内容別件数

保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	26,013回 (10.1%)
保育所・幼稚園のお迎え及び帰宅後の預かり	76,050回 (29.6%)
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	4,319回 (1.7%)
学童の放課後の預かり	11,949回 (4.7%)
学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	41,082回 (16.0%)
学童保育からの帰宅後の預かり	7,056回 (2.8%)
子どもの病気時の援助	3,184回 (1.2%)
子どもの習い事等の場合の援助	14,425回 (5.6%)
保育所・学校等休み時の援助	4,215回 (1.6%)
保育所等施設入所前の援助	1,969回 (0.8%)
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	12,891回 (5.0%)
保護者等の冠婚葬祭による外出、ほかの子どもの学校行事の場合の援助	3,214回 (1.3%)
保護者等の外出の場合の援助	9,877回 (3.9%)
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	8,036回 (3.1%)
上記以外	32,241回 (12.6%)
合 計	256,521回 (100.0%)

表 1.24 センターの広報活動の場所 (M.A.)

保育園・幼稚園の入園式等	113 (36.5%)
小学校入学説明会等	60 (19.4%)
保健所 (3歳児検診等)	156 (50.3%)
中学校・高校の保護者会等	11 (3.5%)
地域の活動団体	140 (45.2%)
公民館、社会教育会館等の主催事業	116 (37.4%)
市の主催事業	65 (21.0%)
企業に出向いて説明	22 (7.1%)
その他	155 (50.0%)
無回答	26 (8.4%)
合 計	310 (100.0%)

表1.25 講習会・交流会

表1.25-1 提供会員の活動前の講習会の義務付けの有無

い る	246 (79.4%)
いない	62 (20.0%)
無回答	2 (0.6%)
合 計	310 (100.0%)

表1.25-2 講習会終了までの時間
(回答数244、無回答2)

総時間	平均
2,032.4時間	8.3時間

表1.25-3 平成16年度の交流会実施状況

		1所あたり平均
全体交流会	478 (37.1%)	1.5回
地区別交流会	503 (39.1%)	1.6回
会員別交流会	306 (23.8%)	1.0回
合 計	1,287 (100.0%)	4.2回

2. 提供会員調査結果

表2.1 性別

女性	男性	無回答	合計
2,218人 (97.3%)	61人 (2.7%)	1人 (0.0%)	2,280人 (100.0%)

表2.2 年齢

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	合計
0	46人 (2.0%)	364人 (16.0%)	617人 (27.1%)	711人 (31.2%)	507人 (22.2%)	33人 (1.4%)	2人 (0.1%)	2,280人 (100.0%)

表2.3 家族

表2.3-1 同居の家族（M.A.）

配偶者	配偶者の親 自分の親	子ども	いない	その他	無回答	合計
2,004人 (87.9%)	361人 (15.8%)	1,592人 (69.8%)	69人 (3.0%)	83人 (3.6%)	16人 (0.7%)	2,280人 (100.0%)

表2.3-2 同居している子どもの数

1人	606人（ 38.1%）
2人	690人（ 43.3%）
3人	245人（ 15.4%）
4人	42人（ 2.6%）
5人以上	5人（ 0.3%）
無回答	4人（ 0.3%）
合 計	1,592人（100.0%）

表2.3-3 同居している子どもの年齢（M.A.）

就学前	228人（ 14.3%）
小学校低学年	323人（ 20.3%）
小学校高学年	357人（ 22.4%）
中学校	342人（ 21.5%）
高校生以上	962人（ 60.4%）
無回答	23人（ 1.4%）
合 計	1,592人（100.0%）

表2.4 援助活動以外の仕事

表2.4-1 援助活動以外の仕事の有無

あ り	1,188人（ 52.1%）
な し	1,048人（ 46.0%）
無回答	44人（ 1.9%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.4-2 仕事の形態

フルタイムで外で働いている	83人（ 7.0%）
パートタイムで外で働いている	528人（ 44.4%）
主に自宅で働いている	135人（ 11.4%）
登録ヘルパーとして働いている	130人（ 10.9%）
その他	296人（ 24.9%）
無回答	16人（ 1.4%）
合 計	1,188人（100.0%）

表2.5 家族の他の提供会員

表2.5-1 家族の（同居）他の提供会員の有無

い る	201人（ 8.8%）
いない	2,022人（ 88.7%）
無回答	57人（ 2.5%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.5-2 それは誰ですか（M.A.）

配偶者	135人（ 67.2%）
子ども	50人（ 24.9%）
親	24人（ 11.9%）
その他	5人（ 2.5%）
無回答	1人（ 0.5%）
合 計	201人（100.0%）

表2.6 提供会員になったきっかけ

自治体の広報紙を見て	1,342人（ 58.9%）
家族が会員で勧められた	28人（ 1.2%）
友人・知人から口コミ	547人（ 24.0%）
その他	343人（ 15.0%）
無回答	20人（ 0.9%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.7 提供会員になった理由

子どもが好きだから	545人（ 23.9%）
子育ての経験が生かせるから	269人（ 11.8%）
持っている資格を生かしたいため	176人（ 7.7%）
育児の援助をしたいため	697人（ 30.6%）
収入になるから	66人（ 2.9%）
時間があり何かをしたかったから	370人（ 16.2%）
その他	138人（ 6.1%）
無回答	19人（ 0.8%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.8 3ヶ月間の援助活動

表2.8-1 3ヶ月間（平成17年4月1日～6月30日）の援助依頼の有無

あ り	1,768人（ 77.5%）
な し	475人（ 20.8%）
無回答	37人（ 1.7%）
合 計	2,280人（100.0%）

表 2.8-2 援助活動の有無

依頼は全部引き受け援助活動をした	937人 (53.0%)
自分の都合で引き受けなかったことがある	816人 (46.2%)
無回答	15人 (0.8%)
合 計	1,768人 (100.0%)

表 2.8-3 引き受けなかった回数

1回	392人 (49.9%)
2～3回	315人 (40.1%)
4～6回	66人 (8.4%)
7回以上	13人 (1.6%)
合 計	786人 (100.0%)
無回答を除く	
最 大	19回

表 2.9 3ヶ月間の援助内容

表 2.9-1 3ヶ月間の援助内容別活動回数

保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	3,237回 (11.4%)
保育所・幼稚園のお迎え及び帰宅後の預かり	7,426回 (26.2%)
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	875回 (3.1%)
学童の放課後の預かり	995回 (3.5%)
学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	3,786回 (13.4%)
学童保育からの帰宅後の預かり	833回 (2.9%)
子どもの病気時の援助	676回 (2.4%)
子どもの習い事等の場合の援助	1,431回 (5.1%)
保育所・学校等休み時の援助	605回 (2.1%)
保育所等施設入所前の援助	539回 (1.9%)
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	1,325回 (4.7%)
保護者等の冠婚葬祭による外出、ほかの子どもの学校行事の場合の援助	407回 (1.4%)
保護者等の外出の場合の援助	1,400回 (4.9%)
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	719回 (2.5%)
上記以外	4,075回 (14.5%)
合 計	28,329回 (100.0%)

表 2.9-2 3 ヶ月間の総活動回数

回 答	1,589人
総援助回数	28,329回
1人平均	17.8回 (5.9回／1ヶ月)
最 高	202回 (67.3回／1ヶ月)
最 低	1回

表 2.9-3 1 人の援助活動件数

1～10回	819人 (51.5%)
11～20回	284人 (17.9%)
21～30回	184人 (11.6%)
31～40回	104人 (6.5%)
41～50回	81人 (5.1%)
51回以上	117人 (7.4%)
合 計	1,589人 (100.0%)

表 2.10 3 ヶ月間の活動時間

表 2.10-1 3 ヶ月間の活動時間別状況

10時間未満	463人 (20.3%)
10時間～ 30時間未満	511人 (22.4%)
30時間～ 50時間未満	237人 (10.4%)
50時間～100時間未満	253人 (11.1%)
100時間～200時間未満	98人 (4.3%)
200時間以上	24人 (1.1%)
活動なし	73人 (3.2%)
無回答	621人 (27.2%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.10-2 総活動時間

回 答	1,586人
総活動時間	56,958.8時間
1人平均	35.9時間 (12.0時間／1ヶ月)
最 少	0.4時間

表 2.11 3 ヶ月間の収入

表 2.11-1 3 ヶ月間の援助活動による収入金額

5,000円未満	342人 (15.0%)
5,000円～ 20,000円未満	578人 (25.3%)
20,000円～ 50,000円未満	413人 (18.1%)
50,000円～100,000円未満	191人 (8.4%)
100,000円～150,000円未満	40人 (1.8%)
150,000円以上	24人 (1.1%)
収入なし	73人 (3.2%)
無回答	619人 (27.1%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.11-2 総収入金額

回 答	1,588人
総収入金額	42,910,510円
1人平均	27,021円 (9,007円／1ヶ月)
最 少	350円

表2.12 子どもの送り迎えの交通手段（M.A.）

徒歩	572人（25.1%）
自転車	223人（9.8%）
バス・電車等の公的乗り物	69人（3.0%）
タクシー	35人（1.5%）
その他	752人（33.0%）
送り迎えはしていない	573人（25.1%）
無回答	441人（19.3%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.13 援助活動を行った場所（M.A.）

自宅	1,245人（54.6%）
依頼会員の家	263人（11.5%）
公共の施設内	284人（12.5%）
送迎のみ	541人（23.7%）
その他	90人（3.9%）
無回答	618人（27.1%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.14 過去1年間の援助の状況

表2.14-1 当日急な援助依頼の有無

あ り	633人（27.8%）
な し	1,402人（61.5%）
無回答	245人（10.7%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.14-2 援助依頼の回数、（M.A.）

	援助を行った回数
回 答	427人
合 計	1,562回
1人平均	3.7回
無回答	206人

表2.14-3 早朝（8時前）の援助依頼の有無

あ り	394人（17.3%）
な し	1,589人（69.7%）
無回答	297人（13.0%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.14-4 援助依頼の回数、（M.A.）

	援助を行った回数
回 答	283人
合 計	3,910回
1人平均	13.8回
無回答	111人

表 2.14-5 夜 10 時以降の援助依頼の有無

あ り	126人 (5.5%)
な し	1,888人 (82.8%)
無回答	266人 (11.7%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.14-6 援助依頼の回数、(M.A.)

	援助を行った回数
回 答	91人
合 計	440回
1人平均	4.8回
無回答	35人

表 2.14-7 土・日・祝日の援助依頼の有無

あ り	786人 (34.5%)
な し	1,212人 (53.2%)
無回答	282人 (12.3%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.14-8 援助依頼の回数、(M.A.)

	援助を行った回数
回 答	536人
合 計	3,025回
1人平均	5.6回
無回答	250人

表 2.14-9 宿泊の援助依頼の有無

あ り	32人 (1.4%)
な し	1,932人 (84.7%)
無回答	316人 (13.9%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.14-10 援助依頼の回数、(M.A.)

	援助を行った回数
回 答	14人
合 計	69回
1人平均	4.9回
無回答	18人

表 2.14-11 当日急な援助キャンセルの有無

あ り	724人 (31.8%)
な し	1,226人 (53.8%)
無回答	330人 (14.4%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.14-12 キャンセルの回数

	キャンセルを受けた回数
回 答	674人
合 計	1,641回
1人平均	2.4回
無回答	50人

表 2.14-13 当日急な援助変更の有無

あ り	449人 (19.7%)
な し	1,540人 (67.5%)
無回答	291人 (12.8%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.14-14 援助変更の回数、(M.A.)

	援助を行った回数
回 答	205人
合 計	649回
1人平均	3.2回
無回答	244人

(注) 表 2.14 は援助依頼の回数も尋ねているが、回答不明が多く集計不可能のため削除した。

表 2.15 過去1年間の当日急な自分の方からの援助キャンセルの状況

表 2.15-1 援助キャンセルの有無

あ り	234人 (10.3%)
な し	1,904人 (83.5%)
無回答	142人 (6.2%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表 2.15-2 援助キャンセルの回数

回 答	225人
合 計	341回
1人平均	1.5回
無回答	9人

表 2.15-3 援助キャンセルの理由 (M.A.)

自分が病気のため	69人 (29.5%)
家族の病気のため	59人 (25.2%)
自分の用事のため	60人 (25.6%)
家族の用事のため	33人 (14.1%)
その他	45人 (19.2%)
無回答	2人 (0.9%)
合 計	234人 (100.0%)

表 2.15-4 援助キャンセルの場合の
依頼会員への連絡方法 (M.A.)

センターを通して	130人 (55.6%)
サブ・リーダーを通して	7人 (3.0%)
直接依頼会員へ	113人 (48.3%)
無回答	6人 (2.6%)
合 計	234人 (100.0%)

表 2.16 センター活動の良い点 (M.A.)

依頼会員に信頼され、やりがいを感じる	1,484人 (65.1%)
社会参加ができる	991人 (43.5%)
地域に新しい知り合いができる	938人 (41.1%)
自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい	1,401人 (61.4%)
援助している子どもとのふれあいで自分の子どもとの成長や違う面の発見がある	758人 (33.2%)
育児に関する知識や技術を身につけることができる	420人 (18.4%)
育児の経験を生かすことができる	1,194人 (52.4%)
援助費をもらえる	983人 (43.1%)
その他	215人 (9.4%)
特に良いと思うことはない	16人 (0.7%)
無回答	113人 (5.0%)
合 計	2,280人 (100.0%)

表2.17 センター活動で困っている点（M.A.）

依頼が少ない	557人（24.4%）
依頼会員に信頼されていない気がする	17人（0.7%）
育児の考え方について依頼会員と意見が一致しない	37人（1.6%）
有償ということで無理な依頼をする会員がいる	59人（2.6%）
子どもがなつかない	29人（1.3%）
子どもを遊ばせる場所に苦労する	125人（5.5%）
自分の子どもが焼きもちを焼く	61人（2.7%）
講習内容が充分でなく、援助に不安がある	29人（1.3%）
アドバイザーからの話と依頼会員からの依頼内容に食い違いがある	50人（2.2%）
援助費が安い	144人（6.3%）
その他	269人（11.8%）
特に困っていることはない	1,048人（46.0%）
無回答	231人（10.1%）
合 計	2,280人（100.0%）

表2.18 センター活動に対する満足度

大いに満足	192人（8.4%）
満 足	1,442人（63.2%）
少し不満	436人（19.1%）
不 満	61人（2.7%）
無回答	149人（6.6%）
合 計	2,280人（100.0%）

3. 依頼会員調査結果

表 3.1 性別

女性	男性	無回答	合計
1,694人 (96.0%)	68人 (3.9%)	2人 (0.1%)	1,764人 (100.0%)

表 3.2 年齢

20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	無回答	合計
1人 (0.1%)	14人 (0.8%)	158人 (9.0%)	600人 (34.0%)	667人 (37.7%)	247人 (14.0%)	74人 (4.2%)	3人 (0.2%)	1,764人 (100.0%)

表 3.3 仕事

表 3.3-1 仕事の有無

あ り	1,184人 (67.1%)
な し	572人 (32.4%)
無回答	8人 (0.5%)
合 計	1,764人 (100.0%)

表 3.3-2 仕事の形態

フルタイムで外で働いている	722人 (61.0%)
パートタイムで外で働いている	292人 (24.7%)
主に自宅で働いている	108人 (9.1%)
その他	60人 (5.0%)
無回答	2人 (0.2%)
合 計	1,184人 (100.0%)

表 3.3-3 勤務形態

日中の通常勤務	875人 (86.3%)
早朝のみ又は早朝を含んだ勤務	7人 (0.7%)
深夜のみ又は深夜を含んだ勤務	9人 (0.9%)
交替制勤務（早朝・深夜勤務あり）	58人 (5.7%)
交替制勤務（早朝・深夜勤務なし）	15人 (1.5%)
その他	36人 (3.6%)
無回答	14人 (1.3%)
合 計	1,014人 (100.0%)

表 3.3-4 早出や残業の有無

ほとんどない	376人 (43.0%)
月に3～4回程度	219人 (25.0%)
月に10回程度	94人 (10.7%)
月の内半数以上	139人 (15.9%)
その他	40人 (4.6%)
無回答	7人 (0.8%)
合 計	875人 (100.0%)

表 3.3-5 土・日・祝祭日出勤の有無

ほとんどない	485人 (47.8%)
月に1～2回程度	305人 (30.1%)
月に5～6回程度	170人 (16.8%)
月に7回以上	36人 (3.6%)
無回答	18人 (1.7%)
合 計	1,014人 (100.0%)

表3.4 同居の家族（M.A.）

配偶者	1,561人（88.5%）
自分の親・配偶者の親	191人（10.8%）
子ども	1,762人（99.9%）
その他	37人（2.1%）
無回答	2人（0.1%）
合 計	1,764人（100.0%）

表3.5 同居している子ども

表3.5-1 同居している子どもの数

1人	687人（38.9%）
2人	786人（44.6%）
3人	241人（13.7%）
4人	30人（1.7%）
5人以上	3人（0.2%）
無回答	15人（0.9%）
合 計	1,762人（100.0%）

表3.5-2 同居している子どもの年齢（M.A.）

0歳	245人（13.9%）
1歳以上3歳未満	727人（41.3%）
3歳以上就学前	949人（53.9%）
小学校低学年	614人（34.8%）
小学校高学年	221人（12.5%）
中学生以上	116人（6.6%）
無回答	16人（0.9%）
合 計	1,762人（100.0%）

表3.5-3 センターに登録している子どもの数

1人	954人（54.1%）
2人	657人（37.3%）
3人	118人（6.7%）
4人	13人（0.7%）
5人以上	1人（0.1%）
無回答	19人（1.1%）
合 計	1,762人（100.0%）

表3.5-4 センターに登録している子どもの年齢（M.A.）

0歳	185人（10.5%）
1歳以上3歳未満	726人（41.2%）
3歳以上就学前	941人（53.4%）
小学校低学年	583人（33.1%）
小学校高学年	146人（8.3%）
中学生以上	15人（0.9%）
無回答	20人（1.1%）
合 計	1,762人（100.0%）

表3.6 センターに登録している子どもが昼間過ごす場所

表3.6-1 1人（M.A.）

保育所	527人（36.3%）
幼稚園	229人（15.8%）
小学校	356人（24.5%）
学童保育	201人（13.8%）
自宅	519人（35.7%）
祖父母等親戚の家	59人（4.1%）
その他	49人（3.4%）
合 計	1,452人（100.0%）

表3.6-2 2人（M.A.）

保育所	254人（36.2%）
幼稚園	126人（17.9%）
小学校	231人（32.9%）
学童保育	77人（11.0%）
自宅	287人（40.9%）
祖父母等親戚の家	27人（3.8%）
その他	17人（2.4%）
合 計	702人（100.0%）

表3.6-3 3人（M.A.）

保育所	26人（27.1%）
幼稚園	9人（9.4%）
小学校	41人（42.7%）
学童保育	8人（8.3%）
自宅	53人（55.2%）
祖父母等親戚の家	4人（4.2%）
その他	4人（4.2%）
合 計	96人（100.0%）

表3.7 緊急時保育

表3.7-1 同居の家族以外に
緊急時の保育を頼める人の有無

い る	1,090人（61.8%）
いない	651人（36.9%）
無回答	23人（1.3%）
合 計	1,764人（100.0%）

表3.7-2 緊急時保育の依頼先（M.A.）

自分の親・配偶者の親	761人（69.8%）
親戚	98人（9.0%）
近所の知人	111人（10.2%）
友人・知人	198人（18.2%）
その他	99人（9.1%）
無回答	19人（1.7%）
合 計	1,090人（100.0%）

表3.8 依頼会員になったきっかけ

自治体の広報紙・チラシなど	1,124人（63.7%）
テレビ・新聞・雑誌等	30人（1.7%）
友人・知人の口コミ	311人（17.6%）
その他	194人（11.0%）
無回答	105人（6.0%）
合 計	1,764人（100.0%）

表3.9 依頼会員になった理由

保育施設への送迎等、仕事のためにできない時の援助を頼みたいため	767人 (43.5%)
お稽古等子連れでいけない用事で外出する際の援助を頼みたいため	127人 (7.2%)
子育てから解放され、リラックスする時間がほしいため	44人 (2.5%)
いざという時に援助を頼みたいため	604人 (34.2%)
その他	198人 (11.2%)
無回答	24人 (1.4%)
合 計	1,764人 (100.0%)

表3.10 3ヶ月間（平成17年4月～6月）の援助依頼

表3.10-1 3ヶ月間の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
1,028人 (58.3%)	722人 (40.9%)	14人 (0.8%)	1,764人 (100.0%)

表3.10-2 その理由の回数（M.A.）

		回 数	1人当たり回数
仕事のため	678人 (66.0%)	11,893回 (82.4%)	17.5回
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会、お稽古等で外出するため	131人 (12.7%)	451回 (3.1%)	3.4回
他の子どもの学校行事等のため	106人 (10.3%)	311回 (2.2%)	2.9回
自分の体調不良、病気のため	81人 (7.9%)	450回 (3.1%)	5.6回
家族が病気等でみてもらえないため	28人 (2.7%)	115回 (0.8%)	4.1回
その他	164人 (16.0%)	1,212回 (8.4%)	7.4回
無回答	27人 (2.6%)		
合 計	1,028人 (100.0%)	14,432回 (100.0%)	14.4回

表3.10-3 仕事を理由とした援助依頼の状況

1～10回	369人 (54.4%)	41～50回	36人 (5.3%)
11～20回	115人 (17.0%)	51～60回	43人 (6.3%)
21～30回	64人 (9.4%)	61回以上	12人 (1.8%)
31～40回	39人 (5.8%)	合 計	678人 (100.0%)

表3.10-4 援助依頼に対する提供会員の対応

応じてもらった	862人 (83.9%)
断られたことがある	140人 (13.6%)
すべて断られた	8人 (0.8%)
無回答	18人 (1.7%)
合 計	1,028人 (100.0%)

表3.10-5 援助を断られた回数

回 数	145人 272回 (平均1.9回)
無回答	3人

表 3.10-6 援助依頼を断られたときの対応 (M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	83人 (56.1%)
同居の家族に頼んだ	18人 (12.2%)
別居の親戚等に頼んだ	30人 (20.3%)
友人・知人に頼んだ	15人 (10.1%)
ベビーシッターに頼んだ	7人 (4.7%)
他の子育て支援グループに頼んだ	9人 (6.1%)
その他	26人 (17.6%)
無回答	5人 (3.4%)
合 計	148人 (100.0%)

表 3.10-7 依頼しなかった理由 (M.A.)

依頼する必要が生じなかったため	519人 (71.9%)
同居の家族、親戚、友人等に預けたため	190人 (26.3%)
他人に預けることに不安を感じたため	37人 (5.1%)
子どもがなつかないため	17人 (2.4%)
利用料金が高いため	70人 (9.7%)
預けることに家族が反対した	12人 (1.7%)
その他	105人 (14.5%)
無回答	27人 (3.7%)
合 計	722人 (100.0%)

表 3.11 過去1年間の当日急な援助依頼

表 3.11-1 過去1年間の当日急な援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
440人 (24.9%)	1,280人 (72.6%)	44人 (2.5%)	1,764人 (100.0%)

表 3.11-2 その理由の回数 (M.A.)

		回 数	1人当たり回数
仕事のため	247人 (56.1%)	1,178回 (69.0%)	4.8回
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会、お稽古等で外出するため	33人 (7.5%)	81回 (4.7%)	2.5回
他の子どもの学校行事等のため	20人 (4.5%)	38回 (2.2%)	1.9回
自分の体調不良、病気のため	64人 (14.5%)	176回 (10.3%)	2.8回
家族が病気等でみてもらえないため	23人 (5.2%)	54回 (3.2%)	2.3回
その他	82人 (18.6%)	181回 (10.6%)	2.2回
無回答	18人 (4.1%)		
合 計	440人 (100.0%)	1,708回 (100.0%)	4.0回

表 3.11-3 仕事を理由とした当日急な援助依頼の状況

1～10回	228人 (92.3%)	41～50回	0
11～20回	12人 (4.9%)	51～60回	0
21～30回	5人 (2.0%)	61回以上	1人 (0.4%)
31～40回	1人 (0.4%)	合 計	247人 (100.0%)

表 3.11-4 提供会員の対応

応じてもらった	352人 (80.0%)
断られたことがある	62人 (14.1%)
すべて断られた	17人 (3.9%)
無回答	9人 (2.0%)
合 計	440人 (100.0%)

表 3.11-5 断られたときの対応 (M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	38人 (48.1%)
同居の家族に頼んだ	7人 (8.9%)
別居の親戚等に頼んだ	15人 (19.0%)
友人・知人に頼んだ	13人 (16.5%)
ベビーシッターに頼んだ	5人 (6.3%)
他の子育て支援グループに頼んだ	4人 (5.1%)
その他	22人 (27.8%)
無回答	1人 (1.3%)
合 計	79人 (100.0%)

表 3.12 過去1年間の当日急な援助依頼キャンセル

表 3.12-1 過去1年間の当日急な援助依頼キャンセルの有無

あり	なし	無回答	合計
479人 (27.2%)	1,225人 (69.4%)	60人 (3.4%)	1,764人 (100.0%)

表 3.12-2 理由 (M.A.)

仕事や用事が変更となり依頼する理由がなくなった	223人 (46.6%)
同居の家族、親戚、友人等に預けた	50人 (10.4%)
子どもや自分・家族の病気のため	251人 (52.4%)
預けることに家族が反対した	2人 (0.4%)
その他	42人 (8.8%)
無回答	10人 (2.1%)
合 計	479人 (100.0%)

表 3.13 過去 1 年間の当日急な援助内容や時間の変更依頼

表 3.13-1 過去 1 年間の当日急な援助内容や時間の変更依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
386人 (21.9%)	1,349人 (76.5%)	29人 (1.6%)	1,764人 (100.0%)

表 3.13-2 変更の理由 (M.A.)

仕事のため	245人 (63.5%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	19人 (4.9%)
他の子どもの学校行事等のため	27人 (7.0%)
自分の体調不良、病気のため	42人 (10.9%)
家族が病気等でみてもらえないため	38人 (9.8%)
その他	59人 (15.3%)
無回答	5人 (1.3%)
合 計	386人 (100.0%)

表 3.13-3 提供会員の対応

応じてもらった	360人 (93.3%)
断られたことがある	10人 (2.6%)
すべて断られた	0
無回答	16人 (4.1%)
合 計	386人 (100.0%)

表 3.13-4 断られたときの対応 (M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	7人 (70.0%)
同居の家族に頼んだ	2人 (20.0%)
別居の親戚等に頼んだ	0
友人・知人に頼んだ	1人 (10.0%)
ベビーシッターに頼んだ	0
他の子育て支援グループに頼んだ	0
その他	2人 (20.0%)
無回答	0
合 計	10人 (100.0%)

表 3.14 過去 1 年間の早朝（8 時前）の援助依頼

表 3.14-1 過去 1 年間の早朝（8 時前）の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
199人 (11.3%)	1,539人 (87.2%)	26人 (1.5%)	1,764人 (100.0%)

表 3.14-2 その理由（M.A.）

仕事のため	160人（ 80.4%）
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	9人（ 4.5%）
他の子どもの学校行事等のため	12人（ 6.0%）
自分の体調不良、病気のため	8人（ 4.0%）
家族が病気等でみてもらえないため	5人（ 2.5%）
その他	12人（ 6.0%）
無回答	4人（ 2.0%）
合 計	199人（100.0%）

表 3.14-3 提供会員の対応

応じてもらった	190人（ 95.5%）
断られたことがある	2人（ 1.0%）
すべて断られた	0
無回答	7人（ 3.5%）
合 計	199人（100.0%）

表 3.14-4 断られたときの対応（M.A.）

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	2人（100.0%）
同居の家族に頼んだ	0
別居の親戚等に頼んだ	1人（ 50.0%）
友人・知人に頼んだ	0
ベビーシッターに頼んだ	0
他の子育て支援グループに頼んだ	0
その他	0
無回答	0
合 計	2人（100.0%）

表 3.15 過去 1 年間の夜 10 時以降の援助依頼

表 3.15-1 過去 1 年間の夜 10 時以降の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
48人 (2.7%)	1,683人 (95.4%)	33人 (1.9%)	1,764人 (100.0%)

表 3.15-2 その理由 (M.A.)

仕事のため	36人 (75.0%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	7人 (14.6%)
他の子どもの学校行事等のため	1人 (2.1%)
自分の体調不良、病気のため	1人 (2.1%)
家族が病気等でみてもらえないため	2人 (4.2%)
その他	5人 (10.4%)
無回答	1人 (2.1%)
合 計	48人 (100.0%)

表 3.15-3 提供会員の対応

応じてもらえた	47人 (97.9%)
断られたことがある	0
すべて断られた	0
無回答	1人 (2.1%)
合 計	48人 (100.0%)

表 3.16 過去1年間の土・日・祝祭日の援助依頼

表 3.16-1 過去1年間の土・日・祝祭日の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
390人 (22.1%)	1,345人 (76.2%)	29人 (1.7%)	1,764人 (100.0%)

表 3.16-2 その理由 (M.A.)

仕事のため	255人 (65.4%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	55人 (14.1%)
他の子どもの学校行事等のため	38人 (9.7%)
自分の体調不良、病気のため	13人 (3.3%)
家族が病気等でみてもらえないため	10人 (2.6%)
その他	63人 (16.2%)
無回答	3人 (0.8%)
合 計	390人 (100.0%)

表 3.16-3 提供会員の対応

応じてもらえた	340人 (87.2%)
断られたことがある	30人 (7.7%)
すべて断られた	4人 (1.0%)
無回答	16人 (4.1%)
合 計	390人 (100.0%)

表 3.16-4 断られたときの対応 (M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	15人 (44.1%)
同居の家族に頼んだ	5人 (14.7%)
別居の親戚等に頼んだ	6人 (17.6%)
友人・知人に頼んだ	6人 (17.6%)
ベビーシッターに頼んだ	3人 (8.8%)
他の子育て支援グループに頼んだ	1人 (2.9%)
その他	6人 (17.6%)
無回答	1人 (2.9%)
合 計	34人 (100.0%)

表 3.17 過去 1 年間の宿泊依頼

表 3.17-1 過去 1 年間の宿泊依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
11人 (0.6%)	1,730人 (98.1%)	23人 (1.3%)	1,764人 (100.0%)

表 3.17-2 その理由 (M.A.)

仕事のため	6人 (54.5%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	3人 (27.3%)
他の子どもの学校行事等のため	1人 (9.1%)
自分の体調不良、病気のため	1人 (9.1%)
家族が病気等でみてもらえないため	0
その他	0
無回答	1人 (9.1%)
合 計	11人 (100.0%)

表 3.17-3 提供会員の対応

応じてもらった	8人 (72.7%)
断られたことがある	1人 (9.1%)
すべて断られた	1人 (9.1%)
無回答	1人 (9.1%)
合 計	11人 (100.0%)

表 3.17-4 断られたときの対応 (M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	0
同居の家族に頼んだ	0
別居の親戚等に頼んだ	0
友人・知人に頼んだ	0
ベビーシッターに頼んだ	0
他の子育て支援グループに頼んだ	0
その他	2人 (100.0%)
無回答	0
合 計	2人 (100.0%)

表3.18 センターで育児の援助依頼をして良い点（M.A.）

安心して子どもを預けることができる	1,264人（71.7%）
地域につながりができる	576人（32.7%）
交流会などで子育て中の仲間ができる	129人（7.3%）
急な依頼にも快く対応してもらえる	707人（40.1%）
子どもが提供会員の子どもや家族とのふれあいを喜んでいる	660人（37.4%）
提供会員やアドバイザーに子育ての相談ができる	353人（20.0%）
いつでも子どもを預けることができるという安心感がある	1,061人（60.1%）
安い料金で子どもを預けることができる	586人（33.2%）
その他	145人（8.2%）
特に良いと思うことは特にない	36人（2.0%）
無回答	55人（3.1%）
合 計	1,764人（100.0%）

表3.19 センターで育児の援助依頼をして困っている点（M.A.）

提供会員の資質が同じでなく預けるのに不安がある	149人（8.4%）
紹介される提供会員が一定しない	72人（4.1%）
提供会員とのコミュニケーションがない	66人（3.7%）
提供会員宅が遠い	100人（5.7%）
急な依頼に対応してもらえない	162人（9.2%）
提供会員に子どもがなつかない	36人（2.0%）
アドバイザーに相談する雰囲気がない	27人（1.5%）
利用料が高い	336人（19.0%）
その他	239人（13.5%）
困ることはない	673人（38.2%）
無回答	259人（14.7%）
合 計	1,764人（100.0%）

表3.20 センターに対する満足度

大いに満足	408人（23.1%）
満 足	1,006人（57.0%）
少し不満	238人（13.5%）
不 満	34人（1.9%）
無回答	78人（4.5%）
合 計	1,764人（100.0%）

Ⅳ 平成17年度ファミリー・サポート・センター活動状況調査票

ファミリー・サポート・センター用調査票

I センターの概要について

問1 センターの運営方法についてお伺いします。

市直営	1
市からの委託	2

→ 委託先

--

問2 支部は設置されていますか。

あり	1
なし	2

→ その設置箇所数

--

箇所

問3 アドバイザーは何人ですか。

1人	2人	3人	4人	5人以上
1	2	3	4	5

問4 サブ・リーダーはいますか。

いる	1
いない	2

→ 何人いますか。

--

人

問5 センターの開設時間（開設している曜日すべてに○をつけ、開設時間をご記入ください。）

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間	午前	時	分	～	午後	時	分

問6 センター閉鎖時の依頼への対応

サブ・リーダーを通して	1
依頼会員が直接提供会員へ連絡する	2
対応しない	3
その他（具体的に	4

問7 事前打ち合わせをしていない会員（未登録者含む）からの緊急依頼の対応について

対応しない	1
対応する	2

→ どのようにして対応しますか。

--

問8 提供会員の活動時間に制限がありますか。

あり	1
なし	2

→ 活動時間

午前	時	分	～	午後	時	分
----	---	---	---	----	---	---

問9 活動報酬の基準についてご記入ください。

活動日・時間帯						報 酬		
平日	時間内 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
	時間外 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
	深 夜 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
土曜日	時間内 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
	時間外 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
	深 夜 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
日・祝日	時間内 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
	時間外 (	時	分	～	時	分)	1時間	円
	深 夜 (	時	分	～	時	分)	1時間	円

問10 会員の登録方法（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

センター事務局にて登録	1
説明会時に登録	2
申込書郵送にて登録	3
その他（具体的に	4

問11 事前打ち合わせが済んだ依頼会員の通常の援助依頼方法

センター（アドバイザー）を通す	1
センターを通さず直接提供会員へ連絡しその後センターへ連絡	2
その他（具体的に	3

問12 援助対象児の年齢は定めていますか。

いる	☒ 1	→ その年齢
いない	☐ 2	

ケ月～ 歳
 歳～ 歳

問13 宿泊の依頼は受け入れていますか。

いる	☒ 1	→ この3か月間に依頼はありましたか。
いない	☐ 2	

あり	☒ 1
なし	☐ 2

問14 病児の依頼は受け入れていますか。

いる	1
いない	2

→ この3か月間に依頼はありましたか。

あり	1
なし	2

→ どのように受け入れていますか。

基準は設けていない (提供会員が承諾すれば受け入れている)	1
一定の基準を設けている ・ 病気回復期 (病後児)	2
その他 (具体的に)	3

問15 障害児の依頼は受け入れていますか。

いる	1
いない	2

→ この3か月間に依頼はありましたか。

あり	1
なし	2

→ どのように受け入れていますか。

基準は設けていない (提供会員が承諾すれば受け入れている)	1
一定の基準を設けている 基準 (具体的に)	2

問16 活動が始まってから依頼会員から提供会員に支払うのが滞ったり、未払いになったことがありますか。

あり	1
なし	2

→ 滞った報酬の回収にアドバイザーはどのように対応しましたか。
(知った時から回収あるいは未払いになるまでを具体的に書きください。)

回収できなかった場合、どのようにされましたか。

センター (又は市) が補助した	1
提供会員の無償の活動となった	2
その他 (具体的に)	3

→ 何か特別な方法をとっている場合には書きください。

Ⅱ 地域の子育て関連施設や医療機関との連携について

問17 過去1年間に関連施設や医療機関との意見交換や情報交換を行ったことはありますか。

ある	1
ない	2

→ その方法（当てはまるものすべてに○をつけてください。）

会議の席上	1
電話等により個別に	2
その他（具体的に	3

→ その内容を具体的に

問18 ファミリーサポート・センターを利用するにあたり、自治体等から補助がありますか。

あり	1
なし	2

→ 誰が対象ですか（当てはまるものすべてに○をつけてください。）

		補助金額
一人親家庭（母子家庭及び父子家庭）	1	
母子家庭のみ	2	
多胎児預かり	3	
利用者全員	4	
その他（具体的に	5	

※補助金額については（200円/1時間）のように円/単位としてください。

問19 ファミリー・サポート・センターに登録している会員を活用して、新たな活動（産後サポート事業など）を実施する予定はありますか。あるいは実施していますか。

ある	1
なし	2

→ どのような事業ですか。

緊急サポートネットワーク事業	1
ショートステイ事業	2
産後サポート事業	3
ひろば事業	4
その他（具体的に	5

Ⅲ 会員について

問20 会員数

提供会員	人
依頼会員	人
両方会員	人
合 計	人

問21 会員の年齢

	30歳未満	30歳以上～ 40歳未満	40歳以上～ 50歳未満	50歳以上～ 60歳未満	60歳以上～ 70歳未満	70歳以上
提供会員	人	人	人	人	人	人
依頼会員	人	人	人	人	人	人
両方会員	人	人	人	人	人	人
合 計	人	人	人	人	人	人

問22 男性会員はいますか。

いる	1	→ (1) その内訳
いない	2	

提供会員	人
依頼会員	人
両方会員	人
合 計	人

(2) 男性提供会員年齢

	30歳未満	30歳以上～ 40歳未満	40歳以上～ 50歳未満	50歳以上～ 60歳未満	60歳以上～ 70歳未満	70歳以上
提供会員	人	人	人	人	人	人

Ⅳ センター活動について

問23 平成17年4月～6月の内容別活動件数についてご記入ください。件数が0の時は「0」とご記入ください。

① 保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	回
② 保育所・幼稚園お迎え及び帰宅後の預かり	回
③ 保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	回
④ 学童の放課後の預かり	回
⑤ 学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	回
⑥ 学童保育からの帰宅後の預かり	回
⑦ 子どもの病気時の援助	回
⑧ 子どもの習い事等の場合の援助	回
⑨ 保育所・学校等休み時の援助	回
⑩ 保育所等施設入所前の援助	回
⑪ 保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	回
⑫ 保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	回
⑬ 保護者等の外出の場合の援助	回
⑭ 保護者等の病気、その他急用の場合の援助	回
⑮ 上記以外の活動内容を下の空欄に記入のうえ件数をご記入ください	回
・	
・	
合 計	回

ファミリー・サポート・センター事業について国や地方自治体等へのご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて、9月30日までに（財）女性労働協会へご返送ください。

平成17年度ファミリー・サポート・センター活動状況調査

提供会員用調査票

財団法人女性労働協会

この調査は「ファミリー・サポート・センター」の活動状況を調査するもので、ご回答いただいた内容については秘密を守り、他の目的に用いることはありませんので、ありのままお答えください。

記入にあたってのお願い

- ・調査時期 特に、ことわりのない限り、平成17年6月30日現在の状況についてお答えください。
 - ・記入方法 該当する番号に○をつけ、□及び（ ）に必要事項をご記入ください。
 - ・返送方法 ご記入後の調査票は返信用封筒に入れ、9月30日までに（財）女性労働協会へご返送ください
- ※問い合わせ先 この調査についてご質問等がありましたら、下記へお問い合わせください。

TEL : 03-3456-4410 FAX : 03-3456-4420
(財)女性労働協会 担当 辻村
e-mail:hontai@jaaww.or.jp

I あなたのことについてお伺いします。

問1 性別

女 性	男 性
1	2

問2 年齢

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	2	3	4	5	6	7

問3 同居しているご家族（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

配偶者	1
配偶者の親 あなたの親	2
子ども	3
いない	4
その他（ ）	5

→ (2) (3) について
お答え下さい。

(2) 同居している子どもの数

1人	2人	3人	4人	5人以上
1	2	3	4	5

(3) 同居している子どもの年齢（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

就学前	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生以上
1	2	3	4	5

問 4 提供会員としての援助活動以外の仕事の有無

あり	<u>1</u>	→ 仕事の形態
なし	2	

フルタイムで外で働いている	1
パートタイムで働いている	2
自営業などで主に自宅で働いている	3
登録ヘルパーとして働いている	4
その他（具体的に	5

問 5 あなたの他に家族の中（同居している方）にファミリー・サポート・センターの提供会員として登録している方はいますか。

いる	<u>1</u>	→ それは誰ですか（当てはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。）
いない	2	

配偶者	1
子ども	2
親	3
その他（具体的に	4

Ⅱ ファミリー・サポート・センターの活動についてお伺いします。

問 6 提供会員になったきっかけについて、最も当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

自治体の広報紙を見て	1
家族が会員で勧められた	2
友人・知人からの口コミ	3
その他（具体的に	4

問 7 提供会員になった理由について、最も当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

子どもが好きだから	1
子育ての経験が生かせるから	2
持っている資格を生かしたいため	3
育児の援助をしたいため	4
収入になるため	5
時間があり何かをしたかったから	6
その他（具体的に	7

問 8 平成 17 年 4 月 1 日～6 月 30 日の 3 ヶ月間に援助の依頼はありましたか。

あり	<u>1</u>	→ その時どうされましたか。
なし	2	

依頼は全部引き受け援助活動をした	<u>1</u>
自分の都合で引き受けなかったことがある	<u>2</u>

下の□に引き受けなかった回数をご記入ください。

回 ←

問 9 平成 17 年 4 月～6 月の内容別活動件数についてご記入ください。

件数が 0 の時は「0」とご記入ください。

① 保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	回
② 保育所・幼稚園お迎え及び帰宅後の預かり	回
③ 保育所・幼稚園帰宅後の預かり	回
④ 学童の放課後の預かり	回
⑤ 学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	回
⑥ 学童保育からの帰宅後の預かり	回
⑦ 子どもの病気時の援助	回
⑧ 子どもの習い事等の場合の援助	回
⑨ 保育所・学校等休み時の援助	回
⑩ 保育所等施設入所前の援助	回
⑪ 保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	回
⑫ 保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	回
⑬ 保護者等の外出の場合の援助	回
⑭ 保護者等の病気、その他急用の場合の援助	回
⑮ 上記以外の活動内容	回
・	
・	
・	
合 計	回

問10 この 3 か月間の総活動時間を にご記入ください。

約 時間

問11 この 3 か月間の援助時間による収入金額を にご記入ください。

約 円

問12 この 3 か月間の活動で、子どもの送り迎えの交通手段に何を使用しましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

徒歩	1
自転車	2
バス・電車等の公的乗り物	3
タクシー	4
その他 ()	5
送り迎えはしていない	6

問13 この3か月の活動で、援助を行った場所はどこですか（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

自宅	1
依頼会員の家	2
公共の施設内	3
送迎のみ	4
その他	5

問14 過去1年間に次のような依頼はありましたか。ありの場合は1に○をつけ回数をご記入下さい。また、ない場合には2に○をつけてください。

種 類	あり	依頼（キャンセル）を受けた回数	援助を行った回数	なし
① 当日急な援助	1	回	回	2
② 早朝（8時前）の援助	1	回	回	2
③ 夜10時以降の援助	1	回	回	2
④ 土・日・祝日の援助	1	回	回	2
⑤ 宿泊の援助	1	回	回	2
⑥ 依頼者から当日のキャンセル	1	回		2
⑦ 依頼者から当日の変更（時間、内容）	1	回	回	2

問15 過去1年間に当日になり自分から援助のキャンセルをしたことがありますか。ありの場合にはその回数、理由、連絡方法についてご回答ください。

あり	1
なし	2

→ (2) その回数をご記入ください。

回

(3) その理由（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

自分が病気のため	1
家族の病気のため	2
自分の用事のため	3
家族の用事のため	4
その他（具体的に	5

(4) 依頼会員への連絡方法

センターを通して	1
サブ・リーダーを通して	2
直接依頼会員へ	3

問16 ファミリー・サポート・センター活動をやっている良いと思うことについて、次の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

依頼会員に信頼され、やりがいを感じる	1
社会参加ができる	2
地域に新しい知り合いができる	3
自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい	4
援助している子どもとのふれあいで自分の子どもとの成長や違う面の発見がある	5
育児に関する知識や技術を身につけることができる	6
育児の経験を生かすことができる	7
援助費をもらえる	8
その他（具体的に	9
特に良いと思うことはない	10

問17 ファミリー・サポート・センター活動をやっている困っていることについて、次の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

依頼が少ない	1
依頼会員に信頼されていない気がする	2
育児の考え方について依頼会員と意見が一致しない	3
有償ということで無理な依頼をする会員がいる	4
子どもがなつかない	5
子どもを遊ばせる場所に苦勞する	6
自分の子どもが焼きもちを焼く	7
講習内容が充分でなく、援助に不安がある	8
アドバイザーからの話と依頼会員からの依頼内容に食い違いがある	9
援助費が安い	10
その他（具体的に	11
特に困っていることはない	12

問18 あなたは今のファミリー・サポート・センターの活動に満足していますか。

大いに満足	1
満足	2
少し不満	3
不満	4

あなたの所属しているセンター名をご記入ください。

ファミリー・サポート・センター

今の親の子育てについてどう思われますか。ご意見をご記入ください。

ファミリー・サポート・センター活動についてご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて、9月30日までに（財）女性労働協会へご返送ください。

平成17年度ファミリー・サポート・センター活動状況調査

依頼会員用調査票

財団法人女性労働協会

この調査は「ファミリー・サポート・センター」の活動状況を調査するもので、ご回答いただいた内容については秘密を守り、他の目的に用いることはありませんので、ありのままお答えください。

記入にあたってのお願い

- ・調査時期 特に、ことわりのない限り、平成17年6月30日現在の状況についてお答えください。
 - ・記入方法 該当する番号に○をつけ、□及び（ ）に必要事項をご記入ください。
 - ・返送方法 ご記入後の調査票は返信用封筒に入れ、9月30日までに（財）女性労働協会へご返送ください。
- ※問い合わせ先 この調査についてご質問等がありましたら、下記へお問い合わせください。

TEL : 03-3456-4410 FAX : 03-3456-4420
(財)女性労働協会 担当 辻村
e-mail:hontai@jaaww.or.jp

I あなたのことについてお伺いします。

問1 性別

女 性	男 性
1	2

問2 年齢

20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～40歳	40～44歳	45歳以上
1	2	3	4	5	6	7

問3 収入を伴う仕事についてお伺いします。

(1) 仕事をしていますか。

は い	1
いいえ	2

→ (2) 仕事の形態

フルタイムで外で働いている	1
パートタイムで外で働いている	2
自営業や自営業の手伝いなど主に自宅で働いている	3
その他 ()	4

(3) 勤務形態

日中の通常勤務	1
早朝のみ又は早朝を含んだ勤務	2
深夜のみ又は深夜を含んだ勤務	3
交替制勤務（早朝・深夜勤務あり）	4
交替制勤務（早朝・深夜勤務なし）	5
その他（具体的に	6

→ (4) 早出や残業などがありますか。

ほとんどない	1
月に3～4回程度	2
月に10回程度	3
月の内半数以上	4
その他（	5

*早朝：午前5時～8時、深夜：午後10時～午前5時の勤務をいう。

(5) 土、日、祝祭日の出勤はありますか。

ほとんどない	1
月に1～2回程度	2
月に5～6回程度	3
7回以上	4

問4 同居の家族（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

配偶者	1
あなたの親・配偶者の親	2
子ども	3
その他（具体的に	4

問5 同居している子どもの数

1人	2人	3人	4人	5人以上
1	2	3	4	5

(1) 同居している子どもの年齢（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

0歳	1歳以上3歳未満	3歳以上就学以前	小学校低学年	小学校高学年	中学生以上
1	2	3	4	5	6

(2) ファミリー・サポート・センターに登録している子どもの数

1人	2人	3人	4人	5人以上
1	2	3	4	5

(3) センターに登録している子どもの年齢（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

0歳	1歳以上3歳未満	3歳以上就学以前	小学校低学年	小学校高学年	中学生以上
1	2	3	4	5	6

（2人以上いる場合は○をつけ横にその人数を入れてください）

例

小学校低学年
④2人

問 6 センターに登録している子どもが昼間過ごす場所（当てはまる番号すべてに○をつけてください。）

1人

保育所	幼稚園	小学校	学童保育	自宅	祖父母等 親戚の家	その他 ()
1	2	3	4	5	6	7

2人

保育所	幼稚園	小学校	学童保育	自宅	祖父母等 親戚の家	その他 ()
1	2	3	4	5	6	7

3人

保育所	幼稚園	小学校	学童保育	自宅	祖父母等 親戚の家	その他 ()
1	2	3	4	5	6	7

問 7 同居の家族以外に緊急時の保育を頼める人はいますか。

いる	1
いない	2

→それはどなたですか。

あなたの親・配偶者の親	1
親戚	2
近所の住人	3
友人・知人	4
その他（具体的に	5

Ⅱ ファミリー・サポート・センター活動についてお伺いします。

問 8 提供会員になったきっかけについて、最も当てはまる番号 1つ に○をつけてください。

自治体の広報誌・チラシなど	1
テレビ・新聞・雑誌等	2
友人・知人の口コミ	3
その他（具体的に	4

問 9 依頼会員になった理由について、最も当てはまる番号 1つ に○をつけてください。

保育施設への送迎等、仕事のためにできない時の援助を頼みたい	1
お稽古等子連れでいけない用事等で外出する際の援助を頼みたい	2
子育てから開放され、リラックスする時間がほしいため	3
いざという時に援助を頼みたいため	4
その他（具体的に	5

問10 平成17年4月～6月のこの3か月間に援助を頼んだことがありますか。

あり	1
なし	2

(5)についてお答えください

→ (1) 理由別依頼回数 (回数をご記入ください。)

① 仕事のため	回
② 冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会、お稽古等で外出するため	回
③ 他の子どもの学校行事等のため	回
④ 自分の体調不良、病気のため	回
⑤ 家族が病気等で見てもらえなかったため	回
⑥ その他 (具体的に)	回

(2) そのときの援助は応じてもらえましたか

応じてもらえた	1
断られたこともある	2
すべて断られた	3

→ (3) (4) についてお答えください。

→ (3) (4) についてお答えください。

(3) 断られた回数
をご記入ください。 回

(4) その時どうしましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

→ (5) 依頼しなかった理由 (当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

依頼する必要が生じなかったため	1
同居の家族、親戚、友人等に預けたため	2
他人に預けることに不安を感じたため	3
子どもがなつかないため	4
利用料金が高いため	5
預けることに家族が反対した	6
その他 (具体的に)	7

問11 過去1年間に当日急に援助を頼んだことがありますか。

あり	1
なし	2

→ (1) その理由 (回数をご記入ください。)

仕事のため	回
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会、お稽古等で外出するため	回
他の子どもの学校行事等のため	回
自分の体調不良、病気のため	回
家族が病気等で見てもらえなかったため	回
その他 (具体的に)	回

(2) そのときの援助は応じてもらえましたか

応じてもらった	1
断られたことがある	2
すべて断られた	3

→ (3) についてお答えください。

→ (3) についてお答えください。

(3) 断られた時どうしましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

問12 過去1年間に当日急に援助の依頼をキャンセルしたことがありますか。

あり	1
なし	2

→ その理由 (当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

仕事や用事が変更となり依頼する理由がなくなった	1
同居の家族、親戚、友人等に預けた	2
子どもや自分・家族の病気のため	3
預けることに家族が反対した	4
その他 (具体的に)	5

問13 過去1年間に当日急に援助の内容や時間を変更したことがありますか。

あり	1
なし	2

→ (1) その理由 (あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

仕事のため	1
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	2
他の子どもの学校行事等のため	3
自分の体調不良、病気のため	4
家族の病気のため	5
その他 (具体的に)	6

(2) その時応じてもらえましたか。

応じてもらった	1
断られたことがある	2
すべて断られた	3

→ (3) についてお答えください。

→ (3) についてお答えください。

(3) 断られた時どうしましたか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事を取りやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

問14 過去1年間に早朝 (8時前) の援助を依頼したことはありますか。

あり	1
なし	2

→ (1) その理由 (当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

仕事のため	1
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	2
他の子どもの学校行事等のため	3
自分の体調不良、病気のため	4
家族の病気のため	5
その他 (具体的に)	6

(2) その時応じてもらえましたか。

応じてもらった	1
断られたことがある	2
すべて断られた	3

→ (3) についてお答えください。

→ (3) についてお答えください。

(3) 断られた時どうしましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

問15 過去1年間に夜10時以降の援助を依頼したことがありますか。

あり	1
なし	2

→ (1) その理由 (当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

仕事のため	1
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	2
他の子どもの学校行事等のため	3
自分の体調不良、病気のため	4
家族の病気のため	5
その他 (具体的に)	6

(2) その時応じてもらえましたか。

応じてもらった	1
断られたことがある	2
すべて断られた	3

↓
(3) 断られた時どうしましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

問16 過去1年間に土、日、祝祭日に援助を依頼したことはありますか。

あり	1
なし	2

→ (1) その理由 (当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

仕事のため	1
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	2
他の子どもの学校行事等のため	3
自分の体調不良、病気のため	4
家族の病気のため	5
その他 (具体的に)	6

(2) その時応じてもらえましたか。

応じてもらった	1
断られたことがある	2
すべて断られた	3

→ (3) についてお答えください。

→ (3) についてお答えください。

(3) 断られた時どうしましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

問17 過去1年間に子どもの宿泊を依頼したことはありますか。

あり	1
なし	2

→ (1) その理由 (当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

仕事のため	1
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	2
他の子どもの学校行事等のため	3
自分の体調不良、病気のため	4
家族の病気のため	5
その他 (具体的に)	6

(2) その時応じてもらえましたか。

応じてもらった	1
断られたことがある	2
すべて断られた	3

→ (3) についてお答えください。

→ (3) についてお答えください。

(3) 断られた時どうしましたか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親戚等に頼んだ	3
友人・知人に頼んだ	4
ベビーシッターに頼んだ	5
他の子育て支援グループに頼んだ	6
その他 (具体的に)	7

問18 ファミリー・サポート・センターで育児の援助依頼をしていて良いと思うことについて、次の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

安心して子どもを預けることができる	1
地域につながりができる	2
交流会などで子育て中の仲間ができる	3
急な依頼にも快く対応してもらえる	4
子どもが提供会員の子どもや家族とのふれあいを喜んでいる	5
提供会員やアドバイザーに子育ての相談ができる	6
いつでも子どもを預けられるという安心感がある	7
安い料金で子どもを預けることができる	8
その他 (具体的に)	9
良いと思うことは特にない	10

問19 ファミリー・サポート・センターで育児の援助依頼をしていて困っていることについて、次の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

提供会員の資質が同じでなく預けるのに不安がある	1
紹介される提供会員が一定しない	2
提供会員とのコミュニケーションがない	3
提供会員宅が遠い	4
急な依頼に対応してもらえない	5
提供会員に子どもがなつかない	6
アドバイザーに相談する雰囲気がない	7
利用料が高い	8
その他（具体的に)	9
困ることはない	10

問20 あなたは今のファミリー・サポート・センターの活動に満足していますか。

大いに満足	1
満足	2
少し不満	3
不満	4

あなたの所属しているファミリー・サポート・センター名をご記入ください。

ファミリー・サポート・センター

子育てについてのご意見、ご要望をご記入ください。

ファミリー・サポート・センター活動についてご意見、ご要望がございましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて、9月30日までに（財）女性労働協会へご返送ください。

緊急サポートネットワーク事業との連携をめざして
(平成17年度ファミリー・サポート・センター活動状況調査結果報告書より)

平成18年3月

発 行	財団法人 女性労働協会
住 所	〒107-0073 東京都港区三田3-5-21 三田北島ビル4階
	TEL 03-3456-4410 FAX 03-3456-4420

印刷・製本 株式会社デヤンテイシステムサービス